

各教科WGにおける議論の補足イメージ 及び教科の目標、見方・考え方、 資質・能力の全体構造（素案）

- ※各ワーキンググループにおいて検討中のたたき台であり、今後変更の可能性があります
- ※以下、「知識及び技能に関する統合的な理解」を「統合的な理解」、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を「総合的な発揮」と記載する
- ※以下、「知識及び技能に関する統合的な理解」を「統合的な理解」、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を「総合的な発揮」と記載する
- ※内容項目例は基本的に現行学習指導要領をもとに記載したものであり、次期学習指導要領における内容項目を確定したものではない
- ※各ワーキンググループにおける議論を踏まえ、第14回教育課程企画特別部会（令和8年2月2日）時点より表現を変更・加筆した箇所を黄色マーカー、記載を簡略化した箇所を青マーカーにて示す
（表の煩雑化を避けるため具体的な変更履歴の表示は割愛）

**国語WGにおける議論の補足イメージ
及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	日常生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に触れながら親しむことができるようにする。	国語で筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程に気を付けながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を育み、我が国の言語文化に触れ、国語を尊重する態度を養う。
中学校	社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に親しみながら理解できるようにする。	国語で論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を確かめながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する態度を養う。
高等学校	生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質を深く理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化を深く理解できるようにする。	国語で論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。

見方・考え方

- 自分や他者の言葉を、意味や働き、使い方や表現の意図に着目して多面的・多角的に吟味し、多様な立場や考えを理解して、丁寧に言葉を選び、よりよく伝え合うこと

資質・能力全体構造（素案）

			話すこと・聞くこと		
小学校	思考力・判断力・表現力等		総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
			相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	事実や知識の整理と理解	・紹介や説明、報告などをする
				考えや主張の理由付けと吟味	・説明や報告などを聞いて、感想を伝えたり自分の考えをもったりする
				思いや経験の表出と想像	・経験や思いを伝えたり、それらを聞いて感想をもったりする
				協働による深化や合意	・尋ねたり応答したり、話し合いの進行を工夫したりするなどして、互いの発言を関連付けて考えをまとめる
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとまり（仮称）	内容項目例
			日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造	・話の構成や展開、話の種類とその特徴 ・段落の役割、場面の設定
				表現の仕方	・音節と文字との関係、アクセントや抑揚、間の取り方 ・比喩や反復などの表現の工夫 ・引用の仕方 ・描写の仕方、図表の用い方
				情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
				情報の信頼性	・発信元や発信時期の確認、初歩的な情報の信頼性の確かめ方
		②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解	事項のまとまり（仮称）	内容項目例
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・書き言葉と話し言葉 ・漢字を読む、漢字を書く、漢字の構成 ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い ・時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
				伝統的な言語文化	・伝統的な言語文化に親しむ ・古典に表れたものの見方や考え方
				書写	・文字の書き方、姿勢、筆記具の持ち方、選び方、筆順 ・文字文化を親しむ
				読書	・選書の仕方、読書の意義や効用の実感 ・読書計画の立て方、読書記録の取り方

資質・能力全体構造（素案）

		書くこと		
小学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
		相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。	事実や知識の整理と理解	・記録や説明、報告などの文章を書く
			考えや主張の理由付けと吟味	・理由に基づいて意見を述べる文章を書く
			思いや経験の表出と想像	・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章を書く
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとめ（仮称）
			日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	内容項目例
				話や文章の構造
				表現の仕方
		②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	情報と情報との関係
				情報の信頼性
				言語のきまりや使い方
				伝統的な言語文化
		②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	書写
				読書

資質・能力全体構造（素案）

			読むこと		
小学校	思考力・判断力・表現力等		総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
			状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。	事実や知識の整理と理解／考えや主張の理由付けと吟味	・説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ
				思いや経験の表出と想像	・文学的な文章の内容を理解して自分の考えをもつ
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとめ（仮称）	内容項目例
			日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	音読	・音読、朗読
				話や文章の構造	・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴 ・段落の役割、場面の設定
				表現の仕方	・音節と文字との関係 ・比喩や反復などの表現の工夫、引用の仕方 ・描写の仕方、図表の用い方
				情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
				情報の信頼性	・発信元や発信時期の確認、初歩的な情報の信頼性の確かめ方
		②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解	事項のまとめ（仮称）	内容項目例
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・書き言葉と話し言葉 ・漢字を読む、漢字を書く、漢字の構成 ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い ・時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
				伝統的な言語文化	・伝統的な言語文化に親しむ ・古典に表れたものの見方や考え方
				書写	・文字の書き方、姿勢、筆記具の持ち方、選び方、筆順 ・文字文化を親しむ
				読書	・選書の仕方、読書の意義や効用の実感 ・読書計画の立て方、読書記録の取り方

資質・能力全体構造（素案）

		話すこと・聞くこと		
中学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
		相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	事実や知識の整理と理解	・説明や解説などをする
			考えや主張の理由付けと吟味	・説明や解説、主張などを聞いて自分の考えをもつ
			協働による深化や合意	・根拠に基づいて主張などを述べる
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとまり（仮称）
			社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	内容項目例
				・文の成分の順序や照応など文の構成 ・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴 ・段落の構造 ・場面の設定
			話や文章の構造	・分かりやすく明瞭な話し方 ・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果（古典等の一節の引用を含む） ・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表の用い方や効果
			表現の仕方	
			情報と情報との関係	
			情報の信頼性	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
			情報と情報との関係	・情報の信頼性の確かめ方
	知識及び技能	②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解	事項のまとまり（仮称）
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	内容項目例
				・言語が共通にもつ言葉の働き ・書き言葉と話し言葉 ・漢字の読み方・書き方、漢字の構成 ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き ・敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い ・時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
			言葉のきまりや使い方	・音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむ ・古典に表れたものの見方や考え方
			伝統的な言語文化	
			書写	
			読書	・楷書や行書の書き方 ・文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書く
			読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

資質・能力全体構造（素案）

		書くこと		
中学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
		相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。	事実や知識の整理と理解	・説明や解説などの文章を書く
			考えや主張の理由付けと吟味	・根拠に基づいて主張する文章などを書く
			思いや経験の表出と想像	・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く
	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとまり（仮称）	内容項目例
		社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造	・文の成分の順序や照応など文の構成 ・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴 ・段落の構造 ・場面の設定
			表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果（古典等の一節の引用を含む） ・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表の用い方や効果
			情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
			情報の信頼性	・情報の信頼性の確かめ方
	知識及び技能	統合的な理解	事項のまとまり（仮称）	内容項目例
		幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・書き言葉と話し言葉 ・漢字の読み方・書き方、漢字の構成 ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き ・敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い ・時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
			伝統的な言語文化	・音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむ ・古典に表れたものの見方や考え方
			書写	・楷書や行書の書き方 ・文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書く
			読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

資質・能力全体構造（素案）

		読むこと		
中学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
		状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。	事実や知識の整理と理解	・説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ
			考えや主張の理由付けと吟味	・論説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ
			思いや経験の表出と想像	・文学的な文章の内容を理解して自分の考えをもつ
	知識及び技能	統合的な理解	事項のまとめ（仮称）	内容項目例
		社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造	・文の成分の順序や照応など文の構成 ・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴 ・段落の構造 ・場面の設定
			表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果（古典等の一節の引用を含む） ・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表の用い方や効果
			情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
			情報の信頼性	・情報の信頼性の確かめ方
		統合的な理解	事項のまとめ（仮称）	内容項目例
		幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・書き言葉と話し言葉 ・漢字の読み方・書き方、漢字の構成 ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き ・敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い ・時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
			伝統的な言語文化	・音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむ ・古典に表れたものの見方や考え方
			書写	・楷書や行書の書き方 ・文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書く
			読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

資質・能力の全体構造（素案）

話すこと・聞くこと				
高等学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
			事実や知識の整理と理解	・説明や解説などをする
			考えや主張の理由付けと吟味	・説明や解説、主張などを聞き、質問したり反論したりする
			協働による深化や合意	・根拠に基づいて意見や主張を述べる
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	事項のまとめ（仮称）
				内容項目例
				文、話、文章の構成や特徴 ・段落の構造
				文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果 ・図表の用い方や効果
				情報と情報との関係 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方
		②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	事項のまとめ（仮称）
				内容項目例
				言葉のきまりや使い方 ・言語が共通にもつ言葉の働き ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 ・漢字の読みと書き ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化
				読書 ・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校

		書くこと		
思考力・判断力・表現力等		総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
		相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えを論拠を明確にして伝えることができる。	事実や知識の整理と理解	・説明や解説を述べる文章を書く
			考えや主張の理由付けと吟味	・意見や考えを論述する
知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとめ（仮称）	内容項目例
		生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造	・文、話、文章の構成や特徴 ・段落の構造
			表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果 ・図表の用い方や効果
			情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理
			情報の信頼性	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方
	②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解	事項のまとめ（仮称）	内容項目例
		幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 ・漢字の読みと書き ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化
			読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

資質・能力の全体構造（素案）

		読むこと		
高等学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮 状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
			事実や知識の整理と理解	・説明や解説が述べられている文章の内容を理解して、自分の考えをもつ
			考えや主張の理由付けと吟味	・主張や意見が述べられている文章の引用を理解して、自分の考えをもつ
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとまり（仮称）
			生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	内容項目例
			話や文章の構造	・文、話、文章の構成や特徴 ・段落の構造
			表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果 ・図表の用い方や効果
			情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理
			情報の信頼性	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方
		②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解	事項のまとまり（仮称）
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	内容項目例
			言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 ・漢字の読みと書き ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化
			読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

資質・能力の全体構造（素案）

			書くこと		
高等学校	思考力・判断力・表現力等		総合的な発揮	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
			相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、思いを効果的に伝えることができる。	思いや経験の表出と想像	・自分の知識や経験を基に、思いや経験、想像したことを伝える文章を書く
	知識及び技能	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解	事項のまとまり（仮称）	内容項目例
			生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造	・文、話、文章の構成や特徴 ・場面の設定
				表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・情景や心情、行動などの描写の仕方
				古典を読むためのことばのきまり	・文語のきまりや訓読、古典特有の表現
	知識及び技能	②各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面	統合的な理解	事項のまとまり（仮称）	内容項目例
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 ・漢字の読みと書き ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化
				伝統的な言語文化	・我が国の文化と外国の文化との関係 ・我が国の文化・言語文化の特質 ・作品の歴史的・文化的背景 ・伝統的な言語文化に親しむ
				読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

資質・能力の全体構造（素案）

		読むこと		
高等学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮 状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。	話や文章の機能（仮称）	内容項目例
			思いや経験の表出と想像	・経験や想像したこと、感じたことを表した文章を読み、自分の考えをもつ
			伝統的な言語文化の継承と創造	・古典としての古文や漢文、我が国の伝統や文化に関連する文章を読み、我が国の言語文化について自分の考えをもつ
	①各領域の学習の過程で生かし深める側面	統合的な理解 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	事項のまとまり（仮称）	内容項目例
			話や文章の構造	・文、話、文章の構成や特徴 ・場面の設定
			表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・情景や心情、行動などの描写の仕方
	知識及び技能	②各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面	古典を読むためのことばのきまり	・文語のきまりや訓読、古典特有の表現
			事項のまとまり（仮称）	内容項目例
			言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 ・漢字の読みと書き ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化
			伝統的な言語文化	・我が国の文化と外国の文化との関係 ・我が国の文化・言語文化の特質 ・作品の歴史的・文化的背景 ・伝統的な言語文化に親しむ
			読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

高次の資質能力を含む全体の構成イメージ（中）

目標等			
（柱書）	（資質・能力の趣旨）について、（学習過程）を通して、次のとおり育成することを目指す		
	（資質・能力の柱ごとの目標）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力・人間性等
	（見方・考え方）（対象）を（教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え、（教科固有の考え方や判断の仕方）すること。		

全領域共通の内容

内容 A話すこと・聞くこと

思・判・表	高次の資質・能力	話や文章の機能（仮称）	資質・能力（概略）
	〇〇できる	〇〇〇〇	
		〇〇〇〇	⋮
①知識・技能	高次の資質・能力	事項のまとまり（仮称）	資質・能力（概略）
	〇〇できる	〇〇〇〇	
			⋮

領域ごとに示す

内容 B書くこと

思・判・表	〇〇できる	〇〇〇〇	
①知・技	〇〇できる	〇〇〇〇	

原則、領域ごとに共通の内容で示す

内容 C読むこと

思・判・表	〇〇できる	〇〇〇〇	
①知・技	〇〇できる	〇〇〇〇	
②知・技	〇〇できる	〇〇〇〇	⋮

全領域共通の内容

主に、各領域の学習で必要となる知識及び技能を活用して、思考・判断・表現する

主に、基盤となる文化的な知識や態度、教養として深める

「話や文章の機能（仮称）」による再整理のイメージ

第2回WG提案
言葉を使う目的 （仮称）
情報の伝達/ 情報の獲得
他者の説得/ 他者の主張の吟味
感動の共有/ 感動への共感
合意形成
古典に学ぶ ※高等学校



今回の提案			
話や文章の機能 （仮称）	社会的な文脈の中で 果たす主な機能	話や文章の種類（例）	話や文章の機能を踏まえた 思考・判断・表現の要素（イメージ）
事実や知識の 整理と理解	事物や事象の構造・しくみ・意味・特徴・因果関係などを整理し、筋道立てて分かりやすく示すことを通して、理解を促す機能	・説明や解説をする話（紹介、報告、説明、解説など） ・説明や解説をする文章（報告文、記録文、説明文、解説文など）	・相手や目的に応じて重要な情報を見極めて関係を整理し、構成や表現の仕方を工夫して伝える。 ・内容を理解し、既有的知識や経験と関係付けながら意味付けたり考えたりする。
考えや主張の 理由付けと吟味	考えや主張を、理由や根拠と結び付けて筋道立てて示すことを通して、判断や納得を促し、必要に応じて考えや行動に働きかける機能	・主張や提案を述べる話（主張、提案など） ・意見、主張や提案を述べる文章（論説、批評など）	・考えや主張を支える理由や根拠を組み立て、相手や目的に応じて構成や表現の仕方を工夫して伝える。 ・考えや主張と理由・根拠との関係を捉え、その妥当性を判断し、納得したり批判的に検討したりする。
思いや経験の 表出と想像	経験や想像した出来事・情景、思いや心情などを多様な表現の工夫によって描き出すことを通して、想像し、感じたり考えたりすることを促す機能	・経験や想像したこと、感じたことを表す文章（詩、短歌、俳句、随筆、物語、小説など）	・経験や思い、想像した世界を、目的に応じて、構成、語り方、描写、技法などを工夫して描き出す。 ・目的に応じて、表現された内容を想像し、意味付けたり考えたりするとともに、解釈や評価を深める。
協働による 深化や合意	他者と協働して互いの考えや情報を出し合い、吟味・調整することを通して、理解や考えを深め、必要に応じて合意形成や意思決定に向かうことを促す機能	・質疑応答、議論や討論などの話し合い	・自分の考えや情報を伝え合うとともに、他者とやり取りしながら、理解や考えを修正・補強する。 ・互いの考えの共通点や相違点を捉えて整理し、折り合いを付けたり方向付けたりする。
伝統的な言語 文化の 継承と創造	時代を越えて先人の知や洗練された言語感覚を伝えることを通して、その重要性を理解し、意義や価値を現代に生かすことを促す機能	・近世までに書かれた文章（古文・漢文など）	・作品の内容や解釈を踏まえ、自分の考えを深め、伝統的な言語文化について自分の考えをもつ。 ・古典の意義や価値を理解し、現代における新たな価値の創出について考える。

※「話や文章の種類（例）」は、現行学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の(2)で示している言語活動例を基に概略のみを示している。
 ※実際の話や文章は、それぞれが上記の機能を複合的に果たしている場合も考えられる。一方、ここでの「話や文章の機能（仮称）」は、児童生徒が学習で扱う話や文章について、その主な機能を示すものであり、これらの「話や文章の機能（仮称）」と関連付けながら学習指導要領の内容項目を整理・構造化することをねらいとしている。

「思考力、判断力、表現力等」及び「知識及び技能」の事項の整理イメージ
※中学校2年生「書くこと」領域の例

令和8年4月6日国語WG（第7回）【資料1】P5
令和8年5月11日国語WG（第9回）【資料1】P13
を基に作成（新規追加）

〔思考力、判断力、表現力等〕※「話や文章の機能（仮称）」ごとに、「①話や文章の種類」「②学習過程で働かせる資質・能力の要素」に基づき、事項を作成することを想定

話や文章の機能 （仮称）	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素	
		考えの形成	表現・推敲
事実や知識の整理と理解	説明や解説をする文章	- 社会生活の中から題材を決め、伝えたい事実や事柄を整理する - 整理した事実や事柄の意味や関係が明確になるように論理的な構成や展開を工夫する	- 読み手が理解できるように表現を工夫して記述する - 相手や状況、目的に応じた表現になるように整える
考えや主張の理由付けや吟味	意見を述べる文章	- 社会生活の中から題材を決め、自分の意見を明確にする - 自分の意見と根拠、異なる立場との違いが明確になるように論理的な構成や展開を工夫する	- 読み手が納得できるように表現を工夫して記述する - 相手や状況、目的に応じた表現になるように整える
思いや経験の表出と想像	経験や想像したこと、感じたことを表す文章	- 自分が伝えたい思いや経験、想像したことを明確にする - 内容を効果的に伝えるために場面の展開や構成などを工夫する	- 読み手が実感をもって想像できるように表現を工夫して記述する - 相手や状況、目的に応じた表現になるように整える

〔知識及び技能〕

(1)各領域の学習の過程で生かし深める事項（仮称）

事項のまとめり（仮称）	知識・技能の主な性質（概略）
音読（小）	「読むこと」：文字や語句を正確に捉え、声に出して流暢に読むことを通して、文や文章の内容を確かに理解するための基盤として働かせる知識・技能
話や文章の構造	「読むこと」「聞くこと」：段落や場面、構成や展開を手掛かりに内容を理解・解釈するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：考えや内容を筋道立てて組み立てるために働かせる知識・技能
表現の仕方	「読むこと」「聞くこと」：文の組立て、語句の選択、描写、表現の技法、引用、図表などの効果を捉えるために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：意味や意図が伝わるようにそれらの表現を工夫するために働かせる知識・技能
情報と情報との関係	「読むこと」「聞くこと」：話や文章に含まれる情報同士の関係を整理して内容を理解するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：根拠と主張、原因と結果、具体と抽象などの関係を明確にして考えを形成するために働かせる知識・技能
情報の信頼性	「読むこと」「聞くこと」：情報の根拠や出典、発信元などを確かめて内容を吟味するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：信頼できる情報を根拠として用い、妥当な考えや内容を伝えるために働かせる知識・技能
古典を読むための言葉のきまり（高）	「読むこと」：古典作品の解釈や内容理解のために働かせる知識・技能

(2)各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める事項（仮称）

事項のまとめり（仮称）	知識・技能の主な性質（概略）
言葉のきまりや使い方	言葉の働き、書き言葉と話し言葉、漢字、語彙、単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、言葉遣い、時代・地域・世代による言葉の違いなどについて理解し、我が国の言葉がもつ体系性や変化、多様性への理解を深めるとともに、適切で豊かな言語使用の基盤を形成するための知識・技能
伝統的な言語文化	音読するなどして我が国の伝統的な言語文化の世界に親しむとともに、そこに表れたものの見方や考え方について歴史的・文化的背景を踏まえながら理解することを通して、我が国の言語文化の特質や価値を捉えるための知識・技能
読書	自らの興味・関心や目的に応じて本や資料を選び、様々な文章や作品に継続的に親しむとともに、読書経験を通して考えたこと、感じたことなどを伝え合い、読書の意義や効用を実感することを通して、自立的な読書習慣を形成するための知識・技能
書写（小・中）	姿勢、筆記具の扱い、点画、筆順、字形、文字の配列、楷書・行書などの書き表し方を理解し、読みやすく整った文字を、相手や目的に応じて効果的に書くとともに、文字文化への理解を深めるための知識・技能

※表中の「①話や文章の種類」「②学習過程で働かせる資質・能力の要素」は現時点でのイメージであり、詳細は別途検討する予定。
※学校種・学年ごとに示す「話や文章の種類」は、対象とする話題や題材等の内容が発達段階に適したものとなるように事項の文言で示すことや「指導計画の作成と内容の取扱い」等で例示することが考えられる。
※個別の内容の具体的な位置付け方や示し方は、今後、告示文を検討する中で整理する。

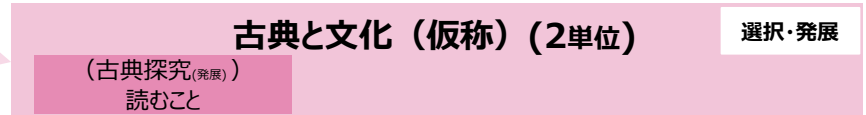
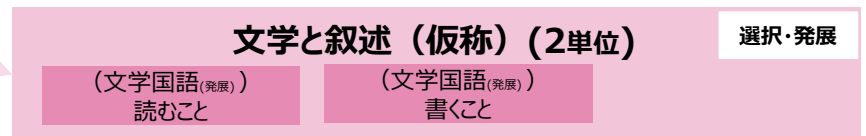
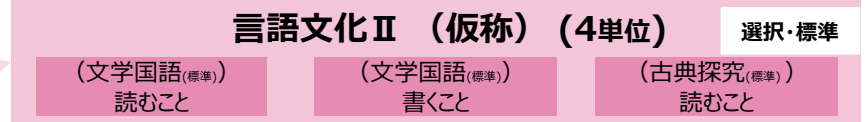
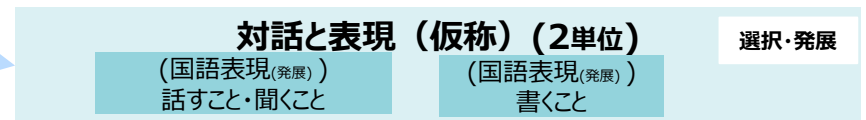
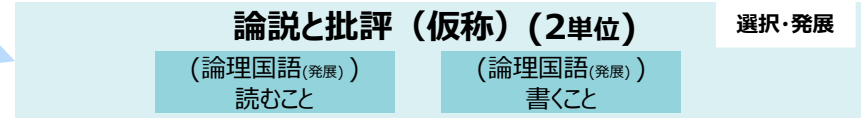
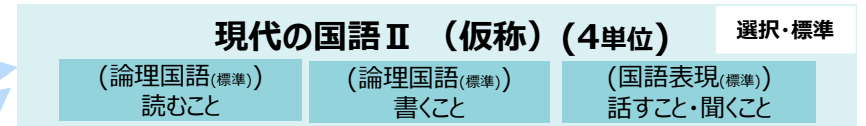
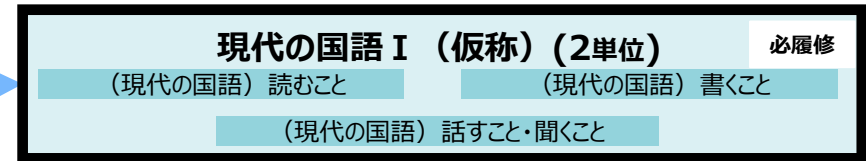
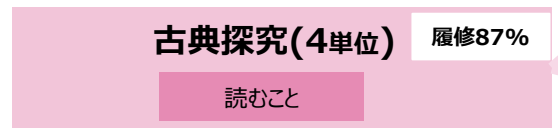
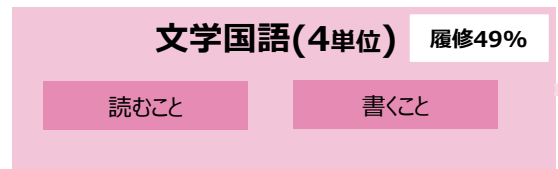
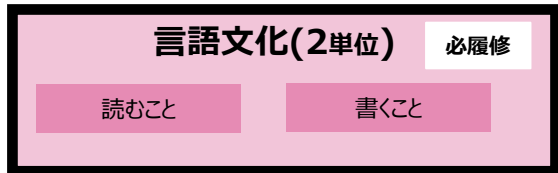
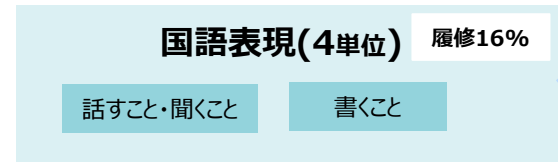
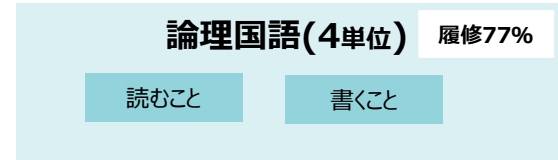
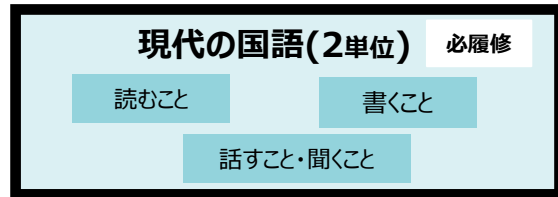
科目構成の見直しイメージ(全体像)

【現行】

【見直し案】

主に論理的思考力や
コミュニケーション能力の育成

主に感性・情緒や古典の意義
や価値を考える力の育成



「主に論理的思考力やコミュニケーション能力の育成」は、論理的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力の育成、
「主に感性・情緒や古典の意義や価値を考える力の育成」は、深く共感したり豊かに想像したりする力、先人のものの見
方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を中心とした科目群
※ 現行の「%」は教科書の需要数を基に推計した履修率

教育課程全体で育む「言語能力」が働くイメージ

AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、
自らの意思や考えの形成・表現や、他者の経験・感情の理解といった人間ならではの言語能力を重視

受信

内容を正確に理解するとともに、発信者の経験・感情・意図を掴みながら、自己の考えを豊かに形成

構造と内容の理解・解釈

➤ 言語情報の正確な把握

理解のための方略を工夫しながら、
受け取った言語情報の構造や内容を正確に把握

各教科等の特質に応じた指導例：

- 教科書や資料のどこを読めば必要な情報を得られるのかなど各教科固有の文章の読み方を理解させる
- 重要な語句に線を引いたりメモしたり、理解できないときに前に戻って読み直したり質問したり、要点を図式化するなど理解を助ける方略を適用できるようにする

➤ 自分なりの意味の理解・解釈

正確な把握と同時に、既有の知識と結びつけたり多様な視点から検討したりしながら、
自己にとっての深い意味理解・解釈の形成

各教科等の特質に応じた指導例：

- 黒板をただ写し取るのではなく自分の知っていることや考えたこと他の人の考えなども関連付けて書き加えるなどしてまとめられるようにする
- 学習の要点として理解したことに加えて、一般化して言えること、具体的な事例、より詳しく知りたいことなどを説明させる

考えの形成

➤ 発信者の経験・感情等を踏まえた考えの形成

発信者の経験・感情・思考・意図を推察したり、それらを踏まえ自らの意思をもち考えを形成するなど、
自他の経験や感情、意思と結びつける

各教科等の特質に応じた指導例：

- 他者の発言等の要点を理解した上で、発言の背景となる考えや経験、感情について推察できるようにする
- 理解・解釈した内容について、自分はどう思うか、どうしたいかを理由とともに明確にし、相互に交流することを通して自分の考えを補強したり見直したりできるようにする

表現・推敲

➤ 表現の過程での柔軟な調整

表現した後や表現の過程においても、他者の受け取りを推察しながら、
表現の内容や方法を柔軟に調整し、必要に応じて修正する

各教科等の特質に応じた指導例：

- メモをそのまま読むのではなく、相手の反応を見ながら言葉を選び直したり、非言語的手段を駆使したり、意図が十分に伝わっていないようなら表現した内容でも修正して話せるようにする
- 一度書き上げた文章を読み手の立場から読み直したり、互いに読み合ったりして、目的・場面・相手に応じた表現になるように修正できるようにする

➤ 表現の前の省察や吟味

表現しようとする内容や構成・表現形式が、真に表現の目的を達成するか、
意図しない結果を招かないか等の視点から省察し、表現を吟味する

各教科等の特質に応じた指導例：

- 表現を構想した後すぐに発表・記述等をするのではなく、表現の受け取り等を想定させ、省察・吟味できるようにする
- 表現しようとする内容や構成・表現形式を相互に参照し、受け取り方や改善の余地などについて検討させる

考えの形成

➤ 目的・場面・相手を踏まえた内容・構成の検討

自らの意思をもち考えを形成するとともに、形成した自らの考えや意図が目的に沿ったものか、相手に正確に伝わるかなどの視点から内容や構成、表現形式を検討

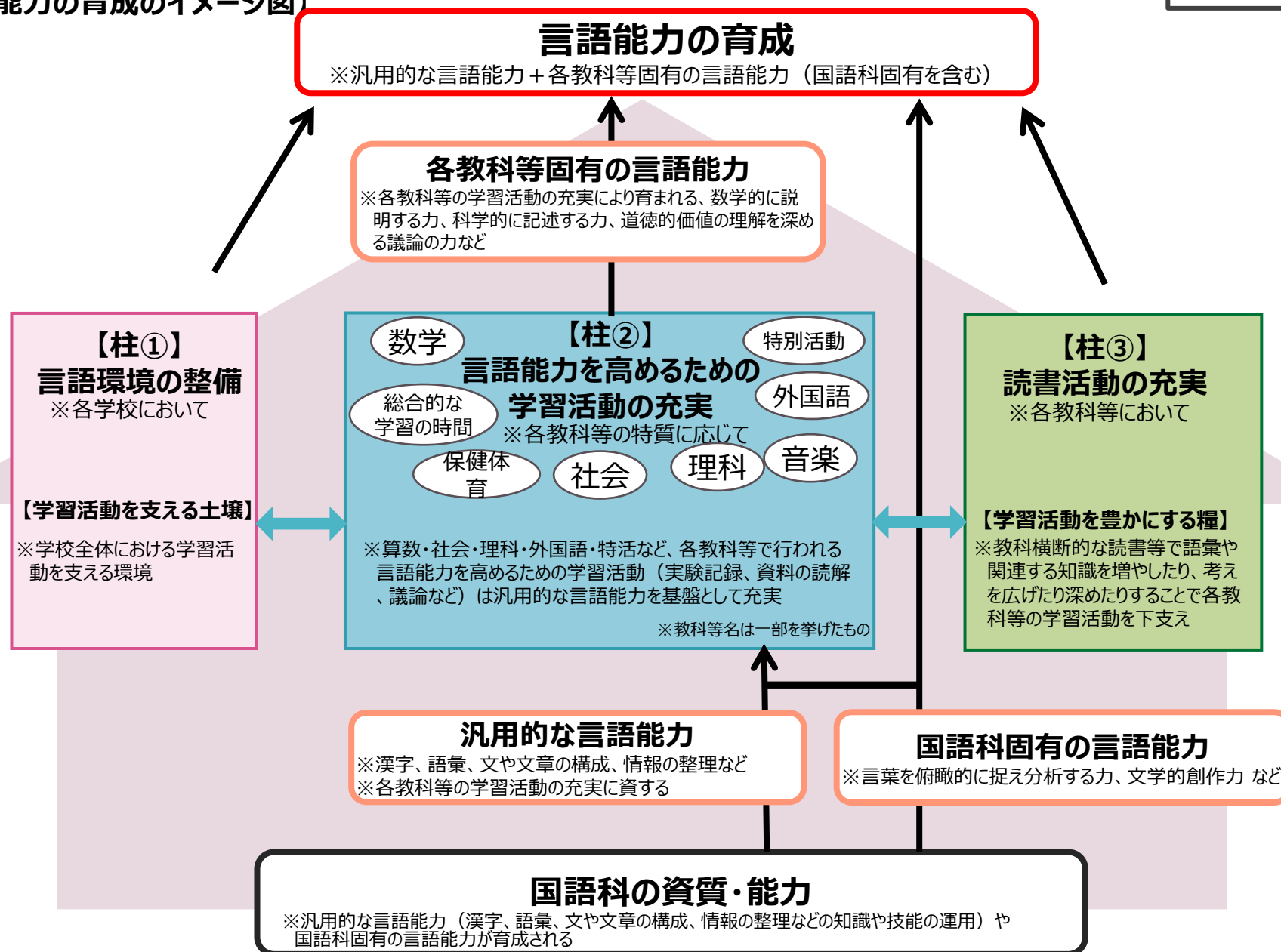
各教科等の特質に応じた指導例：

- 作品製作、レポート、発表などの多様な表現活動の中で、自分の考えや意図が目的や条件などを十分に踏まえているかを検討させる
- 目的や場面、相手に応じて言語情報を補足するのに効果的なメディアを選択し活用できるようにする

相手にどう受け取られるかを想像しつつ、自己の考えが伝わるよう工夫しながら豊かに表現

発信

【言語能力の育成のイメージ図】





外国語WGにおける議論の補足イメージ 及び教科の目標、見方・考え方、 資質・能力の全体構造（素案）

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	外国語活動	外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	ごく身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるときにも、相手を理解しようとする態度を養う。
	外国語	外国語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして、伝え合うことができる基礎的な力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。
中学校		外国語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。
高等学校		外国語の特徴やきまり及び【P】言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

見方・考え方

- 外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	外国語活動	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	領域		内容項目例（第3学年相当）		内容項目例（第4学年相当）	
			ごく身近な 事柄 について、 ・ 情報などを聞き、内容を 捉える ことに慣れ親しむことができる。【理解する】 ・ 相手を意識しながら、 自分の考え などを話して伝えることに慣れ親しむことができる。【表現する】 ・ 相手を意識しながら、 自分の考え などを伝え合うことに慣れ親しむことができ、相手を理解しようとする。【伝え合う】	聞くこと	話題	相手のことや身の回りの物について ごく身近な事柄について ※後半以降を想定			
					条件	ゆっくりはっきりと話されれば			
					できること	（ア）簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることに慣れ親しむことができる			
				話すこと（やり取り）	話題	基本的なやり取りに関する事柄について 自分ことや身の回りの物について 自分や相手のこと及びごく身近な事柄について ※後半以降を想定			
					条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて			
					できること	（ア）挨拶、感謝、指示をしたりそれらに応じたりすることに慣れ親しむことができる （※基本的なやり取りに関する事柄に対応） （イ）動作を交えながら、自分の考えや気持ちを伝え合うことに慣れ親しむことができる （※自分のことや身の回りの物に対応） （ウ）サポートを受けて、質問をしたり質問に答えたりすることに慣れ親しむことができる （※自分や相手のこと及びごく身近な事柄）			
				話すこと（発表）	話題	身の回りの物について 自分のことについて ごく身近な事柄について ※後半以降を想定			
					条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて			
					できること	（ア）人前で実物などを見せながら、話すことに慣れ親しむことができる			
小学校	外国語活動	知識及び技能	統合的な理解	領域		内容項目例（第3学年相当）		内容項目例（第4学年相当）	
			音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。	英語の特徴等に関する事項	ア 音声	英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く			
					イ 文字	文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かる ・ 文字の名称を表す読み方を聞いて、大文字や小文字と結びつけられる ・ 身の回りの物を表す語句の発音を聞いて、何を指しているか分かる			
				【P】言語の働きに関する事項 (pragmatic competence)	次の事項について、使用される場面やその働きに、体験的に気付く				
					ア【P】対人関係形成・創造（interpersonal）		・・・		
					イ【P】情報交換・要件遂行（transactional）		・・・		
					ウ【P】問題解決・合意形成（evaluative）		・・・		
				文化に関する事項	・ 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く ・ 異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める				

資質・能力の全体構造（素案）

総合的な発揮		領域	内容項目例（第5学年相当）		内容項目例（第6学年相当）
外国語 小学校（1/2） 思考力、判断力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、 ・ 聞いて情報を整理し、音声で十分に慣れ親しんだ表現等の意味を考えながら読むことができる。 【理解する】 ・ 自分の考えなどを整理し、表現等を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ表現等を用いて、書いて伝えることができる。 【表現する】 ・ 相手の考えなどを踏まえ、自分の考えなどを、表現等を選んで伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。 【伝え合う】	聞くこと	話題	自分のことや相手のことについて 身近な事柄について	
			条件	ゆっくりはっきりと話されれば	
			できること	（ア）簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる （イ）具体的な情報を聞き取ることができる ※後半以降を想定 （ウ）短い話の概要を捉えることができる	
		読むこと	話題	自分のことや相手のことについて 身近な事柄について ※後半以降を想定	
			条件	音声で十分に慣れ親しんだ上で	
			できること	（ア）簡単な語句や基本的な表現を 読んでその意味を理解することができる （イ）簡単な語句や基本的な表現から 具体的な情報を読み取る得ることができる	
		話すこと（やり取り）	話題	基本的なやり取りに関する事柄について 自分のことや相手のこと及び身近な事柄について 自分のことや相手のこと及び身近な事柄について	
			条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること	（ア）挨拶をしたり、指示や依頼に応じたりすることができる（※基本的なやり取りに関する事柄に対応） （イ）自分の考えや気持ちなどを述べ合うことができる（※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応） （ウ）その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる （※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応）	
		話すこと（発表）	話題	自分のことや身近な事柄について	
			条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること	（ア）自分の考えや気持ちを話すことができる （イ）自分の考えや気持ちを伝えようとする内容を整理した上で、話すことができる	
		書くこと	話題	自分のことや相手のことについて 身近な事柄について ※後半以降を想定	
			条件	音声で十分に慣れ親しんだ上で	
			できること	（ア）自分の考えや気持ちなどを表す語句や表現の一部を書き写すことができる （イ）例となる語句や表現を参考に、自分の考えや気持ちなどを表す語句や表現を選んで書くことができる	

資質・能力の全体構造（素案）

		統合的な理解	領域		内容項目例（第5学年相当）	内容項目例（第6学年相当）	
小学校 (2/2)	外国語	音声、語彙、表現及び文構造並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせることで、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴等に関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。また、聞いたり話したりする際に、音声の特徴に気付き、場面に応じて活用できる …		
				イ 文字及び符号	英語の文字を識別し、その読み方を発音したり、大文字、小文字を書いたりできるようにすることができる。また、符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面に応じて活用できる ・ 大文字や小文字の形を認識し、名称の読みができる ・ 音声と語句や表現を結びつけたり、音声と文字との関係に慣れ親しんだりすることができる ・ コミュニケーションを行うために文字を書くことを意識させ、文字の形や長さなどを理解して、丁寧に語句や表現を書き写すことができる ・ 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号の使い方を理解することができる		
				ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現が用いられる場面において、音声を中心に意味や使い方を理解することができる …		
				エ 文及び文構造	日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、場面に応じて活用できる。なお、文を書き写す際には、語と語の区切りに注意して書き写すことができる ・ 文 … ・ 文構造 …		
		【P】言語の働きに関する事項	次の事項について、使用される場面と関連付けながら、コミュニケーションを通して意味や働きを体験的に理解し、活用できる				
		ア …	…				

資質・能力の全体構造（素案）

中学校 (1/2)	外国語	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	領域		内容項目例 (第1学年相当)	内容項目例 (第2学年相当)	内容項目例 (第3学年相当)
			コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】	聞くこと	話題	日常的な話題について 身近な社会的な話題について ※後半以降を想定		
					条件	簡単な語句や文で、はっきりと話されれば		
				読むこと	できること	(ア) 必要な情報を聞き取ることができる (イ) 概要を捉えることができる (ウ) 要点を捉えることができる		
					条件	簡単な語句や文で書かれた		
				話すこと (やり取り)	できること	(ア) 必要な情報を読み取ることができる (イ) 概要を捉えることができる (ウ) 要点を捉えることができる		
					話題	日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について） 身近な社会的な話題について ※後半以降を想定		
				話すこと (発表)	条件	簡単な語句や文を用いて		
					できること	(ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） (イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し伝え合うことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる		
				書くこと	できること	(ア) 自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） (イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを話すことができる		
						(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる (イ) 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる (ウ) 聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる		

資質・能力の全体構造（素案）

中学校 (2/2)	外国語	知識及び技能	統合的な理解	領域	内容項目例 (1 学年相当)	内容項目例 (第 2 学年相当)	内容項目例 (第 3 学年相当)
			音声、語彙、表現、文構造及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる	
					イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面や状況に応じて活用できる	
					ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に、文脈に応じて活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、場面や状況に応じて活用できる	
					エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味、形式及び働きを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる	
						・ 文 …	
						・ 文構造 …	
						・ 文法事項 …	
			【P】言語の働きに関する事項	次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる	ア …	…	

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校（１／２）

外国語

思考力、判断力、表現力等

総合的な発揮	領域		内容項目例
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、考えを形成してまとめることができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】	聞くこと	話題	日常的な話題について 身近なものを含む社会的な話題について
		条件	話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、対話や基本的な構成の叙述、説明、放送、意見などを聞いて、
		できること	(ア) 話し手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応） (イ) 概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）
		読むこと	条件
	できること		(ア) 書き手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応） (イ) 概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）
	話すこと（やり取り）	条件	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、
		できること	(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝えることができる (イ) 聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝えることができる
	話すこと（発表）	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、
		できること	(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝えることができる (イ) 聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝えることができる
	書くこと	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて
できること		(ア) 情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して書いて伝えることができる (イ) 聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して書いて伝えることができる	

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校 (2/2)	外国語	知識及び技能	統合的な理解	領域		
			音声、語彙、表現及び文法並びに【P】言語の働きなどの知識を、場面や状況に応じて組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に、場面や状況に応じて活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる
						…
					イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に場面や状況に応じて活用できる
						…
					ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に、文脈に応じて活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、場面や状況に応じて活用できる
						…
					エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味、形式及び働きを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる
						- 文 … - 文構造 … - 文法事項…
				【P】言語の働きに関する事項	次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる	
					ア …	…

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校（１／２）

外国語

思考力、判断力、表現力等

総合的な発揮	領域		
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して伝え合うことができ、相互理解を図ることができる。【伝え合う】		話題	日常的な話題について 身近なものを含む社会的な話題について
	話すこと（やり取り）	条件	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
		できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合うやり取りが円滑に進むように方策を講じながら、会話を継続することができる（※日常的な話題に対応） （イ）やり取りを通して必要な情報を得ることができる（※日常的な話題に対応） （ウ）ディスカッションやディベートにおいて、聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、構成や表現等を工夫して、情報や意見、主張などを話して伝え合うことができる
	話すこと（発表）	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
		できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、構成や表現等を工夫して話して伝えることができる（※日常的な話題に対応） （イ）スピーチやプレゼンテーションなどにおいて、聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、構成や表現等を工夫して、情報や自分の意見、主張などを話して伝えることができる
	書くこと	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
		できること	（ア）オンライン上などで、情報や自分の考え、気持ちなどを書いて伝え合うやり取りを行うことができる（※日常的な話題に対応） （イ）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、構成や表現等を工夫して叙述文、説明文、意見文などを書いて伝えることができる （ウ）聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、構成や表現等を工夫して、叙述文、説明文、意見文などの形式で、情報や意見、主張などを書いて伝えることができる

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校 (2/2)	外国語	知識及び技能	統合的な理解	領域		
			音声、語彙、表現、文法、 文章の構成及び論理の 展開並びに【P】言語の働 きなどの知識を、場面や 状況に応じて組み合わせ て使うことにより、英語に よる理解や表現の質が高 まることを理解している。	英語の特 徴やきまり に関する事 項	ア 音声	音声の特徴を理解し、話す際に、場面や状況に応じて活用できる
						…
					イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、書く際に活用できる
						…
				ウ 語、連 語及び 慣用表 現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる	
						…
				エ 文、文 構造及 び文法 事項	文、文構造及び文法事項の意味と形式及び働きを理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる	
						…
				オ 文章の 構成、展 開及び表 現	様々な論理の構成・展開及びそれらに応じた表現を理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる	
						…
			【P】言語の 働きに関する 事項	次の事項について、使用される場面や状況でどのような働きをするのかを理解し、話したり書いたりする際に、場面や状況に応じて活用できる		
				ア …	…	

構造化のイメージ（中学校の例）

令和7年12月24日
外国語WG（第6回）
【資料】P 16
（会議後修正）

現状

外国語の目標

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・
人間性等

英語の目標（領域別目標）

聞く
こと

読む
こと

話すこと
(やり取り)

話すこと
(発表)

書く
こと

内容

知識及び技能

音声/符号/語、連語及び慣用表現/文、文構造及び文法事項

思考力・判断力・表現力等

情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、
伝え合ったりすることに関する事項

言語活動及び言語の働きに関する事項

言語活動(例)

聞く
こと

読む
こと

話すこと
(やり取り)

話すこと
(発表)

書く
こと

言語の使用場面(例)

言語の働き(例)

内容の取扱い

言語材料の段階的な指導、指導内容や指導方法の工夫 など

※改善イメージにおいても引き続き記載

改善イメージ

外国語の目標

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・
人間性等

英語の目標

英語の目標は3つ
の柱で整理

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・
人間性等

内容

思考力・判断力・表現力等

CEFRの分類も踏ま
えて3つに整理

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
(理解する) (表現する) (伝え合う)

聞く
こと

読む
こと

話すこと
(やり取り)

話すこと
(発表)

書く
こと

「並行」パターンで示す

知識及び技能

知識及び技能に関する統合的な理解

言語の働きを「知・
技」に位置付ける

音声/符号/語、連語及び慣用表現/文、文構造及び文法事項、言語の働き(例) など

※技能は5領域と関連付けて示す

内容の取扱い

言語活動(例)

「内容」は資質・能力に限
定し、「言語活動の例」と
「言語の使用場面の例」
は内容の取扱いへ

聞く
こと

読む
こと

話すこと
(やり取り)

話すこと
(発表)

書く
こと

言語の使用場面(例)

AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」の再整理（Ver. 3）

－ 自らの人生を舵取りできる、多様な他者と協働できる資質・能力への貢献の観点から －

1. 言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

● 異なる言語・文化への理解を促す

- 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
- 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
 - ➡ 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性

● 母語や自国の文化のメタ認知を促す

- 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
- 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される

● コミュニケーションへの深い理解を促す

- 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
 - ・相手の言葉や意図の受け止め方（聞く・読む）
 - ・相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ（「やさしい日本語」にも繋がる）（話す・書く）
- 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
- ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫（アイコンタクト、間の取り方、身振り・手振り等）
 - ➡ 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

2. 自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること

● 外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される

- 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
- 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される（再掲）
 - ➡ アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性

● 人間関係の質・量が豊かになり、得られる情報も増える

- 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
- 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
- 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を発見できたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も

※現在のAI技術を前提とした場合ではあるが、AIにより手軽に翻訳・通訳が可能となる中であっても、出力の正確性・適切性を批判的に検討したり、ツールの力も使いつつも、リアルなコミュニケーションを行ったりするためには相応の英語力が必要という視点や、外国語によるコミュニケーションのためにAI技術を効果的に活用する力が必要という視点もある

※これらは外国語を学校教育で必修とすることの意義を卒業後も継続的に学習した場合も想定しながら整理したものであり、これらの全てが、全ての児童生徒において、初等中等教育の過程で高いレベルで発現すると考えているものではない

※AI技術が今後も予想を超える速さで進歩することを踏まえると、AIに代替されるべきではない、人間に残したい部分は何かを重視する必要（下線部分）

よりよい社会 （社会のウェルビーイング）

- 多様性の包摂、国内外の多様な他者との共生・共創
- グローバルな視点・情報を駆使した価値創造・課題解決
- 持続可能な民主主義・平和な社会の構築

幸福な人生 （個人のウェルビーイング）

- 国内外の多様な他者と直に意思疎通できる安心感・自信、豊かな人間関係
- 言葉の壁や国境を越えて自らの人生を舵取り（進学・留学・就職）
- 思考の多様性・柔軟性、価値観の再構築

**社会・地理歴史・公民WGにおける
議論の補足イメージ及び
教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	- 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化に関する学習を通して社会生活に関する概念について理解する。 - 様々な資料や調査活動を通して確かな情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を養う。 - 社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を養う。 - 考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 - 自らの考えを問い返し、捉え直す力を養う。	- 社会的事象について、よりよい社会を考え見通しを立てたり、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に問題解決しようとする態度を養う。 - 多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

見方・考え方

- 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と 市区町村 - 市 区町村の様子 -	身近な地域や市区町村は、地形や交通、公共施設など様々な場所による違いがあること、時間の経過とともに移り変わってきたことなどを基に成り立っていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、市区町村の地理的環境や移り変わり、人々の生活の変化について考えたり、これからの市の発展を考えたりして、表現することができる。
		内容項目例 (1) 身近な地域や市区町村の様子	
		都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などを、観察・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、場所による違いを考え、表現する。
		内容項目例 (2) 市の様子の移り変わり	
		自分たちの市は、時間の経過に伴い、交通網が整備されてきたこと、公共施設などが建設されてきたこと、土地利用の様子や人口が変化してきたこと、生活で使う道具などが改良され変わってきたことなどを、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、それらの変化を考え、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と 市区町村 - 地 域に見られる生 産や販売の仕事 /地域の安全を 守る働き -	・地域に見られる生産や販売の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることや消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めようと工夫して行われていることを理解する。 ・地域の安全を守る働きは、関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解する。	・位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、生産や販売の仕事について多角的に考え、表現することができる。 ・人々の相互関係などの視点に着目して、地域の安全を守る活動の様子について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
		内容項目例 (3) 地域に見られる生産や販売の仕事	
		(ア) 地域には様々な生産に関する仕事があり、産地は市内に分布していること、一定の順序や工程があること、地域の人々の生活に使われていることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。 (イ) 販売の仕事は、様々な工夫をして販売していること、商品や人を通して国内の他地域や外国とも関わりがあることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	(ア) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、関連を考え、表現する。 (イ) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現する。
		内容項目例 (4) 地域の安全を守る働き	
		緊急時は、関係機関がネットワークを活用して相互に連携すること、緊急事態が発生した時には、状況に応じて迅速かつ確実に事態に対処していることや、関係機関などが協力していること、地域の人々が対処していることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と都道府県 - 都道府県の様子 -	自分たちの都道府県は、地形や産業など特色があることや人々が協力して特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域があることなどを基に成り立っていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、県の地理的環境の特色や県内の地域の特色を考えて、表現することができる。
		内容項目例 (1) 都道府県の様子	
		国内における自分たちの県の位置、隣接する県との位置関係、県全体の地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置などを、地図帳や各種の資料で調べることを通して、理解する。また、各都道府県の名称や日本地図上の位置などを理解する。	我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、地理的環境の特色を考え、表現する。
		内容項目例 (2) 県内の特色ある地域の様子	
		県内には、地場産業が盛んな地域や国際交流に取り組んでいる地域、自然環境や伝統的な文化を保護・活用している地域など特色ある地域があること、それらの地域では、特色あるまちづくりを進めたり、人々の協力により観光などの産業を発展させたりしていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して、理解する。	特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、県内の地域の特色を考え、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と都道府県 - 人々の健康や生活環境を支える事業/自然災害から人々を守る活動 -	- 人々の健康や生活環境を支える事業は、地域の人々の健康な生活や生活環境の維持と向上に役立っており、地域の人々の生活を支えていることを理解する。 - 自然災害から人々を守る活動は、これまで関係機関や地域の人々が連携して対処してきたり、今後の災害に対して様々な備えをして、人々を自然災害から守っていることを理解する。	- 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、人々の健康や生活環境を支える事業について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。 - 時期や時間の経過、人々の相互関係などの視点に着目して、自然災害から人々を守る活動の働きを多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
		内容項目例 (3) 人々の健康や生活環境を支える事業	
		(ア)安全確保に努めていることや安定的に供給できるように進められていること、現在に至るまでに供給する仕組みが計画的に改善されてきたことなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。 (イ)廃棄物を安全かつ衛生的に処理していることや県内外の関係機関が相互に連携して処理したり再利用したりしていることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	(ア)供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスを供給する事業が果たす役割を考え、表現する。 (イ)処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物を処理する事業が果たす役割を考え、表現する。
		内容項目例 (4) 自然災害から人々を守る活動	
		県内で過去に自然災害が発生していること、発生した際には県や市、関係機関や地域の人々が協力して対処してきたことや、関係機関と地域の人々は、起こり得る自然災害による被害を防いだり減らしたりするための備えをしていることなどを、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりすることを通して、理解する。	過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、活動の働きを考え、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と都道府県 - 県内の伝統や文化、先人の働き -	県内の伝統や文化は、地域の人々が受け継いできたことや、地域の発展など人々の様々な願いが込められていること、先人の働きは、地域の人々の生活の向上に貢献したことを理解する。	位置や空間的な広がり事象や人々の相互関係などの視点に着目して、人々の願いや努力を考えたり、地域の人々の生活の向上に貢献した先人の働きについて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
		内容項目例 (5) 県内の伝統や文化、先人の働き	
		(ア)文化財や年中行事が受け継がれていること、それらは地域の歴史を伝えるものであることなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。 (イ)先人は様々な苦心や努力を重ねて業績を成し遂げたことや、当時の人々の生活の向上や地域の発展に大きく貢献したことなどを、見学・調査したり地図などの資料で調べたりすることを通して理解する。	(ア)歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、人々の願いや努力を考え、表現する。 (イ)当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、先人の働きを考え、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と国土 - 我が国の国土の様子 -	我が国の国土やその領域では、その自然条件と人々の生活や産業、国土の環境保全が関連して行われていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、自然条件と国民生活の関連や国土の環境保全について多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、表現することができる。
		内容項目例 (1) 我が国の国土の様子と国民生活	
		(ア)世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して大まかに理解する。 (イ)我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。	(ア)世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の特色を考え、表現する。 (イ)地形や気候などに着目して、国土の自然環境の特色や国土の特色と国民生活との関連を考え、表現する。
		内容項目例 (2) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	
		(ア)我が国では、国土の自然条件との関係から様々な自然災害が起こりやすいこと、これからも発生する可能性があること、国や県などは、災害の種類や国土の自然条件に応じた対策や事業を進めていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。 (イ)我が国は、国土に占める森林面積の割合が高いこと、森林は国土の保全や水源の涵養などに大切な働きをしていること、森林はその育成や保護に従事している人々の取組により維持・管理されていることなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。 (ウ)我が国では、公害が発生して国民の健康や生活環境が脅かされてきたことや多くの人々の努力や協力により改善が図られてきたことなどを、地図帳や各種の資料で調べることを通して理解する。	(ア)災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、自然条件との関連を考え、表現する。 (イ)森林資源の分布や働きなどに着目して、森林資源が果たす役割を考え、表現する。 (ウ)公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組の働きを考え、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と 国土 - 我が 国の産業と情 報の関わり (食料生産・ 工業生産・情 報を活用して 発展する産 業) -	我が国の産業は、国土の自然条件を生かして営まれていたり、消費者の需要や社会に対応して行われたりしていることや、国民生活に大きな影響を及ぼしていることや国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、産業が情報化の進展により発展してきたことや国民生活に果たす役割を考えたり、これからの産業の発展について多角的に考えたりして、表現することができる。
		内容項目例 (3) 我が国の農業や水産業における食料生産	
		(ア)食料生産は国民の食生活を支えていること、食料の生産量は国民生活と関連して変化していること、食料の中には外国から輸入しているものがあることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。 (イ)農業や水産業の盛んな地域の人々が、生産性や品質を高めるなど様々な工夫や努力を行っていること、費用が発生すること、輸送方法や販売方法を工夫することにより収益を上げていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。	(ア)生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現する。 (イ)生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の働きを考え、表現する。
		内容項目例 (4) 我が国の工業生産	
		(ア)我が国では様々な種類の工業生産が行われ、工業が盛んな地域は全国各地に分布していること、工業製品の改良と国民生活の向上とは深い関わりがあることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。 (イ)工場で働く人々は様々な工夫や協力をしていること、工業生産には様々な工場が関連していること、優れた技術を生かして消費者の需要や社会の発展に応える研究開発などの努力を行っていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。 (ウ)原材料や工業製品の輸出入の特色や、輸出入や出荷には、海上輸送、航空輸送、陸上輸送などが使われていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。	(ア)工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現する。 (イ)製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、我が国の工業生産の働きを考え、表現する。 (ウ)交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の役割を考え、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と 国土 - 我が 国の産業と情 報の関わり (食料生産・ 工業生産・情 報を活用して 発展する産 業) -	我が国の産業は、国土の自然条件を生かして営まれていたり、消費者の需要や社会に対応して行われたりしていることや、国民生活に大きな影響を及ぼしていることや国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、産業が情報化の進展により発展してきたことや国民生活に果たす役割を考えたり、これからの産業の発展について多角的に考えたりして、表現することができる。
		内容項目例 (5) 我が国の産業と情報との関わり	
		(ア)放送、新聞などの産業は、正確な情報を分かりやすく速く伝えるために多種多様な情報を収集し、選択・加工していること、様々な情報媒体を活用していることなどを、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりすることを通して理解する。 (イ)多様で大量の情報を瞬時に収集・発信し、それらを活用することで産業が変化し発展していること、国民が情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを楽しむことができ、生活が向上していることなどを、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりすることを通して理解する。	(ア)情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送や新聞などの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現する。 (イ)情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	私たちの生活と国や国際社会 - 我が国の政治の働き -	統合的な理解	総合的な発揮
		我が国の政治は、日本国憲法の基本的な考え方に基づいて行われていることや、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図っていることを理解する。	事象や人々の相互関係などの視点に着目して、我が国の政治の働きについて、様々な面から考えたり、国民としての政治への関わり方について多角的に考えたりして、表現することができる。
		内容項目例（１）我が国の政治の働き	
		(ア)日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを、見学・調査したり各種の資料で調べたりすることを通して理解する。 (イ)国や地方公共団体の政治は国民生活と密接な関係をもっていること、それらの政治は国民主権の考え方を基本として、国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることなどを、見学・調査したり各種の資料で調べたりすることを通して理解する。	(ア)日本国憲法の基本的な考え方に着目して、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現する。 (イ)政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国民生活における政治の働きを考え、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	私たちの生活と国や国際社会 - 我が国の歴史上の主な事象 -	統合的な理解	総合的な発揮
		我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、我が国は長い歴史をもち伝統や文化を育んできたことを理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解する。	時期や時間の経過などの視点に着目して、先人の業績を政治や経済、世界との関わりなどの様々な面から、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。
		内容項目例（２）我が国の歴史上の主な事象	
		遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、次のことを理解する。 (ア)狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したこと、その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと (イ)大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたこと (ウ)貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたこと (エ)源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったこと (オ)京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたこと (カ)キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたこと (キ)江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したこと (ク)歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったこと (ケ)黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたこと (コ)大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したこと (サ)日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと	世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現する

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
小学校	私たちの生活と国や国際社会 - 国際社会における日本の役割 -	我が国は、他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であること、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解する。	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの視点に着目して、国際交流の果たす役割や国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、世界の人々と共に生きていくために大切なことや、我が国が国際社会において果たすべき様々な役割などを多角的に考えたり選択・判断したりして、表現することができる。
		内容項目例（３）グローバル化する世界と日本の役割	
		(ア)外国の人々の生活の様子には違いがあること、その違いがその国の文化や習慣を特徴付けていること、国際的なスポーツ交流や様々な文化を通じた国際交流が行われていることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。 (イ)国際連合の役割や我が国が平和な国際社会や諸外国の発展に貢献していること、今後も国際社会の平和と発展のために果たさなければならない責任と義務があることなどを、地図帳や地球儀、各種の資料で調べることを通して理解する。	(ア)外国の人々の生活の様子などに着目して、国際交流の果たす役割を考え、表現する。 (イ)地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現する。

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校 社会 地理的分野 歴史的分野 公民的分野	- 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する学習を通して社会的事象に関する概念について理解する。 - 調査や諸資料から確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
	- 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解する。 - 調査や諸資料から地理に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して、多面的・多角的に考察する力を養う。 - 地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
	- 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特徴を踏まえて理解する。 - 諸資料から歴史に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察する力を養う。 - 歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。
	- 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深める。 - 諸資料から現代の社会的事象に関する確かな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察する力を養う。 - 現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力を養う。 - 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら解決を視野に主体的かつ協働的に社会に関わりようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

見方・考え方

- 【地理】 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間のつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【歴史】 社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【公民】 社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会(地理的分野)	A世界と日本の地域構成	(1)地域構成	緯度や経度、世界の大陸分布や日本の領域などを対象として、世界と日本の地域構成の特色を理解する。	位置や分布などに関わる視点に着目して、世界と日本の空間的な広がりについて、世界や日本の諸事象や様々な地域の特色を学ぶ座標軸である地域構成を大観して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)①から③について、世界の地域構成を大観して理解する。 ①緯度と経度、②大陸と海洋の分布、 ③主な国々の名称と位置 (イ)①から③について、日本の地域構成を大観して理解する。 ①我が国の国土の位置、②世界各地との時差、 ③領域の範囲や変化とその特色	(ア)世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する (イ)日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
中学校	社会	地理的分野	B世界の様々な地域	統合的な理解	総合的な発揮	
				(1)世界の各地の人々の生活と環境	世界の多様な地域を対象として、世界各地の人々の生活が、自然的及び社会的条件から影響を受けたり、条件に影響を与えたりしながら多様性が生じることを理解する。	人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、世界の多様な地域における人々の生活について、その特色や変容の理由を、自然的及び社会的な影響から多面的・多角的に考察し、表現することができる。
				内容項目例		
				(ア)人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解する。 (イ)世界の人々の生活や変容による環境の多様性を理解する。その際、世界の主な宗教の分布を理解する。	世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。	
				統合的な理解	総合的な発揮	
				(2)世界の諸地域	世界の各州を対象として、地域内で見られる地球的課題と関連付けながら地域的特色を理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響と、地球的課題をその地域的特色や変容の過程と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。
				内容項目例		
				①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア 上の①から⑥の各州について (ア)世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。 (イ)世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大まかに捉えて理解する。	①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア 上の①から⑥までの世界の各州において、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、それらの地域的特色と関連付けて大観し、多面的・多角的に考察し、表現する。	

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
中学校	社会地理的分野	C日本の様々な地域	統合的な理解	総合的な発揮	
			(1)地域調査の手法	学校周辺の地域を対象として、地域の特色を明らかにするために地域調査の手法を理解する。	人間生活と自然環境との関係などに関わる視点に着目して、学校周辺の地域について主題を設定し、文献や調査から地理的な事象を見出し、事象同士を関連付けて追究してまとめることを通して、地域調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			内容項目例		
			(ア)観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。 (イ)地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。	地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する。	
			統合的な理解	総合的な発揮	
			(2)日本の地域的特色と地域区分	日本を複数の項目について区分することで、区分された特色ある地域から日本が構成されていることや、日本全体の地域的特色を理解する。	位置や分布、人間と自然環境との関係、スケールなどに関わる視点に着目して、複数の項目について日本を地域区分し、区分された地域の共通点や差異、分布から、日本の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			内容項目例		
	(1)自然環境、(2)人口、(3)資源・エネルギーと産業、(4)交通・通信の項目を取り上げ、以下の(ア)から(オ)を理解し、(カ)の技能を身に付ける。 (ア)日本の自然環境に関する特色 (イ)日本の人口に関する特色 (ウ)日本の資源・エネルギーと産業に関する特色 (エ)国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色 (オ)(ア)から(エ)までを踏まえた我が国の国土の特色を大まかに捉える (カ)日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能	・ (1)自然環境、(2)人口、(3)資源・エネルギーと産業、(4)交通・通信を取り上げ、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ 日本の地域的特色を、(1)から(4)の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。			

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		
			統合的な理解	総合的な発揮		
中学校	社会	C 日本の様々な地域 社会地理的分野	(3)日本の諸地域	幾つかに区分した日本の諸地域を対象として、日本の諸地域の地域的特色や課題を理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などの視点に着目して、日本の諸地域における地域の特徴を、適切な事象を取り上げ、他の事象や課題と有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現することができる。	
			内容項目例			
			(ア)幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解する。 (イ)以下の①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。 ① 自然環境を中核とした考察の仕方 ② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方 ③ 産業を中核とした考察の仕方 ④ 交通や通信を中核とした考察の仕方 ⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方	日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 ① 自然環境を中核とした考察の仕方 ② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方 ③ 産業を中核とした考察の仕方 ④ 交通や通信を中核とした考察の仕方 ⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方		
			(4)地域の在り方	統合的な理解	総合的な発揮	
			分野のまとめとして、適切な地域や課題を取り上げ、持続可能な社会づくりの視点から、課題解決に向けて考察、構想したことを適切に表現する手法を理解する。	地域的な課題解決の取組に関する理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などの視点に着目して、地域で見られる地理的な課題について、持続可能な社会づくりの視野から、類似の課題が見られる他の地域と比較したり、関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。		
			内容項目例			
			(ア)地域の実態や課題解決のための取組を理解する。 (イ)地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法を理解する。	地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。		

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会(歴史的分野)	A 歴史との対話	(1)歴史との対話	過去からの経緯を理解するための情報を獲得する方法や、時間軸で整理する技能を用いて、歴史上の人物や出来事が、過去の資料に基づいて記述されていることや、現在の身近な地域の景観や特徴が、歴史的な経緯によって形成されていることを理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、小学校での学習で獲得した知識を時間軸で整理したり、地域などの空間を設定し、根拠を踏まえて現在の景観や特徴につながる過去の事象との関わりや、時代区分との関わりについて整理して考察し、表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)(私たちと歴史) - 年代の表し方や時代区分の意味や意義を理解する。 - 資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりする技能を身に付ける。 (イ)(身近な地域の歴史) - 具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付ける。	(ア) - 時代区分や時期区分が多様であることや、基本的な区分について、相互の関係について理解する。 - 時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現する。 (イ)比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会	歴史的分野	B 近世までの日本とアジア	列島周辺地域との関係を背景に、日本列島に国家が形成され、アジア諸地域との関係をもちながら、政治のしくみが整えられたり、特徴的な文化が育まれたりしたことについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、古代の日本について多面的・多角的に考察し、国家・社会の形成などについて時代の特色を大観して表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)(世界の古代文明や宗教のおこり) - 次の①及び②などを題材に、世界の各地で文明が築かれたことを理解する。 ①世界の古代文明 ②宗教のおこり (イ)(日本列島における国家形成) - 次の①及び②などを題材に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解する。 ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰 ②大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わり (ウ)(律令国家の形成) - 次の①及び②などを題材に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解する。 ①律令国家の確立に至るまでの過程 ②摂関政治 (I)(古代の文化と東アジアとの関わり) - 次の①及び②などを題材に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する。 ①仏教の伝来とその影響 ②仮名文字の成立	(ア)古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ)農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (ウ)東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (I)東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の文化と東アジアとの関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	統合的な発揮
中学校	社会歴史的分野	B 近世までの日本とアジア	(2)中世の日本	列島周辺地域との関係やユーラシアの状況を背景に、武家政治が公家や宗教を含めた多様な勢力の中で展開したことや、その中で民衆の成長により形成された社会や多様な文化について理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、中世の日本について多面的・多角的に考察し、古代との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)(武家政治の成立とユーラシアの交流) - 次の①及び②などを題材に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まった、また、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。 ①鎌倉幕府の成立 ②元寇(モンゴル帝国の襲来) (イ)(武家政治の展開と東アジアの動き) - 次の①及び②などを題材に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解する。 ①南北朝の争乱と室町幕府 ②日明貿易と琉球の国際的な役割 (ウ)(民衆の成長と新たな文化の形成) - 次の①から④などを題材に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。 ①農業など諸産業の発達 ②畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立 ③武士や民衆などの多様な文化の形成 ④応仁の乱後の社会的な変動	(ア)武士の政治への進出、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ)武士の政治の展開、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の展開と東アジアの動きについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 (ウ)農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、民衆の成長と新たな文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	統合的な発揮
B 近世までの日本とアジア 社会歴史的分野 中学校			(3)近世の日本	ヨーロッパの諸勢力との接触や列島周辺地域との関係を背景に、統一政権の形成や、その諸政策によって生み出された安定的なつながりが経済活動や文化の発達を促したことや、その後の国内外の情勢の変化への対応について理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特色を大観して表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)(世界の動きと統一事業) - 次の①から③などを題材に、近世社会の基礎がつけられたことを理解する。 ①ヨーロッパ人来航の背景とその影響 ②織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、 ③武将や豪商などの生活文化の展開 (イ)(江戸幕府の成立と対外関係) - 次の①から③などを題材に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。 ①江戸幕府の成立と大名統制 ②身分制と農村の様子 ③鎖国などの幕府の対外政策と対外関係 (ウ)(産業の発達と町人文化) - 次の①及び②などを題材に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 ①産業や交通の発達 ②教育の普及と文化の広がり (エ)(幕府の政治の展開) - 次の①から③などを題材に、幕府の政治の社会変化への対応を理解する。 ①社会の変動や欧米諸国の接近 ②幕府の政治改革 ③新しい学問・思想の動き	(ア)交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、文化の担い手の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業にについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ)幕府の政策の目的と社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (ウ)産業の発達と文化の担い手の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発達と町人文化について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (エ)社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、幕府の政治の展開について、多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校 社会・歴史的分野 C 近現代の日本と世界	(1)近代 (前半)の 日本と世界			欧米諸国の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、社会や対外的な状況の変化への対応が求められ、新たな制度や文化の導入とそれまでの社会とのつながりの中で、日本の近代国家のしくみや近代的な社会や文化が形成されたことを理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代前半の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特徴を大観して表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)(欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き) - 次の①及び②などを題材に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。 ①欧米諸国における産業革命や市民革命 ②アジア諸国の動き	(ア)工業化の進展と政治や社会の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
				(イ)(明治維新と近代国家の形成) - 次の①から③などを題材に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。 ①開国とその影響 ②富国強兵・殖産興業政策 ③文明開化の風潮	(イ)工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治維新と近代国家の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。

- (ウ)(議会政治の始まりと国際社会との関わり)**
- 次の①から④などを題材に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解する。
 - ①自由民権運動
 - ②大日本帝国憲法の制定
 - ③日清・日露戦争
 - ④条約改正

- (エ)(近代産業の発展と近代文化の形成)**
- 次の①から③などを題材に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。
 - ①我が国の産業革命
 - ②近代化と国民生活の変化
 - ③学問・教育・科学・芸術の発展

- (ウ)議会政治や外交の展開、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

- (エ)工業化の進展と政治や社会の変化、近代化がもたらした文化への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代産業の発展と近代文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
				国際社会の動向や近隣の諸地域との関係を背景に、国際情勢の推移とその対応が政治や社会の変化を促したことや、戦争による惨禍が繰り返された経緯から国際協調の意義について理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目して、近代後半の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現代の諸課題の解決に向けた手掛かりについて構想し、表現することができる。
				内容項目例	
中学校	社会(歴史的分野)	C 近現代の日本と世界	(2)近代(後半)の日本と世界	(ア)(第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現) - 次の①から③などを題材に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する。 ①第一次世界大戦の背景とその影響 ②民族運動の高まりと国際協調の動き ③我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化 (イ)(第二次世界大戦と人類への惨禍) - 次の①から⑤などを題材に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。 ①経済的世界的な混乱と社会問題の発生 ②昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の政治・外交の動き ③中国などアジア諸国との関係 ④欧米諸国の動き ⑤戦時下の国民の生活	(ア)世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ)経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第二次世界大戦と人類への惨禍について、多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	統合的な発揮
中学校	社会（歴史的分野）	C 近現代の日本と世界	(3)現代の日本と世界	世界の動向を背景に、冷戦下の日本の政治や経済の動きと社会の形成、冷戦後の国際社会との関係について理解するとともに、それらと現在の社会とのつながりについて理解する。	時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながり、歴史と私たちとのつながりなどの視点に着目して、第二次世界大戦後の日本について多面的・多角的に考察し、それ以前との比較などから時代の特色を大観して現在と未来の日本や世界の在り方について構想し、表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)(日本の民主化と冷戦下の国際社会) - 次の①から③などを題材に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。 ①冷戦 ②我が国の民主化と再建の過程 ③国際社会への復帰 (イ)(日本の経済の発展とグローバル化する世界) - 次の①及び②などを題材に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解する。 ①高度経済成長と国際社会との関わり ②冷戦の終結とグローバル化する世界とその中の日本	(ア) 諸改革の展開と国際社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の民主化と冷戦下の国際社会について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本の経済の発展とグローバル化する世界について、多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会	公民的分野	A 私たちと現代社会	(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色	位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などの視点に着目して、現代社会に見られる課題が将来の政治、経済、文化、国際関係に与える影響について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
				内容項目例	
				(ア) 現代日本の特色として情報化、グローバル化、少子高齢化に伴う影響や課題などが見られること (イ) 現代社会における文化の意義や影響	位置や空間的広がり、持続可能性、推移や変化などに着目して、 ・ 情報化、グローバル化、少子高齢化に伴う影響や課題などが現在と将来の私たちの生活に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現する ・ 文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現する
				統合的な理解	総合的な発揮
				(2) 現代社会を捉える枠組み	対立と合意、効率と公正などの現代社会を捉える基礎となる枠組みに着目して、望ましい合意の在り方や合意を実現するために必要な事柄などについて、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
				内容項目例	
				(ア) 人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等 (イ) 現代社会の見方や考え方の基礎となる枠組みとしての対立と合意、効率と公正 (ウ) 契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任	対立と合意、効率と公正などに着目して、 ・ 社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	社会	公民的分野	B 私たちと経済	(1) 市場の働きと経済 経済に関する仕組みと身近な経済活動に見られる諸事象を結び付けた、経済活動の意義を理解した上で、それと関連付けて、市場の働きと経済を理解する。	分業と交換などの概念的な枠組みに着目して、より活発な経済活動と個人の尊重を両立させることが重要であることを踏まえた、豊かな経済活動の実現とその方法について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
				内容項目例 (ア) 身近な消費生活を中心に経済活動の意義 (イ) 市場における価格の決め方や資源の配分などを含めた、市場経済の基本的な考え方 (ウ) 現代の生産や金融などの仕組みや働き (エ) 勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神	対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性、誠実性などに着目して、 - 個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現する - 社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現する
				統合的な理解 国や地方公共団体の財政に関する仕組みとそれらの意義などを理解した上で、それと関連付けて、すべての経済主体が連携・協働を図ることの意味を理解する。	総合的な発揮 分業と交換などの概念的な枠組みに着目して、すべての経済主体が連携・協働を図ることが効果的であることを踏まえた、現代社会に見られる課題の解決とその方法について、具体的な事例を挙げて、考察、構想し、表現する。
				(2) 国民の生活と政府の役割 (ア) 社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、人口減少社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義 (イ) 財政及び租税の意義、国民の納税の義務 (ウ) 現代社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	対立と合意、効率と公正、希少性、誠実性、分業と交換などに着目して、国や地方公共団体の財政に関する役割を踏まえて、社会に参画する主体としての自覚の基礎を育成することに向けて、 - 市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する - 財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現する

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

中学校	社会	公民的分野	C 私たちと政治		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
					統合的な理解	総合的な発揮
				(1)人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	個人が尊重され協働の利益が確保される国家・社会を形成するために憲法が果たす意義を理解した上で、それと関連付けて、日本国憲法の基本原理を理解する。	個人の尊重などの概念的な枠組みに着目して、現代社会の課題を解決するために、憲法に基づいて政治が行われることや日本国憲法の基本原理が果たす意義について、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
					内容項目例	
				(ア)人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義 (イ)民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であること (ウ)日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていること (エ)日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、 ・ 我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する	
					統合的な理解	総合的な発揮
				(2)民主政治と政治参加	国民の政治参加の意義を理解した上で、それと関連付けて、地方自治や我が国の民主政治の考え方を理解する。	個人の尊重などの概念的な枠組みに着目して、社会に参画する主体として、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚などを育成することに向けて、政治参加に関する具体的な課題を挙げて、望ましい政治参加の在り方について考察、構想し、表現する。
					内容項目例	
				(ア)国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割 (イ)議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方 (ウ)国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること (エ)地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務 (オ)現代社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、社会に参画する主体として、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、 ・ 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する	

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
中学校	D 私たちと国際社会の諸課題 社会・公民的分野	(1)世界平和と人類の福祉の増大		国際社会に関する基本的な事項、国際社会の現状などを理解した上で、それと関連付けて、世界平和の実現と人類の福祉の増大に向けて、地球規模の諸課題の解決のために国際協調や協力などが大切であることを個人と社会の関わりを中心に理解を深める。	持続可能性などの概念的な枠組みに着目して、主体的に社会に関わることに向けて、世界平和のために私たちにできることについて、考察、構想したことを説明したり、それらをもとに議論したりする。
				内容項目例	
				(ア)世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構や国際法などの役割が大切であること (イ)領土(領海、領空を含む。)、国家主権、国際連合をはじめとする国際機構、国際法など基本的な事項 (ウ)地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であること (エ)国際社会に見られる課題に関わる諸資料から、社会に参画する主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などのに着目して、国際社会に参画する主体としての自覚の基礎を育成することに向けて、 ・日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
				統合的な理解	総合的な発揮
		(2)よりよい社会を目指して			社会的な視点や方法等を用いて、現代の社会的な事象から課題を見だし、社会参画を視野に入れながら、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。
				内容項目例	
					持続可能な社会を形成することに向けて、社会的な視点や方法等を用いて、 ・私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、社会参画を視野に入れながら、多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地理歴史	- 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関する学習を通して社会的事象に関する概念について理解する。 - 調査や諸資料から収集した情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
地理総合	- 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 - 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
地理探究	- 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。 - 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から収集した地理に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
歴史総合	- 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 - 諸資料から収集した歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に追究、解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
日本史探究	- 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する。 - 諸資料から収集した我が国の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果関係や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
世界史探究	- 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。 - 諸資料から収集した世界の歴史に関する情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時系列、推移、類似と差異、因果関係や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 - 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。 - 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に探究しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

見方・考え方

- 【地理総合・地理探究】 ・ 社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間のつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
- 【歴史総合、日本史探究、世界史探究】 ・ 社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	地理総合	A 地図や地理情報システムで捉える現代世界	(1)地図や地理情報システムと現代世界	様々な目的や場面で役立つ地図や地理情報システム（GIS）を活用して、現代世界の地域構成の特色や国内や国家間の結び付きを理解する。	位置や分布などに関わる視点に着目して、地図や地理情報システム（GIS）などに関わる地理的技能を活用して、現代世界の地域構成や地図やGISの役割や活用の仕方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、以下の①から③について理解する。 ①時位や時差、②日本の位置と領域、③国内や国家間の結び付きなど。 (イ)日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などを理解する。 (ウ)現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。	(ア)位置や範囲などに着目して、現代世界の地域構成について、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ)位置や範囲、縮尺などに着目して地図や地理情報システムについて、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	地理総合	B 国際理解と国際協力	(1)生活文化の多様性と国際理解	統合的な理解	総合的な発揮
				内容項目例	
				(ア)世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどを理解する (イ)世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などを理解する。	(ア)世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
			(2)地球的課題と国際協力	統合的な理解	総合的な発揮
				内容項目例	
				(ア)世界各地で見られる以下の①～④の地球的課題の、各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大まかに捉えて理解する。 (イ)世界各地で見られる以下の①～④の地球的課題の解決には、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることを理解する。 ①地球環境問題、②資源・エネルギー問題、③人口・食料問題、④居住・都市問題	(ア)世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	地理総合	C 持続可能な地域づくりと私たち	統合的な理解	総合的な発揮
			地形図やハザードマップなどを活用して、自然環境の特色と自然災害の関係性、地域性を踏まえた災害の備えや対応について理解するとともに、防災の重要性について理解する。	人間生活と自然環境との関係や変容などに関わる視点に着目して、ハザードマップなどに関わる地理的技能を活用し、自然及び社会条件との関わりなど地域性を踏まえた防災について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			内容項目例	
			(ア)地域の自然環境の特色と日本及び世界における、以下の①～④などの自然災害への、備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などを理解する。 ①地震災害、②津波災害、③風水害、④火山災害など (イ)様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。	(ア)地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。
			統合的な理解	総合的な発揮
			科目のまとめとして、持続可能な地域づくりを目指した生活圏の調査を踏まえ、地理的な課題の解決に向けた様々な立場からの取組や探究する手法を理解する。	持続可能な地域づくりに関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、生活圏の地理的な課題や課題解決に求められる取組を、多面的・多角的に考察、構想、表現し、よりよい社会の実現を展望することができる。
			内容項目例	
			(ア)生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。	(ア)生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	A	現代世界の系統地理的考察	地理探究	(1)自然環境	地形、気候、生態系などの自然環境に関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 人間生活と自然環境との関係やスケールなどに関わる視点に着目して、地形、気候、生態系などの自然環境に関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)以下の①～③の事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①地形 ②気候 ③生態系など	(ア)場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、地形、気候、生態系などに関わる諸事象について、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。
				(2)資源、産業	統合的な理解 資源・エネルギー、農業、工業などの資源、産業に関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 総合的な発揮 人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、資源・エネルギー、農業、工業などの資源、産業に関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)以下の①～③の事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①資源・エネルギー ②農業 ③工業など	(ア)資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	地理探究	A 現代世界の系統地理的考察	(3)交通・通信、観光	交通・通信網と物流、人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、交通・通信網と物流、人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)以下の①及び②の事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①交通・通信網と物流 ②人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象	(ア)交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。
			(4)人口、都市・村落	統合的な理解	総合的な発揮
				人口、都市・村落などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、人口、都市・村落などに関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)以下の①及び②の事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①人口、 ②都市・村落など	(ア)人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	統合的な発揮
高等学校	地理探究	A 現代世界の系統地理的考察	(5)生活文化、民族・宗教	生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を対象として、空間的な規則性や傾向性を理解するとともに、関連する地球的課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。	人間生活と自然環境との関係や地域間の結び付きなどに関わる視点に着目して、生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを考察し、表現することができる。
				内容項目例	
				(ア)以下の①及び②の事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などを理解する。 ①生活文化 ②民族・宗教など	(ア)生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		
			統合的な理解	総合的な発揮		
高等学校	地理探究	B 現代世界の地誌的考察	(1)現代世界の地域区分	世界の諸地域は、目的による様々な指標で地域区分することが可能であることを理解し、地域には多様な側面やスケールがあるという地域の概念や現代世界の多様性を理解する。	位置や分布、地域間の結び付き、スケールなどに関わる視点に着目して、世界や世界の諸地域について、目的による複数の指標に基づいて地域区分された分布図を比較し、区分された地域の共通点や差異、分布から、地域の捉え方を多面的・多角的に考察し、表現することができる。	
			内容項目例			
			(ア)世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、以下の①から③などについて理解する。 ①世界を幾つかの地域に区分する方法、②地域の概念、 ③地域区分の意義など。 (イ)世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身に付ける。	(ア)世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、地域の捉え方などを多面的・多角的に考察し、表現する。		
		(2)現代世界の諸地域	統合的な理解	総合的な発揮		
			地域区分した世界の諸地域を対象として、世界の諸地域の地域的特色や地球的課題、地域間の結び付き、地域の構造や変容を理解する。	地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、現代世界の諸地域について、世界の諸地域や地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。		
			内容項目例			
		(ア)幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、以下の①及び②などについて理解する。 ①諸地域に見られる地域的特色 ②地球的課題など (イ)幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法などを理解する。	(ア)現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。			

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	地理探究	C 現代世界におけるこれからの日本の国土像	(1) 持続可能な国土像の探究	統合的な理解	総合的な発揮
				科目のまとめとして、日本の地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方の構想を通して、持続可能な国土像の在り方を探究する手法の重要性とその手法について理解する。	持続可能な国土像に関する課題解決の取組の理解を基に、地域間の結び付きやスケール、変容などに関わる視点に着目して、これからの日本の国土像について、地理的な課題の解決に向けた取組を考察・構想し、よりよい社会の実現を展望することができる。
				内容項目例	
				(ア)現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などを理解する。	(ア)現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	歴史総合	A 歴史の扉	現在に生きる私たちに関わる諸事象と日本や世界の歴史とのつながりを理解するとともに、過去の事象について探る手がかりとなる材料である資料を考察するには、批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解する。	諸資料を効果的に活用して、時系列、展開や変化、類似や差異、背景や原因、結果や影響、相互の関連や現在とのつながりなどの視点に着目し、身近な生活や地域にみられる諸事象と歴史とのつながりや資料と歴史の叙述の関わりを考察し、表現することができる。
			内容項目例（１）歴史と私たち	
			(ア)私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とのつながりを理解する。 ＜今後、学習対象の具体例を挙げることが必要＞	(ア)諸資料を活用し、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。
			内容項目例（２）歴史の特質と資料	
			(ア)資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ＜今後、学習対象の具体例を挙げることが必要＞	(ア)日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料を活用し、複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	歴史総合	B 近代化と私たち	資料等の情報を基に、産業社会と国民国家の形成により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近代化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			内容項目例（１）近代化への問い	
			(ア) 次の①から⑥に関する資料などを選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ①交通と貿易 ②産業と人口 ③権利意識と政治参加や国民の義務 ④学校教育 ⑤労働と家族 ⑥移民	(ア) ①から⑥などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
			内容項目例（２）結び付く世界と日本の開国	
			(ア) 次の①及び②などを題材に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ①18世紀のアジアや日本における生産と流通 ②アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易 (イ) 次の①及び②などを題材に、工業化と世界市場の形成を理解する。 ①産業革命と交通・通信手段の革新 ②中国の開港と日本の開国	(ア) 諸資料を活用して、18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、18世紀のアジアの経済と社会に関する主題について、アジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、工業化と世界市場の形成に関する主題について、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	歴史総合	B 近代化と私たち	資料等の情報を基に、産業社会と国民国家の形成により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近代化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			内容項目例（3）国民国家と明治維新	
			(ア) 次の①及び②などを題材に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ① 18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向 ② 日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定 (イ) 次の①及び②などを題材に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ① 列強の進出と植民地の形成 ② 日清・日露戦争	(ア) 諸資料を活用して、国民国家の形成の背景や影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、立憲体制と国民国家の形成に関する主題について、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容に関する主題について、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。
			内容項目例（4）近代化と現代的な諸課題	
			(ア) 内容のA及びBの(1)から(3)までの学習などを基に、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	(ア) 諸資料を活用して、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点(現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組み)から設定された主題について、多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	歴史総合	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	資料等の情報を基に、国際的な結び付きの強まりによる国家間の関係性の変化や、個人や集団の社会参加の拡大により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			内容項目例（１）国際秩序の変化や大衆化への問い	
			(ア) 次の①から⑤などに関する資料などを選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ① 国際関係の緊密化 ② アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭 ③ 植民地の独立 ④ 大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化 ⑤ 生活様式の変化	(ア) ①から⑤などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
			内容項目例（２）第一次世界大戦と大衆社会	
			(ア) 次の①から④などを題材に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ① 第一次世界大戦の展開 ② 日本やアジアの経済成長 ③ ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 ④ ナショナリズムの動向と国際連盟の成立 (イ) 次の①から④などを題材に、大衆社会の形成と社会運動の広がり理解する。 ① 大衆の政治参加と女性の地位向上 ② 大正デモクラシーと政党政治 ③ 大量消費社会と大衆文化 ④ 教育の普及とマスメディアの発達	(ア) 諸資料を活用して、第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制に関する主題について、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、大衆社会の形成と社会運動の広がりに関する主題について、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	歴史総合	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち	資料等の情報を基に、国際的な結び付きの強まりによる国家間の関係性の変化や、個人や集団の社会参加の拡大により生活や社会に生じた変化、それらの変化と現代的な諸課題との関係について理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。
			内容項目例（3）経済危機と第二次世界大戦	
			(ア) 次の①から③などを題材に、国際協調との動揺を理解する。 ①世界恐慌 ②ファシズムの伸張 ③日本の対外政策 (イ) 次の①から④などを題材に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本国際社会への復帰を理解する。 ①第二次世界大戦の展開 ②国際連合と国際経済体制 ③冷戦の始まりとアジア諸国の動向 ④戦後改革と日本国憲法の制定 ⑤平和条約と日本の独立の回復	(ア) 諸資料を活用して、経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、国際協調体制の動揺に関する主題について、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大战後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰に関する主題について、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。
			内容項目例（4）国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	
			(ア) 内容のA及びCの(1)から(3)までの学習などを基に、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	(ア) 諸資料を活用して、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点(現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組み)から設定された主題について、多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	歴史総合	D グローバル化と私たち	資料等の情報を基に、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになったことにより生活や社会に生じた変化について理解するとともに、現代的な諸課題の形成と近現代の歴史とのつながりについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近現代の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
			内容項目例（１）グローバル化への問い	
			(ア) 次の①から⑦などに関する資料などを選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ① 冷戦と国際関係 ② 人と資本の移動 ③ 高度情報通信 ④ 食料と人口 ⑤ 資源・エネルギーと地球環境 ⑥ 感染症 ⑦ 多様な人々の共存	(ア) ①から⑦などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
			内容項目例（２）冷戦と世界経済	
			(ア) 次の①から④などを題材に、国際政治の変容を理解する。 ① 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国 ② 冷戦下の地域紛争 ③ 先進国の政治の動向 ④ 軍備拡張や核兵器の管理 (イ) 次の①から③などを題材に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 ① 西ヨーロッパや東南アジアの地域連携 ② 計画経済とその波及 ③ 日本の高度経済成長	(ア) 諸資料を活用して、地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、国際政治の変容に関する主題について、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会に関する主題について、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	歴史総合	D グローバル化と私たち	資料等の情報を基に、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになったことにより生活や社会に生じた変化について理解するとともに、現代的な諸課題の形成と近現代の歴史とのつながりについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、現代的な諸課題を歴史的に捉えるための枠組みを活用して近現代の歴史に存在し現代においても調整が求められる課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
			内容項目例（３）世界秩序の変容と日本	
			(ア) 次の①から④などを題材に、市場経済の変容と課題を理解する。 ①石油危機 ②アジアの諸地域の経済発展 ③市場開放と経済の自由化 ④情報通信技術の発展 (イ) 次の①から④などを題材に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ①冷戦の終結 ②民主化の進展 ③地域統合の拡大と変容 ④地域紛争の拡散とそれへの対応	(ア) 諸資料を活用して、アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、市場経済の変容と課題に関する主題について、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、(1)で表現した問いを踏まえ、冷戦終結後の国際政治の変容と課題に関する主題について、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。
			内容項目例（４）冷戦と世界経済	
			(ア) これまでのこの科目の学習などを基に、歴史的経緯を踏まえた現代的な諸課題を理解する。	(ア) 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望して、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
		統合的な理解	総合的な発揮	
高等学校	日本史探究	A 原始・古代の日本と東アジア	資料等の情報を基に、歴史の転換や画期を踏まえ、環境への適応と文化の形成、列島近隣地域との交流との関係など、各自が形成した観点から古代の政治や社会と文化の特色を理解する。	多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、古代の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
			内容項目例（１）黎明期の日本列島と歴史的環境	
			(ア) 次の①及び②などを題材に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する ①旧石器文化から縄文文化への変化 ②弥生文化の成立	(ア) 諸資料を活用し、自然環境と人間の生活との関わり、中国大陆・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
			内容項目例（２）歴史資料と原始・古代の展望	
			(ア) 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、歴史資料の特性を踏まえて歴史に関わる情報を収集し、読み取りまとめる技能を身に付ける。	(ア) (1) で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。
		内容項目例（３）古代の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)		
		(ア) 次の①及び②などを題材に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。 ①国家の形成と古墳文化 ②律令体制の成立過程と諸文化の形成	(ア) 諸資料を活用し、中国大陆・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、(2) で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (イ) 諸資料を活用し、地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、(2) で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	
		(イ) 次の①から③などを題材に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。 ①貴族政治の展開 ②平安期の文化 ③地方支配の変化や武士の出現		

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
		統合的な理解	総合的な発揮	
高等学校	日本史探究	B 中世の日本と世界	資料等の情報を基に、歴史の転換や画期を踏まえ、複層的な政治的権力や権威、多様な社会集団の成長とその文化との関わりなど、各自が形成した観点から中世の政治や社会と文化の特色を理解する。	多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、中世の政治や社会と文化の特色についての多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
			内容項目例（１）中世への転換と歴史的環境	
			(ア)次の①及び②などを題材に、古代から中世への時代の転換を理解する。 ①貴族政治の変容と武士の政治進出 ②土地支配の変容	(ア)諸資料を活用し、権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ)時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
			内容項目例（２）歴史資料と中世の展望	
			(ア)中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	(ア)(1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する
			内容項目例（３）中世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)	
			(ア)諸資料を活用し、公武関係の変化、宋・元(モンゴル帝国)などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (イ)諸資料を活用し、社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
		統合的な理解	総合的な発揮	
高等学校	日本史探究	C 近世の日本と世界	資料等の情報を基に、歴史の転換や画期を踏まえ、統一的な政治権力や広域の情報・流通のネットワークの形成や継続による社会変化に伴う文化の変容など、各自が形成した観点から近世の政治や社会と文化の特色を理解する。	多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目し、近世の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。
			内容項目例（１）近代への転換と歴史的環境	
			(ア) 次の①及び②などを題材に、中世から近世への時代の転換を理解する。 ① 織豊政権の政治・経済政策 ② 貿易や対外関係	(ア) 諸資料を活用し、村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
			内容項目例（２）歴史資料と近代の展望	
			(ア) 近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	(ア) (1) で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する
		内容項目例（３）近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)		
		(ア) 次の①から④などを題材に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。 ① 法や制度による支配秩序の形成と身分制 ② 貿易の統制と対外関係 ③ 技術の向上と開発の進展 ④ 学問・文化の発展 (イ) 次の①から⑤などを題材に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解する。 ① 産業の発達 ② 飢饉や一揆の発生 ③ 幕府政治の動揺と諸藩の動向 ④ 学問・思想の展開 ⑤ 庶民の生活と文化	(ア) 諸資料を活用し、織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化、交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、(2) で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (イ) 諸資料を活用し、社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化との関係などに着目して、(2) で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	統合的な発揮
高等学校	日本史探究	D 近現代の地域・日本と世界	- 資料等の情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などとのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。 - 現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。	- 多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。 - 現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。
			内容項目例（１）近代への転換と歴史的環境	
			(ア)次の①及び②などを題材に、近世から近代への時代の転換を理解する。 ①対外政策の変容と開国 ②幕藩体制の崩壊と新政権の成立	(ア)諸資料を活用し、欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ)時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。
			内容項目例（２）歴史資料と近代の展望	
			(ア)近代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	(ア)(1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ、資料を通して読み取れる情報から近代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	日本史探究	D 近現代の地域・日本と世界	(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造	- 資料等の情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。 - 現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。	- 多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。 - 現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。
				内容項目例	
				(ア) 次の①から⑧などを題材に、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解する。 ① 明治維新 ② 自由民権運動 ③ 大日本帝国憲法の制定 ④ 条約改正 ⑤ 日清・日露戦争 ⑥ 第一次世界大戦 ⑦ 社会運動の動向 ⑧ 政党政治 (イ) 次の①から⑤などを題材に、産業の発展の経緯と近代の文化の特色、大衆社会の形成を理解する。 ① 文明開化の風潮 ② 産業革命の展開 ③ 交通の整備と産業構造の変容 ④ 学問の発展や教育制度の拡充 ⑤ 社会問題の発生	(ア) 諸資料を活用し、アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえ主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 <(ア)と(イ)は今後、統合整理が必要> (イ) 諸資料を活用し、欧米の思想・文化の影響、産業の発展の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、教育の普及とその影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 <(ア)と次頁(イ)は今後、統合整理が必要>

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	日本史探究	D 近現代の地域・日本と世界	(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造	- 資料等の情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。 - 現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。	- 多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。 - 現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。
				内容項目例	
				(ウ) 次の①から③などを題材に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。 ① 恐慌と国際関係 ② 軍部の台頭と対外政策 ③ 戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開 (イ) 次の①から⑥などを題材に、第二次世界大戦後の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。 ① 占領政策と諸改革 ② 日本国憲法の成立 ③ 平和条約と独立の回復 ④ 戦後の経済復興とアジア諸国との関係 ⑤ 高度経済成長と社会・経済・情報の国際化 ⑥ グローバル化する世界と現代の日本	(ウ) 諸資料を活用し、国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (イ) 諸資料を活用し、第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、(2)で表現した仮説を発展させて主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 (オ) 日本と世界の相互の関わり、地域社会の変化、(ア)から(イ)までの学習で見いだした画期などに着目して、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	日本史探究	近現代の地域・日本と世界	D	- 資料等の情報を基に、近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの近現代の歴史の変化を踏まえ、地域社会及び日本と世界の関係、現在の社会の構造などのつながりなど、各自が形成した観点から近現代の政治や社会と文化の特色を理解する。 - 現代の日本の課題を歴史的な経緯から理解する。	- 多様な資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現在とのつながりなどの視点に着目し、近現代の政治や社会と文化の特色について多面的・多角的に考察し、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、我が国の近現代を通した歴史の画期を見だし、根拠を示して表現することができる。 - 現代の日本の課題の形成に関わる歴史について考察、構想し表現することができる。
				内容項目例	
				(ア) 次の①から③までのいずれかを取り上げ、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れ、現代の日本の課題を理解する。 ① 社会や集団と個人 ② 世界の中の日本 ③ 伝統や文化の継承と創造	内容のA、B及びC並びにDの(1)から(3)までの学習を踏まえ、諸資料を活用し、歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	世界史探究	A 世界史へのまなざし	歴史をマクロに捉える見方とミクロに捉える見方があることを理解し、時間と空間のスケールを活用して歴史を考察する方法を理解する。	時期や年代、空間的な広がり、展開や変化などの視点に着目して、地球環境と人類の歴史との関わりや身の回りの諸事象と世界史との関わりを考察し、表現することができる。
			内容項目例（１）諸地域の歴史的特質への問い	
			(ア) 次の①などを題材に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解する。 ① 人類の誕生と地球規模での拡散・移動 ＜今後、学習対象の具体例を挙げる必要がある＞	(ア) 諸資料を活用して、諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、人類の歴史と地球環境との関わりに関する主題について、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現する。
			内容項目例（２）古代文明の歴史的特質	
			(ア) 次の①から③などの身の回りの事象を題材に、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることを理解する。 ① 衣食住 ② 家族 ③ 教育、余暇 ＜今後、学習対象の具体度を挙げる必要がある＞	(ア) 諸資料を活用して、諸事象の来歴や変化に着目して、私たちの日常生活が世界の歴史とつながっていることに関する主題について、身の回りの諸事象と世界の歴史との関連性を考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	世界史探究	B 諸地域の歴史的 特質の形成	資料等の情報を基に、諸地域の歴史的・特質への問いに照らして、世界各地に共通性と多様性をもつ諸地域が形成されたことについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色などから、文明や諸地域の共通性や多様性について多面的・多角的に考察し、諸地域に形成された歴史的な特質を表現することができる。
			内容項目例（１） 諸地域の歴史的・特質への問い	
			(ア) 次の①から⑤などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ① 生業 ② 身分・階級 ③ 王権 ④ 宗教 ⑤ 文化・思想	(ア) ①から⑤などに関する資料を活用して、文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的・特質を読み解く観点について考察し、問いを表現する。
			内容項目例（２） 古代文明の歴史的・特質	
			(ア) 次の①から③などを題材に、古代文明の歴史的・特質を理解する。 ① オリエント文明 ② インダス文明 ③ 中華文明	(ア) 諸資料を活用して、古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、古代文明の歴史的・特質に関する主題について、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	世界史探究	B	諸地域の歴史的 特質の形成	統合的な理解	総合的な発揮
				資料等の情報を基に、諸地域の歴史的 特質への問いに照らして、世界各地に 共通性と多様性をもつ諸地域が形成 されたことについて理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や 年代、展開や変化、共通点や相違点、 背景や原因、結果や影響などに着目し、 政治、経済、社会、文化の特色などから、 文明や諸地域の共通性や多様性について 多面的・多角的に考察し、諸地域に形成 された歴史的な特質を表現することができる。
				内容項目例	
				(ア) 次の①及び②などを題材に、東アジアと中央 ユーラシアの歴史的 特質を理解する。 ① 秦・漢と遊牧国家 ② 唐と近隣諸国の動向	(ア) 諸資料を活用して、東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、東アジアと中央ユーラシアの歴史的 特質に関する主題について、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。
				(イ) 次の①及び②などを題材に、南アジアと東南アジアの歴史的 特質を理解する。 ① 仏教の成立とヒンドゥー教 ② 南アジアと東南アジアの諸国家	(イ) 諸資料を活用して、南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、南アジアと東南アジアの歴史的 特質に関する主題について、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。
			(ウ) 次の①及び②などを題材に、西アジアと地中海周辺の歴史的 特質を理解する。 ① 西アジアと地中海周辺の諸国家 ② キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成	(ウ) 諸資料を活用して、西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、西アジアと地中海周辺の歴史的 特質に関わる主題について、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。	

資質・能力の全体構造(素案)

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	世界史探究	資料等の情報を基に、諸地域の交流・再編への問いに照らして、諸地域の交流の拡大や新たな地域世界の形成、既存の地域世界の関係の変化について構造的に理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、諸地域の交流の広がりや深まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の交流や再編を表現することができる。
		内容項目例（１） 諸地域の交流・再編への問い	
		(ア) 次の①から④などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ① 交易の拡大 ② 都市の発達 ③ 国家体制の変化 ④ 宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播	(ア) ①から④などに関する資料を活用して、諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。
		内容項目例（２） 結び付くユーラシアと諸地域	
C 諸地域の交流・再編	世界史探究	(ア) 次の①から③などを題材に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がり理解する。 ① 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播 ② ヨーロッパ封建社会とその展開 ③ 宋の社会とモンゴル帝国の拡大	(ア) 諸資料を活用して、諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する主題について、諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。
		(イ) 次の①から③などを題材に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を理解する。 ① アジア海域での交易の興隆 ② 明と日本・朝鮮の動向 ③ スペインとポルトガルの活動	(イ) 諸資料を活用して、諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりに関する主題について、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	世界史探究	C 諸地域の交流・再編	(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	資料等の情報を基に、諸地域の交流・再編への問いに照らして、諸地域の交流の拡大や新たな地域世界の形成、既存の地域世界の関係の変化について構造的に理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、諸地域の交流の広がりや深まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の交流や再編を表現することができる。
				内容項目例	
				(ア) 次の①及び②などを題材に、アジア諸地域の特質を理解する。 ① 西アジアや南アジアの諸帝国 ② 清と日本・朝鮮などの動向 (イ) 次の①から③などを題材に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を理解する。 ① 宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争 ② 大西洋三角貿易の展開 ③ 科学革命と啓蒙思想	(ア) 諸資料を活用して、アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、アジア諸地域の特質に関する主題について、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大に関する主題について、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	世界史探究	D 諸地域の結合・変容	資料等の情報を基に、諸地域の結合・変容への問いに照らして、近代以降に世界の一体化が顕著になったことについて構造的に理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、地球規模での世界の一体化と相互依存の強まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の結合や変容を表現することができる。
			内容項目例（１）諸地域の結合・変容への問い	
			(ア) 次の①から⑥などに関する資料を選択して活用し、資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ①人々の国際的な移動 ②自由貿易の広がり ③マスメディアの発達 ④国際規範の変容 ⑤科学・技術の発達 ⑥文化・思想の展開	(ア) ①から⑥などに関する資料を活用して、諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。
			内容項目例（２）世界市場の形成と諸地域の結合	
			(ア) 次の①から③などを題材に、国民国家と近代民主主義社会の形成を理解する。 ①産業革命と環大西洋革命 ②自由主義とナショナリズム ③南北戦争の展開 (イ) 次の①から③などを題材に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を理解する。 ①国際的な分業体制と労働力の移動 ②イギリスを中心とした自由貿易体制 ③アジア諸国の植民地化と諸改革	(ア) 諸資料を活用して、大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、国民国家と近代民主主義社会の形成に関する主題について、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、世界市場の形成とアジア諸国の変容に関する主題について、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	世界史探究	D 諸地域の結合・変容	資料等の情報を基に、諸地域の結合・変容への問いに照らして、近代以降に世界の一体化が顕著になったことについて構造的に理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などに着目し、政治、経済、社会、文化の特色、それ以前との比較などから、地球規模での世界の一体化と相互依存の強まりについて多面的・多角的に考察し、諸地域の結合や変容を表現することができる。
			内容項目例（3）帝国主義とナショナリズムの高揚	
			(ア) 次の①及び②などを題材に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを理解する。 ① 第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争 ② アジア諸国の変革 (イ) 次の①から④などを題材に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を理解する。 ① 第一次世界大戦とロシア革命 ② ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成 ③ アメリカ合衆国の台頭 ④ アジア・アフリカの動向とナショナリズム	(ア) 諸資料を活用して、列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、世界分割の進展とナショナリズムの高まりに関する主題について、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容に関する主題について、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し、表現する。
			内容項目例（4）第二次世界大戦と諸地域の変容	
			(ア) 次の①及び②などを題材に、国際関係の緊張と対立を理解する。 ① 世界恐慌とファシズムの動向 ② ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺 (イ) 次の①及び②などを題材に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を理解する。 ① 第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序 ② 冷戦とアジア諸国の独立の始まり	(ア) 諸資料を活用して、世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、国際関係の緊張と対立に関する主題について、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 (イ) 諸資料を活用して、第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、(1)で考察した観点を踏まえた問いを踏まえて、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容に関する主題について、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	世界史探究	E 地球世界の課題	資料等の情報を基に、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質について理解するとともに、自ら設定した主題を基に時間軸と空間軸のスケールを活用して地球世界の課題を歴史的な経緯から理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現代世界とのつながりなどに着目し、現代世界の特質に関わる具体的に設定した主題から歴史的に形成された地球世界の課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
			内容項目例（１）国際機構の形成と平和への模索	
			(ア) 次の①から④などを題材に、紛争解決の取組と課題を理解する。 ① 集団安全保障と冷戦の展開 ② アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き ③ 平和共存と多極化の進展 ④ 冷戦の終結と地域紛争の頻発	(ア) 諸資料を活用して、国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、紛争解決の取組と課題に関する主題について、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
			内容項目例（２）経済のグローバル化と格差の是正	
			(ア) 次の①から⑤などを題材に、格差是正の取組と課題を理解する。 ① 先進国の経済成長と南北問題 ② アメリカ合衆国の覇権の動揺 ③ 資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換 ④ アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題 ⑤ 経済のグローバル化	(ア) 諸資料を活用して、国際競争の展開と経済格差に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、格差是正の取組と課題に関する主題について、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴、経済格差と政治や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	世界史探究	E 地球世界の課題	資料等の情報を基に、多元的な相互依存関係を深める現代世界の特質について理解するとともに、自ら設定した主題を基に時間軸と空間軸のスケールを活用して地球世界の課題を歴史的な経緯から理解する。	諸資料を効果的に活用して、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響、現代世界とのつながりなどに着目し、現代世界の特質に関わる具体的に設定した主題から歴史的に形成された地球世界の課題を多面的・多角的に考察したことを基に、よりよい社会の実現に向けた展望を構想し、表現することができる。
			内容項目例（３）科学技術の高度化と知識基盤社会	
			(ア) 次の①から④などを題材に、知識基盤社会の展開と課題を理解する。 ①原子力の利用や宇宙探査などの科学技術 ②医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理 ③人工知能と労働の在り方の変容 ④情報通信技術の発達と知識の普及	(ア) 諸資料を活用して、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、知識基盤社会の展開と課題に関する主題について、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
			内容項目例（４）地球世界の課題の探究	
			(ア) 次の①から③までのいずれかあるいは関連させて取り上げ、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地球世界の課題を理解する。 ①紛争解決や共生 ②経済格差の是正や経済発展 ③科学技術の発展や文化の変容	(ア) 内容のA、B、C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習を踏まえ、諸資料を活用して、地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
公民 公共 倫理 政治・経済	- 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解する。 - 諸資料から収集した情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 現代の諸課題について、事実を基に資料や概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力を養う。 - 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	- 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 - 諸資料から収集した、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。 - 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
	- 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 - 諸資料から収集した、人間としての在り方生き方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力を養う。 - 現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
	- 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解する。 - 諸資料から収集した、社会の在り方に関わる情報について、その妥当性を吟味しながら調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、考察するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力を養う。 - 構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 - 自らの考えを批判的に捉え直す力を養う。	- よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的かつ協働的に解決しようとする態度を養う。 - 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

見方・考え方

- 社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	公共	A 公共の扉	(1) 公共的な空間を作る私たち	人間がよりよく生きるためには、個人として尊重されるとともに、人間として成長し、自立的な主体として社会に参画する必要があることについて理解する。	個人の尊厳や人間と社会の多様性と共通性などの概念的な枠組みに着目し、自らの問題として、社会に参画する自立した主体とは何かということについて考察し、表現する。
				内容項目例	
				公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求して、 (ア) 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方 (イ) 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であること (ウ) 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くこと	公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求して、 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	公共	A 公共の扉	(2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方	主体的に社会に参画し、他者と協働する際に選択・判断を行う手掛かりとなる考え方について、人間としての在り方生き方に関連付けて理解する。	現代の倫理的課題について、幸福、正義、公正などの概念的な枠組みに着目し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や思考実験などを活用して考察することで、課題の本質を的確に捉え、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすための糸口などについて考察し、表現する。
				内容項目例	
				主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 (ア)選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方など (イ)現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、(ア)に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であること (ウ)人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能	主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 ・ 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	公共	A 公共の扉	(3) 公共的な空間における基本的原理	個人を尊重し、協働の利益を確保することなどが、公共的な空間を作る目的であることの理解のもとで、それと関連付けて公共的な空間における基本的原理を理解する。	幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目して、人間が協働する理由、協働関係を妨げる要因について考察した上で、公共的な空間における基本原理が、協働のための条件や協働関係を妨げる要因を取り除く工夫として、どのような役割を果たすかということについて、具体的な事例を挙げて、考察し、表現する。
				内容項目例	
				自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 (ア)各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であること (イ)人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。	自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	統合的な発揮
高等学校	公民	B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	人間としての在り方生き方に関する理解を深めつつ、法、政治及び経済などに関わる仕組みの特徴及びそれらが現代の諸課題の解決にどのように役立つかというこの理解のもとで、それらの仕組みの下で活動するために必要な知識を理解する。	現実社会の諸課題に関わる具体的な主題について、幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目し、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用して、関係する者の利害を適切に考慮した上で、考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
			内容項目例	
			自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して、 (ア)法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則(のつ)り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくこと (イ)政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであること (ウ)職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、人口減少社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であること (エ)現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して、 ・(ア)から(ウ)までの事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	公共	C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	統合的な理解	総合的な発揮
				地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、幸福、正義、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的な枠組みに着目し、 事実に基づいて考察した上で、その課題を解決する方法について、関係する者の利害を適切に考慮妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、協働して考察、構想し、論拠を基に自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために考え続けていく新たな問いを見いだす。
				内容項目例 持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究して、 地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	倫理	A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方	(1) 人間としての在り方生き方の自覚	人間としての在り方生き方に関わる概念や理論についての理解のもとで、人間としての在り方生き方について思索を深めることが大切であることを理解する。	古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
				内容項目例	
				人間の存在や価値に関わる基本的な課題について思索する活動を通して、 (ア)個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方 (イ)幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観及び人生における宗教や芸術のもつ意義 (ウ)善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観 (エ)真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観 (オ)古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能	古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、 - 自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 - 古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から、人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
			統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	倫理	A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方	日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について自己との関わりにおいての理解のもとで、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索することが大切であることを理解する。	古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
			内容項目例	
		(2) 国際社会に生きる日本人としての自覚	日本人としての在り方生き方について思索する活動を通して、 (ア) 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解する (イ) 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能	古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、 ・ 国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	倫理	B 現代の諸課題と倫理	(1) 自然や科学技術に関わる諸課題と倫理	統合的な理解	総合的な発揮
					他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、自然や科学技術と人間との関わりについての倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
				内容項目例	
					自然や科学技術との関わりにおいて、 社会的な視点や方法等を総合的に用いて 、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、 ・ 生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。
			(2) 社会と文化に関わる諸課題と倫理	統合的な理解	総合的な発揮
					様々な他者との協働、共生に向けて、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、社会と文化に関わる倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
				内容項目例	
					様々な他者との協働、共生に向けて、 社会的な視点や方法等を総合的に用いて 、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する活動を通して、 ・ 福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	政治・経済	A 現代日本における政治・経済の諸課題	(1) 現代日本の政治・経済	個人の尊厳と基本的人権の尊重などの社会の在り方を捉える概念的な枠組みに基づき、現代日本の政治・経済、その諸課題に関わる概念や理論について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。	個人の尊厳と基本的人権の尊重などの概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、 - 現代日本の政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、考察し、表現する。 - 政治・経済に関わる諸事象に見られる矛盾や対立などを見だし、その解決に向けて、望ましい現代日本の政治・経済の仕組みや制度の在り方について、考察、構想し、表現する。
				内容項目例	
				個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 (ア)政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治にかかわる現実社会の事柄や課題 (イ)経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みにかかわる現実社会の事柄や課題 (ウ)現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能	個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 - 民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 - 政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 - 経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。 - 市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	政治・経済	A 現代日本における政治・経済の諸課題	(2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究		合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から現代日本社会の課題を見だし、社会的な視点や方法等を総合的に用いて、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを広い視野から説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
					内容項目例 社会的な視点や方法等を総合的に用いて、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究して、 人口減少社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	政治・経済	B 国際社会の諸課題	(1) 現代の国際政治・経済	現代の国際政治・経済、その諸課題に関わる概念や理論について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。	個人の尊厳と基本的人権の尊重などの概念的な枠組みに着目して、政治・経済に関わる基本原理と関連付けて、 - 国際政治・経済の仕組みや制度とそれらの課題について、考察し、表現する。 - 政治・経済に関わる諸事象に見られる課題などを見だし、その解決に向けて、望ましい国際政治・経済の仕組みや制度の在り方について、考察、構想し、表現する。
				内容項目例	
				国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深めることに向けて、個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 (ア)国際社会の変遷、人権、国家主権、領土(領海、領空を含む。)などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献にかかわる現実社会の事柄や課題 (イ)貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割にかかわる現実社会の事柄や課題 (ウ)現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能	国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深めることに向けて、個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりして、 - 国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現する。 - 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 - 相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現する。 - 国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

資質・能力の全体構造(素案)

				知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
				統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	政治・経済	B 国際社会の諸課題	(2) 国際社会の諸課題の探究		合意形成や社会参画に向けて、他者と協働して持続可能な社会を形成するという観点から国際社会の課題を見だし、社会的な視点や方法等を総合的に用いて、関係する者の利害を適切に調整し、その課題の解決の在り方について、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、考察、構想し、自分の考えを広い視野から説明、論述することを通して、私たちがよりよい社会を築いていくために探究し続けていく新たな問いを見いだす。
					内容項目例 社会的な視点や方法等を総合的に用いて、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題を探究して、 ・ グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。

※概念的な枠組みは一人一人異なっていることに留意する。

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ

現行の記載

- ・側面①「各教科等の学びの深まりを示す」観点と、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点が混在

<地理>

【現行の見方・考え方】

見方・考え方

- ・位置や空間的な広がり
- ・地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 位置や分布に関わる視点（絶対的、相対的、地域差など）
 - 場所に関わる視点（自然的、社会的など）
 - 人間と自然の相互依存関係に関わる視点（環境依存性、伝統的、改変、保全など）
 - 空間相互依存作用に関わる視点（関係性、相互性 など）
 - 地域に関わる視点（一般的共通性、地方的特殊性 など）

<歴史>

【現行の見方・考え方】

見方・考え方

- ・時期、推移など
- ・類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付ける

- ※H28答申「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージ例より
- 時系列に関わる視点（時期、年代など）
 - 諸事象の推移に関わる視点（展開、変化、継続など）
 - 諸事象の比較に関わる視点（類似、差異、特色など）
 - 事象相互のつながりに関わる視点（背景、原因、結果、影響など）

見直し案

- ・新たな「**見方・考え方**」については、側面②「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核を示す」観点として、**当該分野等の本質を示す事項に焦点化**。
- ・**高次の資質・能力**については、側面①「各教科等の学びの深まりを示す事項」として、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等の内容に即して**具体的に示す**こととしてはどうか。

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」

- ・地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係など
- ・よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高次の資質・能力での記載事項】

- <視点>
- 位置や分布（**地域の空間的な広がり**に関わる視点）
 - 人間生活と自然環境との関係（**地域の環境**に関わる視点）
 - 地域間の結び付き（**地域の空間的な広がり**、**地域間の関係**に関わる視点）
 - スケール（**地域の空間的な広がり**、**地域間の関係**に関わる視点）
 - 変容（**地域の空間的な広がり**、**地域の環境**、**地域間の関係**に関わる視点）
- <方法>
- ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

【新たな「見方・考え方」】

新たな「見方・考え方」

- ・時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなど
- ・よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること

【高次の資質・能力での記載事項】

- <視点>
- 時期や年代（**時系列**に関わる視点）
 - 展開や変化（諸事象の**推移**に関わる視点）
 - 共通点や相違点（過去の歴史との**類似や差異**に関わる視点）
 - 背景や原因、結果や影響（**因果関係**に関わる視点）
- <方法>
- ※各内容項目の特性に応じて、具体的な考察の方法等を記載

社会科等の新たな「見方・考え方」の見直しイメージ（案） <教科科目・分野一覧>

教科科目・分野	現行の記載	見直し案
小学校社会	【社会的事象の見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
中学校社会 （地理的分野）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	社会的事象やその言説を、地域の空間的な広がり、地域の環境、地域間の関係などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 （地理総合、地理探究）	【社会的事象の地理的な見方・考え方】 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること	
中学校社会 （歴史的分野）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	社会的事象やその言説を、時系列、推移、類似や差異、因果関係や現在とのつながりなどに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校地理歴史 （歴史総合、日本史探究、世界史探究）	【社会的事象の歴史的な見方・考え方】 社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること	
中学校社会 （公民的分野）	【現代社会の見方・考え方】 社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること
高等学校公民 （公共）	【人間と社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	社会的事象やその言説を、倫理、政治、法、経済などに関わる概念や理論などに着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることや、よりよい社会の形成に向けて課題を多面的・多角的に考え、根拠に基づき公正に判断すること （見方・考え方） ●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。
高等学校公民 （倫理）	【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】 社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	
高等学校公民 （政治・経済）	【社会の在り方についての見方・考え方】 社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること	

社会的事象等について調べまとめる技能（小・中・高等学校）

※青字は再整理
※赤字は新たに追記した技能

○調べまとめる技能

情報を収集する技能

手段を考えて課題解決に必要な社会的
事象等に関する情報を収集する技能

【1】諸資料の種類と情報を収集する

- 資料の種類と情報
 - ・地図等から位置関係や形状、記載内容などの情報を収集する
 - ・年表から出来事や時期などの情報を収集する
 - ・統計から傾向や変化などの情報を収集する
 - ・新聞、図書、画像や現物資料などから情報を収集する
- その他
 - ・体験活動を通した仕事などに関する情報を収集する
 - ・博物館等の施設、学校図書館やICT端末等を活用した映像や読み物などの情報を収集する
 - ・ICT端末や情報通信ネットワークなどを活用した情報を収集する

【2】調査活動を通した情報を収集する

- 社会調査活動
 - ・地域住民等を対象にした聞き取り調査やアンケート調査による情報を収集する
- 野外調査活動
 - ・現地の様子や実物を観察し、情報を収集する
 - ・写真撮影等で観察し、情報を収集する
 - ・地図と現地との対応関係を観察し、情報を収集する

情報を読み取る技能

収集した情報を社会的な視点や方法等に
沿って読み取る技能

【1】情報全体の傾向や趣旨を読み取る

- ・位置や分布など全体的傾向を読み取る
- ・量や変化など全体的傾向を読み取る
- ・博物館等の展示物から展示テーマの趣旨を読み取る

【2】必要な情報を読み取る

- 事実を正確に読み取る
 - ・形状、種類、大きさ、名称などの情報を読み取る
 - ・方位、記号などを読み取る（地図）
 - ・年号や時期、前後関係などを読み取る（年表）
- 有用な情報を読み取る
 - ・学習上の課題解決に向けた情報を読み取る
 - ・目的に応じた情報を選別して読み取る
- 信頼できる情報を確認して読み取る

【3】複数情報を見比べ、結び付ける

- ・異なる情報を見比べ（異なる地域の様子など）て、結び付ける（土地利用の様子など）
- ・同一事象に関する異種資料（グラフなど）の情報を見比べて、結び付ける
- ・同種の資料における異なる表現（複数の地図、複数の新聞や複数の原典資料など）を見比べて結び付ける

情報をまとめる技能

読み取った情報を課題解決に向けてまとめる
技能

【1】活用できる基礎資料としてまとめる

- ・聞き取ってメモにまとめる
- ・情報を地図やグラフなどにまとめる（数値情報をグラフなどに転換など）

【2】分類・整理してまとめる

- ・項目やカテゴリーごとに整理しまとめる
- ・順序や因果関係など整理し年表にまとめる
- ・位置や方位など整理し白地図にまとめる
- ・相互関係を整理し図（フローチャートなど）にまとめる
- ・ICT端末等でデジタル化した情報を統合・編集してまとめる

【3】情報の受け手に向けて、分かりやすさに留意してまとめる

- ・効果的な形式でまとめる
- ・主題に沿ってまとめる
- ・レイアウトを工夫しまとめる
- ・表などの数値で示された情報を地図等に変換する

○情報の妥当性の確認

●情報手段の特性や情報の確かさに留意した情報を収集する

- ・資料の表題、出典、年代、作者などを確認し、その信頼性を踏まえつつ情報を収集する
- ・情報手段の特性に留意して情報を収集する
- ・情報発信者の意図などに留意し情報を収集する
- ・情報の有効性（データの新旧など）に留意し情報を収集する

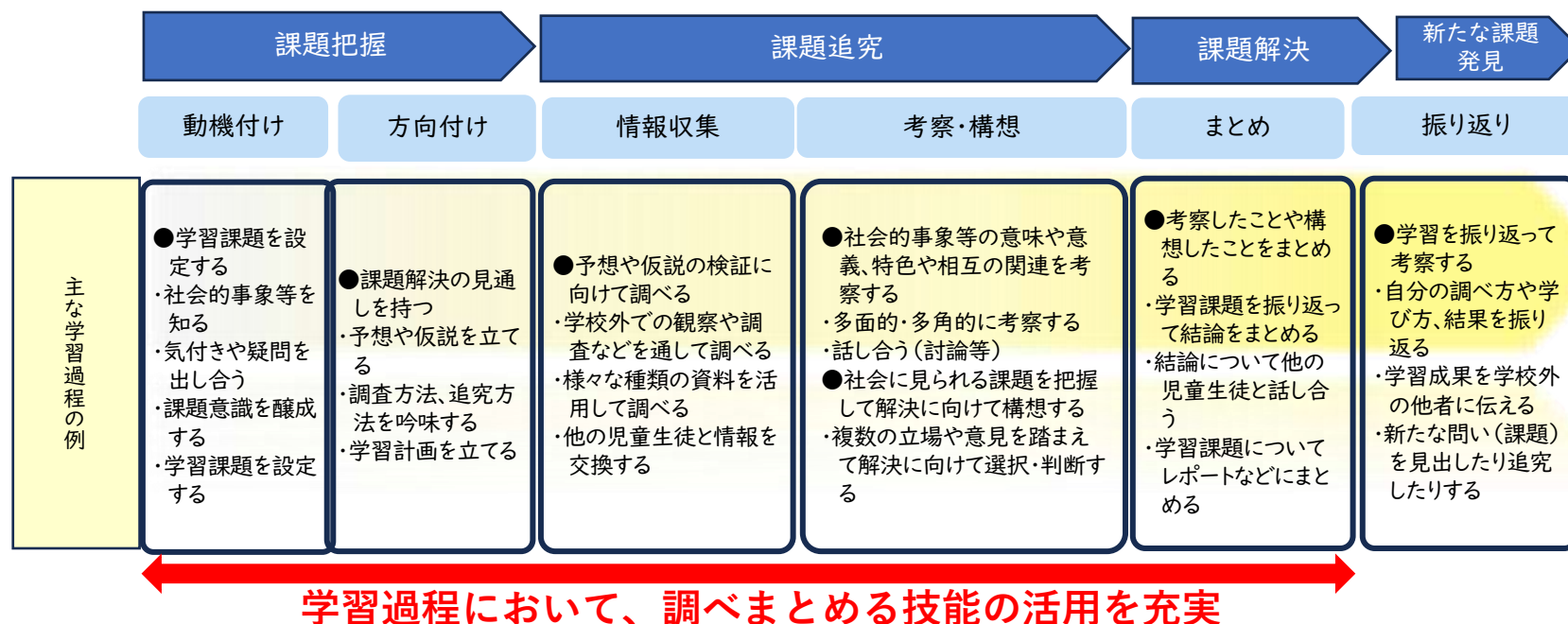
●資料の特性に留意して適切かつ効果的に情報を読み取る

- ・歴史資料の作成目的、時期、方法や作成者を踏まえて読み取る
- ・地図や年表などの主題や示された情報の種類や類型を踏まえて読み取る
- ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る
- ・資料の価値や限界を読み取る

●自らの整理した情報が妥当であるか吟味しまとめる

- ・まとめた情報の根拠を他者とも共有（活用した資料などの典拠などを明記するなど）する
- ・まとめた情報に含まれる他者の考えや資料などの引用部分を明示する
- ・まとめた情報について妥当性があるかを確認する

社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ



<中学校社会「解説」2-1 教科の目標 p.24>

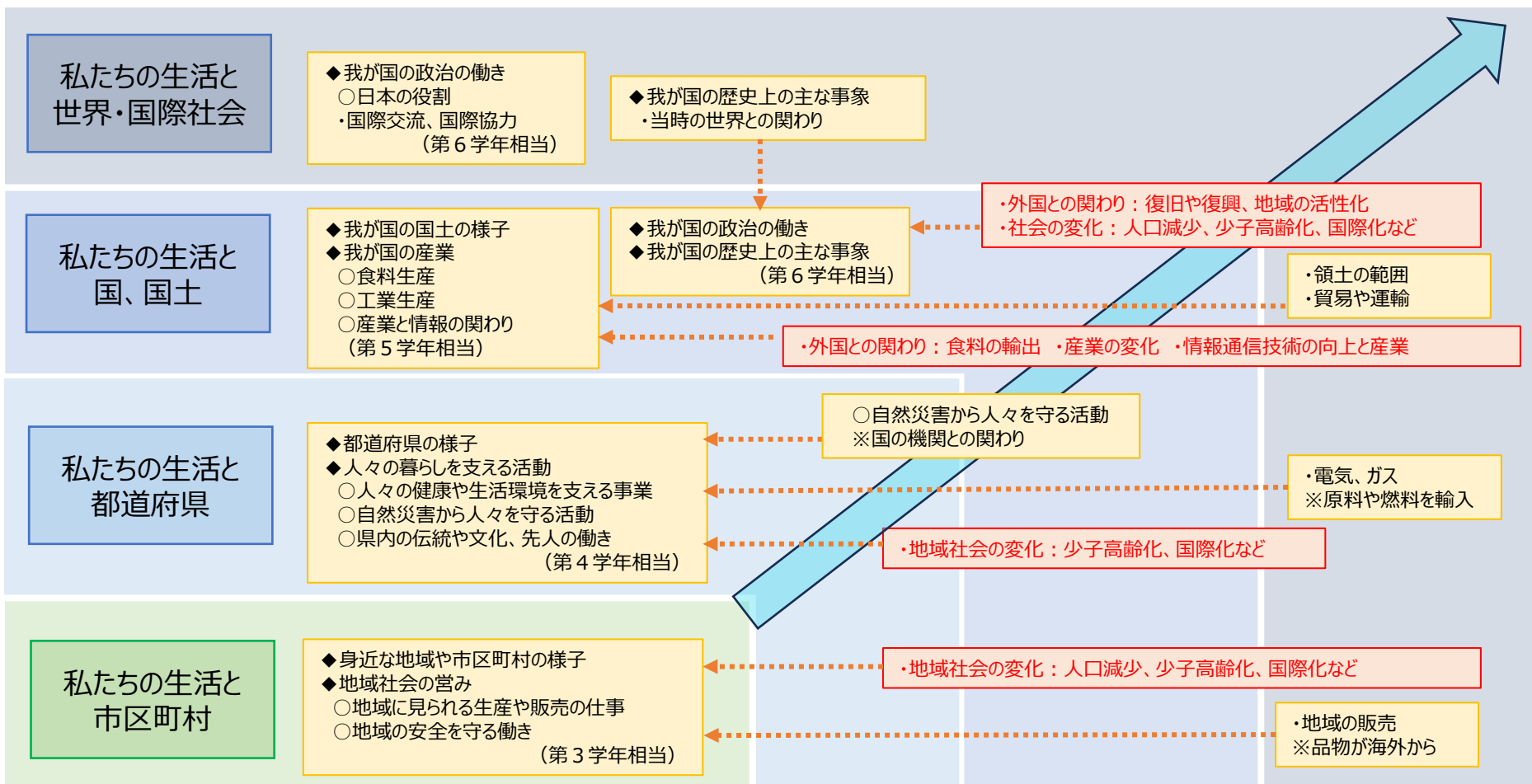
課題を追究したり解決したりする活動については、単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習などを指している。こうした学習は、従前から「適切な課題を設けて行う学習」として、その充実が求められており、「課題を追究したり解決したりする活動」はそれと趣旨を同じくするものである。そこでは、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切である。三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。それらはいずれも「知識及び技能」を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されると考えられるからである。そのため「課題を追究したり解決したりする活動を通して」という文言が目標に位置付けられている。（中学校社会「解説」p.24 2-1 教科の目標）

小学校社会科における系統性・体系性の再整理

令和8年2月27日
社会等WG（第5回）
【資料1】P50
（新規追加）

グローバル化する国際社会に伴い、国際的な環境に身近に触れる機会が急激に高まっていることを踏まえ、**グローバル化などの地域社会の変化を含めた内容について見直し**はどうか。例えば、市町村や都道府県の様子などを扱う際に、**自分たちの身近な地域においてもグローバルな環境との接点が増えてきていることについての理由や背景**などについて学習することとしてはどうか。

その際、発達段階にも考慮し、**身近な地域から始め、国際社会へと広げていくという考え方は継続**することとしてはどうか。



現行学習指導要領で扱っている事項



新たに追加すべき観点

中学校社会科における改善イメージ（案）

令和8年2月27日
社会等WG（第5回）
【資料1】P51
（新規追加）

小学校・中学校・高等学校のより系統性・体系性をもった学びを実現し、よりよい社会の実現を視野に、課題を見だし、主体的かつ協働的に解決しようとする社会の担い手としての資質・能力の育成を図る観点から、小学校社会科と高等学校地理歴史科・公民科をつなぐ中学校社会科における地理・歴史・公民の各分野を有機的に結び付ける、分野横断的な単元（A・B・C）を新設することとしてはどうか。

その際、地理的分野、歴史的分野、公民的分野における必要な学習が適切に実施されるとともに、地理的分野及び歴史的分野の学習の基礎のもとに公民的分野へ円滑に移行されるよう、実施時期も念頭に検討を行うこととしてはどうか。あわせて、既存の学習事項の移行や統合、精選など学習内容の整理を行うことで、全体として学習内容の増加とならないよう検討することとしてはどうか。

小学校社会科

中学校社会科

【分野横断】A 社会への扉（仮称）

小学校社会科の学習を踏まえた
中学校社会科への導入単元

地理的分野

歴史的分野

【分野横断】B 私たちと社会（仮称）

地理的分野と歴史的分野の学習を踏まえた
公民的分野（現代社会）への接続単元

公民的分野

【分野横断】C よりよい社会を目指して

生徒が課題を探究する活動を通して、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題の解決に向けて考察・構想する中学校社会科のまとめ単元

高等学校

地理歴史科・公民科

分野横断A「社会への扉」の学習イメージ

<単元の問いの例>

私たちの暮らす社会を理解し、社会と自分との関わりを考えるためには、どのように学び方を工夫できるだろうか。

<導入単元に期待されること>

- ・社会科の3年間の学習の流れや分野ごとの学習の見通しをもつ
- ・地理的分野（世界や日本の学習）への動機付け
- ・歴史的分野（各時代の特色の学習）への動機付け

<単元の題材・学習例> 小学校社会科における市区町村から世界・国際社会の学習を総合的に活用

分野横断B「私たちと社会」の学習イメージ

<単元の問いの例>

多様な地域や環境、様々な歴史の中で、私たちは社会の一員としてどのように関わることができるだろうか。

<接続単元に期待されること>

- ・公民的分野（現代社会を捉える視点や方法（考え方）やそれらを用いて課題の解決を図る学習）への動機付け

<単元の題材・学習例> 身近な地域から社会の課題を見出し、他の地域や歴史と関連付けて考察し、課題の解決に向けて選択・判断

分野横断C「よりよい社会を目指して」の学習イメージ（現行の公民的分野のD(2)）

<単元の問いの例>

社会に参画する主体として私たちがよりよい社会を築いていくためにはどのようにすればよいだろうか。

<まとめ単元に期待されること>

- ・社会参画意識の醸成（期待される視点例：現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていくために解決すべきことはなにか。私たちがよりよい社会を築いていくために、どのようなことを考え続けていくか。）

<単元の題材・学習例> 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について考察・構想し、構想したことを妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて表現

現実社会から課題を捉える手法としての地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）を分野横断の学習を行う際の主な方法（※）として位置付けてはどうか。

（※）分野横断の各単元のねらいに対して、地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）が直接体験を生み出すことで、よりよい学びを促す方法となることを例示したり、具体的な手法を例示したりすることにより、教員が取り組みやすくすることを検討。

**算数・数学WGにおける議論の補足イメージ
及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校・中学校・高等学校	- 数学における基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	- 事象を数理的に捉え、解決の見通しをもって論理的、批判的に考察する力を養う。 - 数学の問題解決の過程や結果を振り返ったり、既習の事柄と関連付けたりするなどして統合的・発展的に考察する力を養う。 - 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。	- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。 - 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。 - 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 - 数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

見方・考え方

- 事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること

高等学校各科目の目標 (素案)

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
数学 I	- 多項式、論証、図形の計量、関数、データの活用についての基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 - 多項式を目的に応じて整理したり、方程式や不等式を解いたり、定理を用いて三角形の辺や角の大きさを求めたり、関数の表・式・グラフを相互に関連付けたり、基本的な統計量を求めたりする技能を身に付ける。	- 事象を式に表現したり図形として捉えたり関数関係に着目したりして論理的に考察する力、社会の事象などから問題を設定してデータを用いて分析し批判的に考察する力、日常生活や社会の事象における判断や意思決定に数学を活用する力を養う。 - 式を用いた問題解決や証明の過程及び図形を計量する方法や関数についての考察を振り返るなどして統合的・発展的に考察する力を養う。 - 集合や命題、式、グラフ、図などを用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。	- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。 - 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。 - 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 - 数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

資質・能力の全体構造（素案）

数と式			
数・量		式	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
- 数は、量の大きさや順序を表し、数を使うことで、大小を比べたり、計算したりできることを理解する。 - 数は、既習の数の表し方や計算の仕方を基にして、数の範囲を整数、小数、分数に広げること、数を使って考えられる対象が広がることを理解する。 - 量は、単位を基にすることで、大きさを測って数で表したり、その数を用いて異なるものの大きさを比べたりすることができることを理解する。	- 数のまとまりや表し方の仕組み、計算に関して成り立つ性質に着目し、数の大きさの比べ方、表し方、計算の仕方を考察して、問題の解決に生かす。 - 長さ、かさ、広さといった量の特徴に着目し、目的に応じて適切な単位や計器を選んで測定することで、量の大きさを数で表現したり、その数を基に比べたりする。	式は、数と記号を使って、数量や数量の関係を簡潔にわかりやすく表せることを理解する。	事象における数量の関係や計算の意味に着目し、式の表し方や計算の結果について考察する。
内容項目例		内容項目例	
- 数の構成と表し方 - 整数、小数、分数 - 概数、四捨五入 - 量と測定についての理解の基礎 - 長さの単位と測定 - かさの単位と測定 - 重さの単位と測定 - 時刻と時間	- 数のまとまりや十進位取り記数法の仕組みに着目し、数の大きさの比べ方や数え方、表し方に関する問題として表現すること。 - 量の特徴に着目し、量の大きさを表したり、比べたりして、考察の対象とすること。	- 加法が用いられる式とその意味 - 減法が用いられる式とその意味 - 乗法が用いられる式とその意味 - 除法が用いられる式とその意味 - 四則を混合した式や（ ）を用いた式 - 公式 □、△ などを用いた式 - 文字式	- 数量の関係に着目し、式に表して、考察の対象とすること。 - 式の表し方について考察すること。 - 考察した式を事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
- 数は、量の大きさ、順序を表し、大小比較したり、計算したりできることを理解する。 - 数は、既習の数の表現や計算と関連付けて範囲を拡張することで、より広範な事象を考察できるようにすることを理解する。	- 数の範囲に着目し、数の表し方や大きさの比べ方を考察し、大小比較や計算などに生かす。 - 計算に関して成り立つ性質に着目し、拡張した数の計算の仕方について考察したり、拡張した数の計算を問題の解決に生かしたりする。	- 文字や文字式は、数量や数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、目的に応じた形に変形することで、数量や数量の関係について説明できることを理解する。 - 方程式は、等しい数量の関係を表し、条件を満たす値を形式的に求められることを理解する。	- 計算に関して成り立つ性質に着目し、文字式の計算の仕方について考察し、式の計算を問題の解決に生かす。 - 事象における数量や数量の関係に着目し、式で表し、変形して結果を得るとともに、その結果を解釈する。
内容項目例		内容項目例	
- 正負の数 - 平方根	- 数の範囲に着目し、数の表し方や大きさの比べ方に関する問題として表現すること。 - 数の表し方や大きさの比べ方を考察し、数の範囲を拡張すること。 - 拡張した数を具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。 - 整数の性質について考察すること。	- 文字を用いることの必要性和意味 - 文字式 - 一元一次方程式 - 連立二元一次方程式 - 多項式 - 二次方程式	- 数量や数量の関係を式で表して考察の対象とすること。 - 式を目的に合った形に変形し、事象を論理的に考察すること。 - 数や数量に関して考察した結果を具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。

資質・能力の全体構造（素案）

		数と式			
		数・量		式	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	数学Ⅰ			式は、数量や数量の関係を簡潔・明瞭かつ一般的に表し、目的に応じた形に変形することで、数量や数量の関係について説明したり、条件を満たす値の範囲を形式的に求めたりできることを理解する。	事象における数量や数量の関係に着目し、式で表現し、変形して結果を得るとともに、その結果を解釈する。
		内容項目例		内容項目例	
				- 二次の乗法公式及び因数分解の公式 - 不等式の解の意味や不等式の性質、一次不等式の解を求めること	- 事象における数量や数量の関係に着目し、問題の状況を多項式や一次不等式を用いて表現すること。 - 既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすること。 - 不等式の性質を基にして、一次不等式を解く方法について考察すること。(1)ウ - 多項式を変形した結果や一次不等式の解を事象に即して解釈すること。

資質・能力の全体構造（素案）

	図形			
	図形の性質		図形の計量	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
小学校	図形は、頂点、辺、角、面などの構成要素やそれらの位置関係、二つの図形間の関係によって説明することができ、それに基づいて、図形を分類したり、作ったりできることを理解する。	図形は、頂点、辺、角、面などの構成要素やそれらの位置関係、二つの図形間の関係に着目し、図形の構成の仕方や性質を考察して、それを他の図形にも活用したり、図形の計量の考察に生かしたりする。	図形は、辺の長さや角の大きさを数量で捉えることができ、それを用いると、平面や立体の図形における面積、体積、角度などの直接測れない量を求めたり、平面や立体に関する様々な問題を考えたりできることを理解する。	- 図形の辺や角といった構成要素や、辺や面の平行や垂直といった位置関係に着目し、辺や角を数量で捉え、その数量を用いて処理して、得られた結果を解釈する。 - 図形を計量した過程を一般化し、公式を導く。
	内容項目例		内容項目例	
	- 図形についての理解の基礎 - 三角形や四角形などの図形 - 二等辺三角形、正三角形などの図形 - 平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形 - 平面図形の性質 - 立体図形の性質 - 縮図や拡大図、対称な図形	- ものの形や図形の構成要素、位置関係、図形間の関係に着目し、図形の性質に関する問題として表現すること。 - 図形の性質について考察したり、考察した性質をもとに、図形を分類したり構成したりすること。 - 考察した性質を、他の図形にも広げ、新たな性質について考察すること。	- 量と測定についての理解の基礎【再掲】 - 長さの単位と測定【再掲】 - 平面図形の面積 - 角の大きさ - 平面図形の面積 - 立体図形の体積	- 日常生活や社会の事象などを、形・大きさ・位置関係などに着目して捉え、図形の計量に関する問題として表現すること。 - 既習の図形の面積や体積の求め方と関連付け、図形の面積や体積の求め方を考察すること。また、角度の求め方を考察すること。 - 考察した面積や体積の求め方と、計量の過程や結果を振り返って一般化して、図形の計量に関する公式を導くこと。
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	図形は、構成要素やそれらの位置関係、図形間の関係によって特徴づけることができ、それに基づいて、分類したり、構成したりできることを理解する。	図形の構成要素やそれらの位置関係、図形間の関係に着目し、図形の構成の仕方や性質を考察し、それを図形の計量や証明、事象の考察に生かす。	図形は、構成要素やその間の関係を数量的に捉えることができ、それに基づいて、直接測れない量を求めたり、平面や空間における様々な問題を考察したりできることを理解する。	- 事象における形、大きさ、位置関係に着目し、図形として捉え、数量的に処理し、得られた結果を解釈する。 - 図形を計量した過程や結果を基に一般化し、定理や公式を導く。
	内容項目例		内容項目例	
	- 作図 - 平行移動、対称移動及び回転移動 - 空間における直線や平面の位置関係 - 直線や平面図形の運動と空間図形 - 空間図形と平面上の表現 - 平行線や角の性質の意味 - 多角形の角 - 円周角と中心角	- 事象から図形の性質や関係を推測し、図形の性質や関係に関する問題として表現すること。 - 図形の性質に着目し、基本的な作図の方法を考察すること - 図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察すること - 考察した図形の性質を具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。	- 扇形の弧の長さや面積、柱体や錐体、球の表面積と体積 - 相似な図形の相似比と面積比や体積比 - 三平方の定理	- 日常生活や社会の事象などを、形・大きさ・位置関係などに着目して捉え、図形の計量に関する問題として表現すること。 - 図形の構成要素の関係に着目し、図形の長さや角度、面積の求め方を考察すること。 - 計量の過程や結果を振り返って一般化して、図形の計量に関する定理や公式を導くこと。 - 導いた定理や公式を事象の考察に活用すること。

資質・能力の全体構造（素案）

		図形			
		図形の性質		図形の計量	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	数学 I			図形は、構成要素やその間の関係を数量的に捉えることができ、それに基づいて、直接測れない量を求めたり、平面や空間における様々な問題を考察したりできることを理解する。	- 事象における形及び長さや角度の間の関係に着目し、図形として捉え、数量的に処理して、得られた結果を解釈する。 - 事象を考察した過程や結果を基に拡張したり一般化したりし、定理や公式を導く。
		内容項目例		内容項目例	
				- 鋭角の三角比 - 三角比の鈍角まで拡張 - 鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法 - 正弦定理、余弦定理、正弦を用いた面積公式を用いて三角形の辺や角の大きさ、面積を求めること	- 日常生活や社会の事象などを、形・大きさ・位置関係などに着目して捉え、図形の計量に関する問題として表現すること。 - 図形の構成要素の関係に着目し、図形の長さや角度、面積の求め方を考察すること。 - 計量の過程や結果を振り返って拡張・一般化し、図形の計量に関する定理や公式を導くこと。 - 導いた定理や公式を事象の考察に活用すること。

資質・能力の全体構造（素案）

		変化と関係	
割合と比		関数	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を数で表したものであり、その数を用いて、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する。	事象における二つの数量の関係に着目し、比べ方を考察して、判断に生かす。	伴って変わる二つの数量は、一方の数量ともう一方の数量の変化と対応の関係によって説明でき、それに基づいて、未知の数量を予測できることを理解する。	事象における伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表、式、グラフを用いて表現・処理して得られた結果を、事象に照らして解釈する。
内容項目例		内容項目例	
- 簡単な場合についての割合 - 異種の二つの量の割合 - 割合 - 比	- 事象における二つの数量の関係に着目し、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる問題として表現すること。 - ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を、図や式などを用いて考察すること。 - 考察したある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を、様々な事象にも活用して適用範囲を広げること。	- 伴って変わる二つの数量変化 - 表や式、グラフ - 簡単な場合の比例、反比例	- 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係に着目し、伴って変わる二つの数量を用いた問題として表現すること。 - 伴って変わる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、数量の変化や対応の様子などを考察すること。 - 具体的な事象に即して変化や対応の特徴を考え、説明するとともに、類似の事象にも活用して適用範囲を広げること。
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解する。	事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。
内容項目例		内容項目例	
		- 関数、座標の意味、表、式、グラフ - 比例、反比例 - 一次関数、二元一次方程式を関数を示す式とみること - 関数 $y=ax^2$	- 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を関数と仮定すること。 - 伴って変わる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べたり、相互に関連付けて捉えたりすることによって、数量の変化や対応の様子などを考察すること。 - 数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。

資質・能力の全体構造（素案）

変化と関係			
割合と比		関数	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		- 関数は、一方の値を決めると他方の値がただ一つに決まる対応関係として数量間の関係を扱い、事象の変化を把握したり予測したりできることを理解する。 - 関数のグラフは、方程式や不等式の解を、軸や他のグラフとの位置関係として表せることを理解する。	事象において、ある数量とそれに関係する別の数量との関係に着目し、関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。
内容項目例		内容項目例	
		- 二次関数の値の変化やグラフの特徴 - 二次関数の最大値や最小値 - 二次関数と二次方程式及び二次不等式の解	- 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を二次関数と仮定すること。 - 二次関数の式とグラフの関係について、表と関連付けたりするなどして考察すること。 - 二次方程式や二次不等式の解について、二次関数のグラフと関連付けて考察すること。 - 数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。

資質・能力の全体構造（素案）

データと確からしさ			
場合の数と確率		統計	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
場合の数は、漏れや重複がないように効率よく数え上げた起こり得る場合の総数であり、事象が起こり得る場合に分けて整理できることを理解する。	事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、漏れや重複なく調べる方法を考えて、起こり得る場合を整理する。	データは、身の回りの事象を数量で表現し、目的に応じて表やグラフなどを用いて表して、その特徴や傾向を捉えることで、判断の根拠にできることを理解する。	事象におけるデータの特徴や傾向に着目し、目的に応じてデータを収集したり分析手法を選択したりして判断するとともに、その判断が適切かどうか吟味する。
内容項目例		内容項目例	
・ 場合の数	・ 事象の特徴に着目し、起こり得る場合を調べるときを、数学的に考察する対象とすること。 ・ 順序よく整理するための観点を決めて、漏れや重複なく調べるための方法を考察し、起こり得る場合を整理すること。 ・ 考察した漏れや重複なく調べるための方法を、条件を変えて発展的に考えたり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。	・ 絵や図を用いた数量の表現 ・ 簡単な表やグラフ ・ 表と棒グラフ ・ データの分類整理 ・ 円グラフや帯グラフ ・ 測定値の平均 ・ データの考察	・ 目的に応じて統計的に解決可能な問題を設定すること。 ・ 問題を解決するために必要なデータを収集する計画を立てること。 ・ データを収集、整理し、目的に応じてデータの特徴や傾向について考察すること。 ・ データの特徴や傾向に基づく判断や主張について説明し、その妥当性について考察すること。 ・ 概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法を考え、それを学習や日常生活に生かすこと。
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
確率は、ある事象の起こりやすさを数値で表現し、不確定な事象の判断の根拠にできることを理解する。	事象の起こりやすさに着目し、それを数値で表して把握し、未知の状況について予測したり判断したりする。	・ データの分布は、値の集まり方や散らばり具合の様子を表し、その特徴を捉えることで、判断の根拠にできることを理解する。 ・ 標本調査は、一部のデータに基づいて全体の傾向を推測できるとともに、標本調査では予測や判断に誤りが生じる可能性があることを理解する。	事象におけるデータの分布に着目し、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりして分析し、判断するとともに、その妥当性について吟味する。
内容項目例		内容項目例	
・ 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率 ・ 場合の数を基にして得られる確率 ・ 簡単な場合の確率	・ 事象に 0 以上 1 以下の数を対応させ、数学的に考察する対象とすること。 ・ 確率の求め方について考察すること。 ・ 確率を用いて不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、その結果の妥当性を判断すること。	・ ヒストグラム、相対度数 ・ 四分位範囲、箱ひげ図 ・ 標本調査	・ 目的に応じて統計的に解決可能な問題を設定すること。 ・ 問題を解決するために必要なデータを収集する計画を立てること。 ・ データを収集、整理し、目的に応じてデータの特徴や傾向について考察すること。 ・ データの特徴や傾向に基づく判断や主張について説明し、その妥当性について考察すること。

小学校

中学校

資質・能力の全体構造（素案）

		データと確からしさ			
		場合の数と確率		統計	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
				事象におけるデータの変動や確からしさに着目し、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりして分析し、判断するとともに、その妥当性について吟味する。	事象におけるデータの変動や確からしさに着目し、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりして分析し、判断するとともに、その妥当性について吟味する。
		内容項目例		内容項目例	
高等学校	数学Ⅰ			- 分散、標準偏差 - 散布図、相関係数 - デジタルツールの利活用 - 仮説検定の考え方	- 目的に応じて統計的に解決可能な問題を設定すること。 - データを収集、整理し、データの変動に着目して、データの散らばり具合や傾向を数値化する方法について考察すること。 - 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現すること。 - 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張に関する仮定とデータの矛盾の程度を評価する方法について、実験などを通して考察すること。 - 分析したことに基づいて判断し、その妥当性について吟味すること。

資質・能力の全体構造（素案）

		論証	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校		統合的な理解	総合的な発揮
		内容項目例	
中学校		統合的な理解	総合的な発揮
		証明は、既に正しいと認められた事柄を基にして、論理的に結論を導くことにより、性質が常に成り立つことを説明できることを理解する。	事象から性質などを推測したり、推測された性質などを証明したりするとともに、その仮定や結論を振り返って新たな性質を推測し、元の事象と関連付けて考察する。
		内容項目例	
高等学校	数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮
		証明は、条件を満たす対象を集合、その包含関係を命題として捉えることにより、条件を満たすすべての対象において性質が成り立つことを論理的に保証できることを理解する。	事象における条件に着目し、条件の関係を集合の包含関係として命題に表し、その真偽について論理的に考察し説明するとともに、その過程や結論を振り返って新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察する。
		内容項目例	
高等学校	数学Ⅰ	- 証明及びその方法の必要性と意味 - 平面図形の合同及び三角形の合同条件の意味 - 平面図形の相似及び三角形の相似条件の意味	- 事象から数や図形の性質、関係を推測し、数や図形の性質、関係に関する問題として表現すること。 - 性質や定理を活用して論理的に考察すること。（※反証も含む） - 推論の過程を振り返って、新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察すること。
		- 集合 - 命題と証明 - 等式や不等式の証明	- 事象から性質などを推測し、命題として表現すること。 - 集合に基づいたり同値性に基づいたりして命題の真偽について証明すること。 - 証明の過程に着目し、新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察すること。

資質・能力の全体構造（素案）

		社会を読み解く数学	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校		統合的な理解	総合的な発揮
		内容項目例	
中学校		統合的な理解	総合的な発揮
		内容項目例	
高等学校	数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮
		数理モデルは、日常生活や社会の事象を目的に応じた条件や仮定の下で数学的に表現したものであり、それをよりよい判断や意思決定に生かせることを理解する。	日常生活や社会の事象における数学的な構造に着目し、数学の問題として表現して解決するとともに、得られた結果を解釈し、その妥当性や限界を吟味して、判断や意思決定に生かす。
		内容項目例	
		- 日常生活や社会の事象などを数学化し、数学的に問題を解決する方法 - 金融と等比数列、漸化式 - データを表現する数ベクトルとその内積 - 期待値	- 日常生活や社会の事象を、数・量やそれらの関係などに着目して捉え、想化したり単純化したりして問題を数学的に表現すること。 - 問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察すること。

資質・能力の全体構造（素案）

		数学ガイダンス（仮称）	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
中学校		統合的な理解	総合的な発揮
		数学は、日常生活や社会などの様々な事象を読み解く言語であり、数量や図形、変化と関係、データと確からしさなどに着目して事象を捉え、論理的、統合的・発展的、批判的な考察を可能にすることを理解する。	事象における数量や図形、変化と関係、データと確からしさなどに着目し、判断したり説明したりするとともに、日常生活や社会と数学のかかわりや数学の概念について考察を深める。
		内容項目例	
		- 小学校の学習内容と中学校の数学の内容との接続 - 中学校数学の内容の広がりや系統性 - 数学的に考えることが日常生活や社会を支えること	日常生活や社会などの事象を数量や図形、変化と関係、データと確からしさなどに着目して捉え、判断したり説明したりすること。
高等学校	数学Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮
		数学は、人間が生活や社会の中で生まれる問いに向き合う中で創り出し、文化として継承・発展させてきたものであり、数量や図形、変化と関係、データと確からしさなどに着目して事象を捉え、論理的、統合的・発展的、批判的な考察を可能にすることを理解する。	事象における数量や図形、変化と関係、データと確からしさなどに着目し、判断したり説明したりするとともに、職業と数学のかかわりや数学の概念について考察を深める。
		内容項目例	
		- 中学校までの数学の内容と高等学校の数学の内容との接続 - 高等学校数学の内容の広がりや系統性 - 数学的に考えることが職業生活を支えること - 数学の概念と人間の活動の関わり	- 職業生活の場面を数量や図形、変化と関係、データと確からしさなどに着目して捉え、判断したり説明したりするとともに、関心に基づいて考察を深めること。 - 数学の概念について、関心に基づいて発展させ考察すること。

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
数学Ⅱ	式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分についての基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 - 式を目的に応じて整理したり、指数関数・対数関数及び三角関数の表・式・グラフを相互に関連付けたり、導関数や不定積分及び定積分の値を求めたりする技能を身に付ける。	- 図形を方程式に表現して図形の性質などについて論理的、批判的に考察する力、関数関係や関数の局所的な変化に着目したりして事象を論理的、批判的に考察する力を養う。 - 方程式を用いた図形の性質に関する考察やいろいろな関数を用いた問題解決の過程を振り返るなどして統合的・発展的に考察する力を養う。 - 方程式やいろいろな関数の式・グラフなどを用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。	- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。 - 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。 - 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 - 数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

資質・能力の全体構造（素案）

数と式		数と式 及び 図形	
式		図形と方程式	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
式の計算は、既習の四則計算や計算に関して成り立つ性質に基づいており、一定の手順にしたがって目的に応じた形に整理できることを理解する。	計算に関して成り立つ性質に着目し、式の計算の仕方について考察し、その計算を問題の解決に生かす。	図形は、条件を満たす点の集合として扱うことができ、それに基づいて、図形を式で表して計算可能にしたり、条件を図形で表して把握したりできることを理解する。	図形の構成要素間の関係や、事象における数量と図形の関係に着目し、図形を式で表したり、条件を図形で表したりして処理し、得られた結果を解釈する。
内容項目例		内容項目例	
- 三次の乗法公式及び因数分解の公式 - 多項式の除法 - 分数式の四則計算 - 因数定理と簡単な高次方程式 - 複素数の範囲での因数定理や高次方程式 - 解と係数の関係	- 既習の計算の仕方と関連付けて、式の計算の仕方を考察すること。 - 式の計算について、具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用すること。	- 座標平面上の線分を内分点、外分点、二点間の距離 - 座標平面上の直線や円の方程式 - 簡単な場合の軌跡 - 簡単な場合の領域	- 日常生活や社会の事象などを、形・大きさ・位置関係などに着目して捉え、座標と方程式によって表現すること。 - 図形の性質について、座標と方程式を用いて考察すること。 - 方程式を用いて処理した結果を、図形や具体的な事象に照らして意味づけること。

資質・能力の全体構造（素案）

変化と関係					
指数関数・対数関数		三角関数		微分法・積分法	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
- 指数関数は、一定の比で変化する関係を表し、急激に増減する事象の変化を把握したり予測したりできることを理解する。 - 対数関数は、ある数を底の累乗で表す際の指数を与え、乗法的な関係を加法的な関係に直して扱いやすくてできることを理解する。	事象における一定の比で増減する数量関係に着目し、指数関数や対数関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。	三角関数は、角度とそれに対応する数値の関係を表し、周期的な事象を把握したり予測したりできることを理解する。	事象における周期性に着目し、三角関数として捉え、表、式、グラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を事象に即して解釈する。	- 微分は、関数を局所的に一次関数で近似して扱い、それにより関数の変化の様子を明らかにできることを理解する。 - 積分は、ある区間にわたる関数の値の累積を微分との関係の下で扱い、それにより直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を捉えられることを理解する。	事象における数量の局所的な変化やそれと累積の関係に着目し、関数を用いて表現・処理し、得られた結果を解釈する。
内容項目例		内容項目例		内容項目例	
- 指数 - 指数法則 - 指数関数 - 対数 - 対数の計算 - 対数関数	- 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を指数関数や対数関数と仮定すること。 - 指数の拡張について考察すること。 - 指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、指数と対数を相互に関連付けるなどして考察すること。 - 数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。	- 弧度法 - 三角関数 - 三角関数の相互関係の基本的な性質	- 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を三角関数と仮定すること。 - 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察すること。 - 数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。 - 三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと。	- 微分係数や導関数 - 関数の導関数 - 関数の値の増減や極大・極小、グラフの概形 - 不定積分及び定積分	- 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を多項式関数と仮定すること。 - 関数とその導関数との関係について考察すること。 - 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察すること。 - 数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
数学Ⅲ	- 極限、微分法、積分法についての基礎的・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 - 簡単な数列の極限を求めたり、導関数を用いて関数の値の増減やグラフの凹凸を調べたり、定積分を用いていろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積などを求めたりする技能を身に付ける。	- 関数の局所的な変化や大局的な変化及び微分と積分の関係に着目するなどして関数関係をより深く捉え、事象を論理的、批判的に考察する力を養う。 - 極限やいろいろな関数の局所的・大局的な性質などを用いた問題解決の過程を振り返ったり、既習の事柄と関連付けたりするなどして、統合的・発展的に考察する力を養う。 - いろいろな関数の式・グラフや一般的な関数の表記などを用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それを基に論理的に説明する力を養う。	- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。 - 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。 - 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 - 数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

資質・能力の全体構造（素案）

変化と関係					
極限		微分法		積分法	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
極限は、数列や関数の値がある値に限りなく近づいていく状態であり、連続的な変化や無限に続く過程を扱えることを理解する。	事象における数量の変化の様子やある値の近くでのふるまいに着目し、式とグラフを相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を解釈する。	微分法は、関数を局所的に一次関数で近似して扱い、それにより、様々な関数の変化の様子を明らかにできることを理解する。	事象における数量の局所的・大域的な変化に着目し、関数とその導関数の関係を用いて処理し、得られた結果を解釈する。	積分法は、連続的に変化する量を微小な変化量の和の極限として扱い、その値を微分との関係に基づいて計算することにより、計量したり変化する量の総和などを求めたりできることを理解する。	事象における局所的な量や変化の集積に着目し、それらを積分を用いて捉え、微分との関係に基づいて処理し、得られた結果を解釈する。
内容項目例		内容項目例		内容項目例	
- 数列の極限 - 無限級数の収束、発散、及び無限級数の和 - 簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴 - 合成関数や逆関数の意味、及び簡単な場合についてそれらを求めること - 関数の値の極限	- 式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察すること。 - 既に学習した関数の性質と関連付けて、簡単な分数関数と無理関数のグラフの特徴を多面的に考察すること。 - 事象を、数列や関数の値の極限に着目して捉えること。 - 数列や関数の値の極限を、事象に照らして意味づけること。	- 微分可能性、関数の積及び商の導関数 - 関数の和、差、積及び商の導関数 - 合成関数の導関数 - 三角関数、指数関数及び対数関数の導関数 - 導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいいたりすること	- 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を、既習の関数と関連付けて数学的に考察する対象とすること。 - 導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察すること。 - 関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や第二次導関数の関係について考察すること。 - 数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。	- 不定積分及び定積分 - 置換積分法及び部分積分法 - いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さ	- 事象における伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係を、既習の関数と関連付けて数学的に考察する対象とすること。 - 関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察すること。 - 極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察すること。 - 数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、結果の妥当性を判断したり、類似の事象にも活用して適用範囲を広げたりすること。

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
新科目	- 数学におけるいろいろな概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学を活用した問題解決や数学的な表現の工夫について認識を広げ、深める。 - 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	- 事象を数理的に捉え、見通しをもって論理的、批判的に考察したり、判断・意思決定したりする力を養う。 - 数学の問題解決の過程や結果を振り返ったり、既習の事柄と関連付けたりするなどして統合的・発展的に考察する力を養う。 - 数学的な表現を工夫したり複数の表現を相互に関連付けたりするなどして事象を簡潔・明瞭・的確に表し、それらを用いて論理的に説明する力を養う。	- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。 - 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。 - 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。 - 数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

資質・能力の全体構造（素案）

数と式		図形		数と式 及び 図形	
行列		幾何ベクトル		複素数と複素数平面	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
行列は、多次元の数量を一括的に表現して扱い、複数の関係をまとめて表したり、データを変換したりできることを理解する。	事象における多次元の数量やそれらの間の関係に着目し、行列に表現し、一括的に処理して、得られた結果を解釈する。	幾何ベクトルは、方向と大きさを持つ量を図的に表し、平面や空間における図形の位置や方向、長さや角度の関係を統一的に扱えることを理解する。	事象における向き、大きさ、位置に着目し、ベクトルとして捉えて表現・処理し、得られた結果を解釈するとともに、拡張すること。	複素数は、方程式の解として実数を拡張した数であり、二つの実数を用いて表されることで複素数平面上的の点に対応付けられ、方程式について図形を用いて調べたり、平面上の回転を表現したりできることを理解する。	事象における数量の関係や、向き、大きさ、位置に着目し、複素数及び複素数平面上的の点として相互に関連付けて表現・処理し、得られた結果を解釈する。
内容項目例		内容項目例		内容項目例	
- 行列を用いた事象の表現 - 行列の和、差、実数倍、積 - デジタルツールを用いた行列の計算 - データ間の線形写像 - 連立方程式と行列 - 離散グラフと行列	- 日常生活や社会の事象などを行列を用いて表現すること。 - 行列を事象に照らして解釈すること。 - 行列を用いてデータを変換すること。 - 行列を用いて連立一次方程式を解くこと。	- 平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示 - ベクトルの内積及びその基本的な性質 - 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できること	- 事象を方向と大きさに着目して捉え、ベクトルによって表現すること。 - 実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察すること。 - 図形の性質について、ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて考察すること。 - ベクトルを用いて処理した結果を、図形や具体的な事象に照らして意味づけること。	- 複素数 - 高次方程式と因数定理 - 複素数平面と複素数の極形式 - ド・モアブルの定理	- 事象における数量の関係や、向き、大きさ、位置に着目し、複素数や複素数平面に関する問題として設定すること。 - 既習の計算の仕方と関連付けて、複素数の計算の仕方について考察すること。 - 複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察すること。 - 複素数平面を用いて処理した結果を、図形や事象に即して解釈すること。

資質・能力の全体構造（素案）

変化と関係		データと確からしさ			
数列		場合の数と確率		統計	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
- 数列は、自然数に対応して定まる数の列として離散的な変化や対応の規則性を表し、局所的な規則に基づいて全体的な変化の様子を捉えられることを理解する。 - 数学的帰納法は、自然数についての命題が、最初の数で成り立ち、さらに任意の数で成り立つならその次の数でも成り立つことを示すことによって、すべての自然数で成り立つと結論づける証明方法であることを理解する。	- 事象における離散的な変化や再帰関係に着目し、それらの規則性や累積を一般項、和、漸化式を用いて表現・処理し、得られた結果を解釈する。 - 自然数についての性質などを推測し、命題として表し、数学的帰納法で証明するとともに、その過程や結論を振り返って新たな性質などを推測し、元の事象と関連付けて考察する。	- 場合の数は、何を一つの場合とみなすかを明確にすることでまれや重複がないように数え上げられ、それにより、複雑な事象を構造化して数量的に把握できることを理解する。 - 確率は、ある事象の起こりやすさを数値で表し、不確定な事象の判断の根拠にできることを理解する。	- 事象の構造に着目し、場合をもれなく重複なく整理することで場合の数を数え上げ、得られた結果を解釈する。 - 事象の起こりやすさに着目し、数値で表して把握することにより、未知の状況について予測したり判断したりする。	統計的な推測は、標本から母集団について推測するときの確からしさを確率で捉え、母集団の傾向の考察に利用できることを理解する。	事象における母集団と標本の関係に着目し、調査の前提や方法の限界を踏まえて、母集団の傾向を推測したり、結果の妥当性について吟味したりする。
内容項目例		内容項目例		内容項目例	
- 等差数列と等比数列の一般項と和 - いろいろな数列の一般項や和を求める方法 - 漸化式 - 数学的帰納法	- 事象における離散的な変化や再帰関係に着目して、数学的に考察する対象とすること。 - 離散的な変化の規則性を数学的に表現し考察すること。 - 数学的な結果を具体的な事象に即して解釈し、類似の事象にも活用して適用範囲を広げること。 - 自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明すること。	- 集合の要素の個数に関する基本的な関係 - 和の法則、積の法則などの数え上げの原則 - 順列及び組合せ - 二項定理(←数学Ⅱから移行) - 確率の意味や基本的な法則 - 期待値 - 独立な試行の確率 - 条件付き確率	- 事象の構造に着目し、起こり得る場合を調べることを、数学的に考察する対象とすること。 - 場合の数をもれなく、重複なく、効率よく求める方法について考察すること。 - 考察した方法を類似の事象にも活用して適用範囲を広げること。 - 確率の性質や法則を基に、確率を求める方法を考察すること。 - 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすること。	- 標本調査 - 確率変数と確率分布 - 二項分布と正規分布 - 正規分布を用いた区間推定及び仮説検定	- 目的に応じて、標本調査によって解決可能な問題を設定すること。 - 確率分布や標本分布の特徴について、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察すること。 - 母平均や母比率について推定したり、検定したりすること。 - 標本調査の方法や結果を考察すること。

見直し後の分野・区分のイメージ

令和 8 年 4 月 1 7 日
算数・数学WG（第9回）
【 資 料 】 P 2 2
（ 一 部 更 新 ）

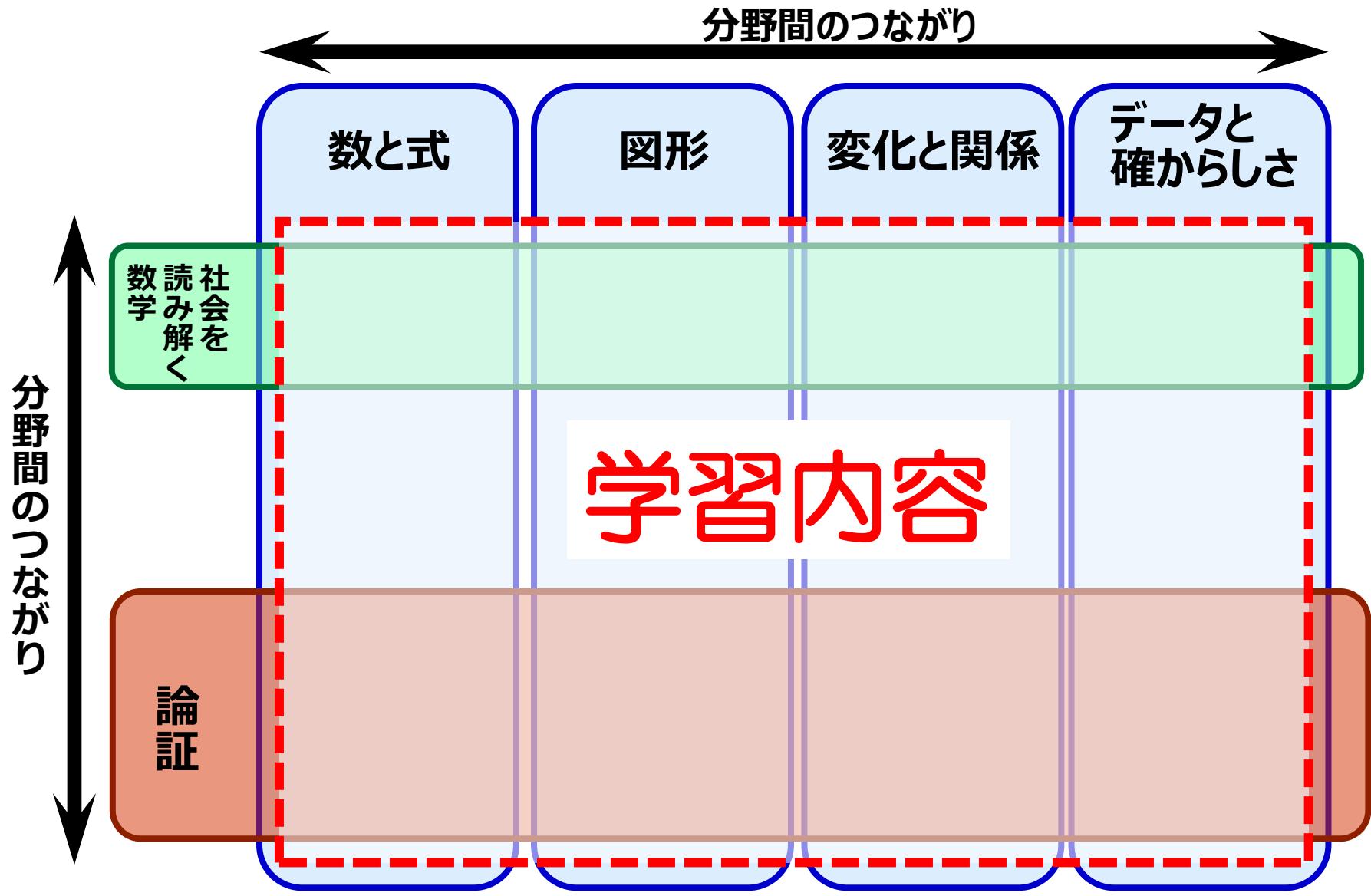
- 構造化の更なる検討の方向性を踏まえれば、「区分」について細分化しすぎると、教師が高次の資質・能力を参照したときに指導を通じて学びが深まったときの児童生徒の姿をイメージしづらくなることが考えられることから、教師がそうしたイメージを持ちやすくなるよう、区分を更に統合・整理。
- ※本資料は区分の検討用のものであり、取りまとめ以降は用いない。

分野	数と式		図形		変化と関係			データと確からしさ		論証	社会を読み解く数学
区分	数・量	式	図形の性質	図形の計量	割合と比	関数		場合の数と確率	統計	論証	社会を読み解く数学
小学校	○	○	○	○	○ (第4~6学年)	○ (第4~6学年)		○	○	⋮	⋮
中学校	○	○	○	○	⋮	○		○	○	○	⋮
高等学校 数学Ⅰ	⋮	○	⋮	○	⋮	○		⋮	○	○	○
高等学校 数学Ⅱ	⋮	式	図形と方程式		⋮	対数関数・ 指数関数	三角関数	微分法・ 積分法	⋮	⋮	⋮
高等学校 数学Ⅲ	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	極限	微分法	積分法	⋮	⋮	⋮
高等学校 新科目	行列		トベク幾何		⋮	数列		場合の数と確率	統計	⋮	⋮
	面数複素 数複素と素										

○：学習内容の規定あり ……：学習内容として明記はされていないが、学習の萌芽や継続を表している

※区分については現行学習指導要領の学習内容をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる ※分野・区分を横断する学習内容も存在 202

算数・数学科の分野間の関係のイメージ



分野と区分（学校種ごと）

※取りまとめ以降は、本資料を用いる。

	分野	数と式		図形		変化と関係		データと確からしさ	
小学校 中学校 高等学校 数学Ⅰ	区分	数・量	式	図形の性質	図形の計量	割合と比	関数	場合の数と確率	統計

	分野	数と式		図形	変化と関係		
高等学校 数学Ⅱ	区分	式	図形と方程式		指数関数・対数関数	三角関数	微分法・積分法

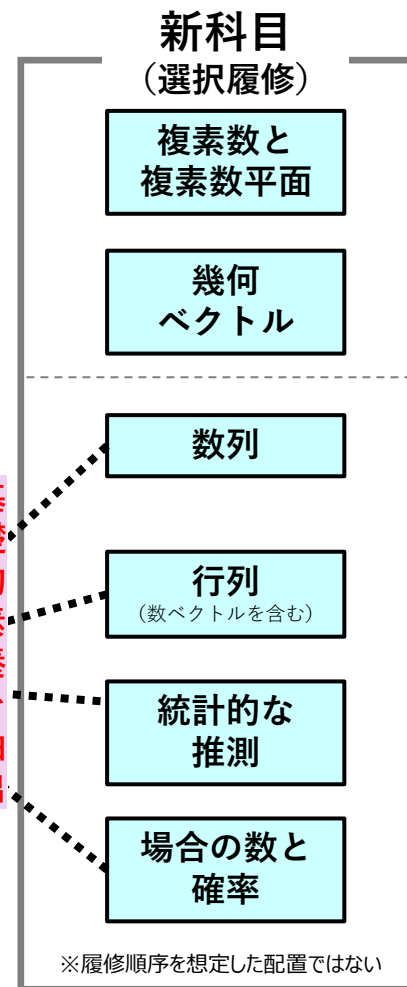
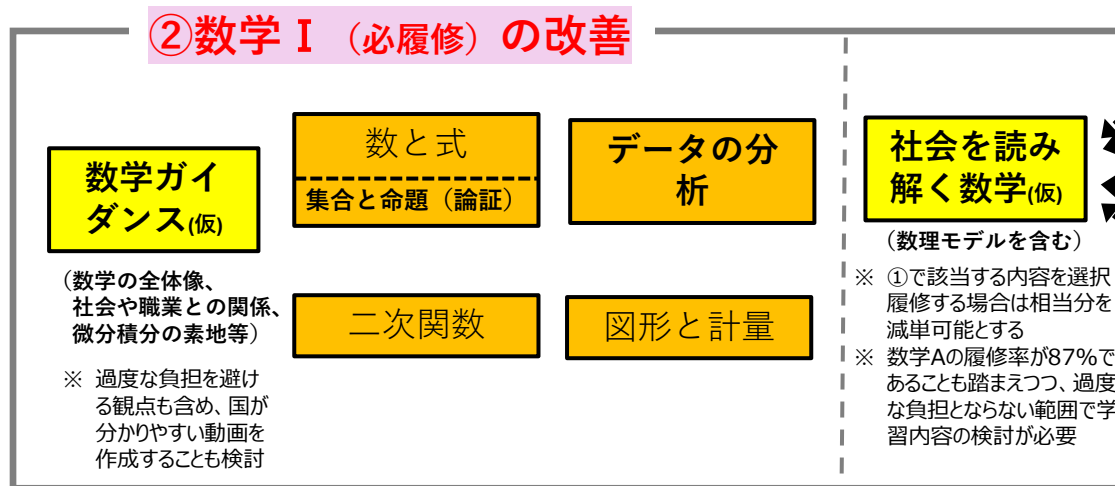
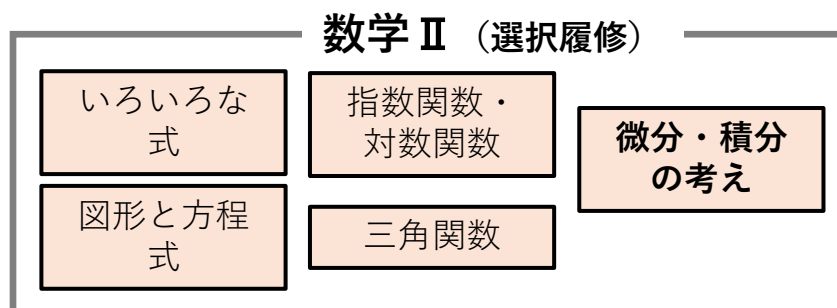
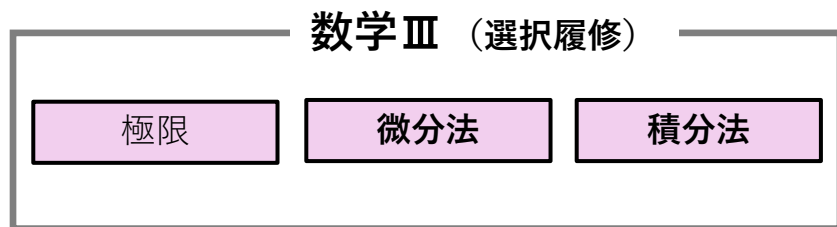
	分野	変化と関係		
高等学校 数学Ⅲ	区分	極限	微分法	積分法

	分野	数と式	図形	変化と関係	データと確からしさ	
高等学校 新科目	区分	行列	幾何 ベクトル	数列	場合の数と確率	統計
		複素数と平面	複素数とベクトル			

分野	論証	社会を読み解く数学
区分	論証	社会を読み解く数学

高等学校数学科の科目構成の見直しイメージ

①ABCの区分けをなくし、
必要な学習内容の選択を容易化



基礎的素養を抽出

▶学習内容の実質的増加につながらないよう、全体の学習内容について必要な精選を図る。

算数・数学科における学習内容の見直し・精選等の考え方（案）

➤ 高次の資質・能力を踏まえた学習内容の見直し・精選等

- 小・中・高等学校を通貫した学習内容の系統性、一貫性、連続性の観点から内容の見直しを図ってはどうか。
- 「統合的な理解」「総合的な発揮」の形成に必要不可欠な「知識及び技能」「思考、判断、表現力等」を中心に排列することとし、不可欠といえない内容については精選してはどうか。
- 以上のことを踏まえ、次期学習指導要領とその解説を作成することとしてはどうか。

※算数・数学科の教科固有の特徴として、既習事項を基にして新規事項を学習していくことから（積み上げ）、見直し・精選等にあたっては、系統的、連続的な学習が成立するように注意する必要がある。また、児童生徒の発達の段階を踏まえる必要がある。

※あくまで学習指導要領（解説）上の学習内容の精選であり、当然のことながら、実際の指導に当たっては、必要に応じて下学年・下学校種の既習事項の定着確認や学び直し等を行う必要がある場合もある。

【検討例】 高等学校 数学Ⅱ「いろいろな式」、数学Ⅲ「微分法」「積分法」、数学C「平面上の曲線と複素数平面」の見直し・精選

（考え方）複素数（数Ⅱ）と複素数平面（数C）を一体化して扱うことで、内容の重複を避けつつ、複素数の概念や計算と図形的意味の「統合的な理解」を形成できると考えられること、曲線の媒介変数表示（数C）はその活用場面となる数学Ⅲにおいて学習することが「総合的な発揮」の形成に資すると考えられることから、学習内容の排列を見直す。これに伴い、二次曲線や極座標・極方程式の排列についても見直す（※理数科との関係にも留意）。

➤ 教科書のあり方の検討を通じた学習内容の見直し・精選等

教科書会社における編纂の参考として、どういった内容を精選対象とすることが考えられるか、またどういった構成上の工夫（構造化された学習指導要領とのつながりが意識できる）が考えられるか。（前提として、学習指導要領及び解説において取り扱うべき内容をより明確にすることが必要。）

【検討例】

- 演習問題については、十分な習熟が図られていないケースや、逆に全ての児童生徒に同じ内容を全て取り組ませるようなケースもあることから、児童生徒に取り組ませる問題を教師が適切に選択しやすい（児童生徒自身が進めやすい）構成とする（例：基礎問題・習熟問題・発展問題）。なお、教科書採択時に単に問題の数のみを基準としないよう、国が採択権者に指導助言することも考えられる。
- まとめて習熟を図った方がよい単元については、単元末の習熟をまとめて設定する。（例：小6の分数の乗法及び除法）
- 帰納的指導法と演繹的指導法を教師が選択して実施しやすい構成とする。
- トピック・コラム的な内容や、ノートの書き方等の学習法に関する内容については、教科書上の時数は配当せず、児童生徒の実態を踏まえて教師が選択的に指導できるようにする。
- 小学校第6学年において中学校の学習内容に触れる内容を掲載する場合は、教科書上の時数を配当しない。
- 新規事項の学習に必要な下学校種・下学年における既習事項について、既習事項の想起、定着状況の確認や復習・学び直しを可能とするような内容を掲載する。（精選ではなく見直しの観点）等

※小学校においては算数科の指導経験が浅い／指導が苦手な教師を中心に、また、中学・高校においては受験指導を強く意識する学校を中心に、教師が教科書を網羅的に指導する傾向があるとの指摘がある。このため、教科書の個別の内容について、高次の資質・能力を育成する上で必ず取り扱うべき内容なのか、必要に応じて扱うべき内容（習熟や理解の深化に必要な内容等）なのかといったグラデーションが分かるよう、教科書会社に教師用指導書上での工夫等を要請することも考えられるのではないか。

共通教科「理数科」

※算数・数学WGと理科WGの合同で審議

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	数理的・科学的な探究の方法についての知識及び技能を身に付け、探究の意義を理解する。	課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決し、表現する力を養う。	- 知的好奇心や問題意識をもって、課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を養う。 - 多様な他者対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度と、研究における倫理的な態度を養う。 - 事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意を育む。

見方・考え方

- 事象や社会の課題、言説を、数理的・科学的な視点から捉え、論理的、統合的、批判的に考察すること

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
理数探究基礎	数理的・科学的な探究の意義や研究倫理について理解するとともに、探究の方法についての知識及び技能を身に付ける。	課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決し、表現する力を養う。	- 知的的好奇心や問題意識をもって、課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を養う。 - 多様な他者対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度と、研究における倫理的な態度を養う。 - 事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意を育む。
理数探究	数理的・科学的な探究の方法についての知識及び技能を身に付け、探究の意義や研究倫理への理解を深める。	課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決し、表現する力を養う。	- 知的的好奇心や問題意識をもって、課題の解決や新たな価値の創造に挑戦しようとする態度を養う。 - 多様な他者対話・協働し、粘り強く試行錯誤しながら探究に取り組む態度と、研究における倫理的な態度を養う。 - 事象や社会の中に数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性、新たな価値を創造し人生や社会に役立てようとする情意を育む。

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校	理数探究基礎	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
		探究には、守るべき倫理とともに課題を数理的・科学的に解決するための手法や進め方があり、それらを踏まえることで、課題の解決につながることを理解する。	事象について課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決を図り、その過程や結果を適切に表現する。
	理数探究	内容項目例	
		- 探究の意義についての理解 - 探究の過程についての理解 - 研究倫理についての理解 - 観察、実験、調査等についての基本的な技能 - 事象を分析するための基本的な技能 - 探究した結果をまとめ、発表するための技能	- 課題を設定する力 - 数理的・科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行する力 - 探究の過程や結果をまとめ、適切に表現する力
		統合的な理解	総合的な発揮
		探究は、自ら設定した課題について、研究倫理を踏まえながら数理的・科学的な手法を用い、他者と議論することで、新たな価値の創造につながることを理解する。	知的好奇心や問題意識に基づいて課題を設定し、数理的・科学的な手法を用いて解決を図り、その過程や成果を適切に表現して議論し、探究を深める。
	理数探究	内容項目例	
		- 探究の意義についての理解 - 探究の過程についての理解 - 研究倫理についての理解 - 観察、実験、調査等についての技能 - 事象を分析するための技能 - 探究の成果などをまとめ、発表するための技能	- 課題を設定する力 - 数理的・科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行する力 - 探究の過程を整理し、成果などを適切に表現する力

高校の数学科・理科と共通教科「理数科」における探究的学びのイメージ

たとえば「小学校ではパターン1、高校・大学ではパターン4」と単線的に進展するのではなく、小・中・高の各段階において、それぞれの発達段階におけるパターン1～4の学びが存在することに留意が必要。

育成した資質・能力の活用・統合

資質・能力の深化
学ぶ意欲の高まり

	①課題	②手続き	③成果	数学科	理科	理数探究基礎	理数探究
広	パターン4		探究				
	パターン3	✓	探究的な学び (各教科におけるいわゆるパフォーマンス課題等を含む)		現行「問題発見・解決の過程」 コア的部分	現行「(科学的)探究の過程」 コア的部分	コア的部分
	パターン2	✓	✓		コア的部分	コア的部分	
狭	パターン1	✓	✓				

総合WGにおける整理

対象…
数学の事象、
自然や社会の事象

対象…
自然や
社会の事象

対象…
あらゆる事象

(※) イメージ中の「✓」は、教師からどの範囲の情報が与えられているかを表している。

(※) 出典元において、パターン1～4はそれぞれ、「確認のための探究(confirmation inquiry)」、「構造化された探究(structured inquiry)」、「指導された探究(guided inquiry)」、「オープンな探究(open inquiry)」と表されている。

(出典) 左半分については、Banchi & Bell (2008)、白井俊「世界の教育はどこへ向かうか 能力・探究・ウェルビーイング」をもとに作成

(※) イメージ中のグラデーション部分は、教科の目標の達成に資する場合、学校・児童生徒の状況等に応じて取り組むことも考えられるが、全ての学校等での実施が想定されるものではないことを意味する。

**理科WGにおける議論の補足イメージ
及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校・中学校・高等学校	自然の事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。

見方・考え方

- 自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること

資質・能力の全体構造（素案）

	作用と変化		空間における伝搬		保存とエネルギー変換	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	力には種類があること、力が働くと運動が変化することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	光と音は空間を伝わり、その伝わり方には特徴があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	電流の流れ方には特徴があること、エネルギーは変換できることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
中学校	力の働き・磁石の性質・電流が作る磁力・この規則性・理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現すること。	- 光と音の性質 - 理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、空間における伝搬についての特徴を見いだして表現すること。	電気の伝道・光と音の性質・電流の働き・電気の利用・理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、保存とエネルギー変換についての特徴を見いだして表現すること。
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	- 力は物体の運動状態を変化させることを理解する。 - 電流と磁場には関係があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	光と音の伝わり方には規則性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	- 電気回路における電圧、電流及び抵抗の間には規則性があることを理解する。 - エネルギーは変換されたり保存されたりすることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	- 力の働き - 電流 - 電流と磁場 - 力のつり合いと合成・分解 - 運動の規則性 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現すること。	- 光と音 - エネルギーと物質【分野横断】 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、空間における伝搬についての特徴を見いだして表現すること。	- 電流 - 力学的エネルギー - エネルギーと物質【分野横断】 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、保存とエネルギー変換についての特徴を見いだして表現すること。

資質・能力の全体構造（素案）

	物質の構成		物質の性質		物質の化学変化	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	物質が粒子で構成されていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	空気や水、金属の性質には共通点や相違点があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	化学反応によって物質が変化することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
中学校	- 物と重さ - 空気と水の性質 - 金属、水、空気と温度 - 物の溶け方 - 燃焼の仕組み - 理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の構成の特徴を見いだして表現すること。	- 空気と水の性質 - 金属、水、空気と温度 - 物の溶け方 - 燃焼の仕組み - 水溶液の性質 - 理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の性質の特徴を見いだして表現すること。	- 燃焼の仕組み - 水溶液の性質 - 理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の化学変化の特徴を見いだして表現すること。
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	物質を、原子・分子、イオンに関連付けて理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	物質の性質は、原子や分子の状態によって変化することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	化学反応においては、反応の前後で原子の数が保存されること、反応には熱が関係していることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	- 水溶液 - 物質の成り立ち - 水溶液とイオン - 化学変化と電池 - エネルギーと物質【分野横断】 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の構成の特徴を見いだして表現すること。	- 物質のすがた - 状態変化 - 化学変化 - 水溶液とイオン - 化学変化と電池 - エネルギーと物質【分野横断】 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の性質の特徴を見いだして表現すること。	- 化学変化 - 化学変化と物質の質量 - 水溶液とイオン - 化学変化と電池 - エネルギーと物質【分野横断】 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析・解釈する活動などを通して、物質の化学変化の特徴を見いだして表現すること。

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	生物の構造と機能		生命の連続性		生物と環境の関わり	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	生物には基本的な体のつくりと働きがあることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	植物と動物の成長の過程を通して、生命の連続性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	生物と環境の間には関係性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。
中学校	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	- 身の回りの生物 - ヒトの体のつくりと運動 - ヒトの体のつくりと働き - 植物の植物の養分と水の通り道 - 理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物の構造と機能についての特徴を見いだして表現すること。	- 身の回りの生物・季節と生物 - 植物の発芽、成長、結実 - 動物の誕生 - 理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生命の連続性についての特徴を見いだして表現すること。	- 身の回りの生物 - 季節と生物 - 生物と環境 - 理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物と環境の関わりについての特徴を見いだして表現すること。
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	- 生物は多様であるが、共通点をもつことを理解する。 - 生物の体のつくりと働きには特徴や関係性があり、これらのつくりと働きによって生命活動が行われていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	生物の殖え方、遺伝現象、生物の進化には特徴や規則性、関係性があり、生命の連続性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	- 自然界には、生物どうしの関係や生物と環境との間に関係があることを理解する。 - 自然界のつり合いが重要であることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	- 生物の観察と分類の仕方 - 生物の体の共通点と相違点 - 生物と細胞 - 植物の体のつくりと働き - 動物の体のつくりと働き・自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物の構造と機能についての特徴を見いだして表現すること。	- 生物の観察と分類の仕方 - 生物と細胞 - 生物の成長と殖え方 - 遺伝の規則性と遺伝子 - 生物の種類の多様性と進化 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生命の連続性についての特徴を見いだして表現すること。	- 生物の観察と分類の仕方 - 生物と環境【分野横断】 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物と環境の関わりについての特徴を見いだして表現すること。

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	地球の内部と地表面の変動		地球の大気と水の循環		地球と天体の運動	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	流水の働きや火山、地震などによって、地表が変化することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	天気が時間とともに変化することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	太陽や月などの天体があり、それが見える位置は時間とともに移動することを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。
中学校	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	- 雨水の行方と地面の様子 - 流れる水の働きと土地の変化 - 土地のつくりと変化 - 理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の内部と地表面の変動についての特徴を見いだして表現すること。	- 太陽と地面の様子 - 雨水の行方と地面の様子 - 天気の様子 - 流れる水の働きと土地の変化 - 天気の変化 - 理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の大気と水の循環についての特徴を見いだして表現すること。	- 太陽と地面の様子 - 月と星 - 月と太陽 - 理科と日常生活（仮称）【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球と天体の運動についての特徴を見いだして表現すること。
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	- 地層から、過去の様子を知ることができることを理解する。 - 地球内部の活動に起因する地震や火山活動などが、日本列島に影響を与えていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	- 霧や雲の発生などの天気の変化が起きる理由を理解する。 - 日本列島の気象は、周囲の海洋の影響を受けていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	太陽系には地球を含む様々な天体があること、太陽系の天体の動きと地球からの見え方を理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。
中学校	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	- 身近な地形や地層、岩石の観察 - 地層の重なりと過去の様子 - 火山と地震 - 自然の恵みと火山災害・地震災害・生物と環境【分野横断】 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の内部と地表面の変動についての特徴を見いだして表現すること。	- 気象観測 - 天気の変化 - 日本の気象 - 自然の恵みと気象災害 - 生物と環境【分野横断】 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の大気と水の循環についての特徴を見いだして表現すること。	- 天体の動きと地球の自転 - 公転・太陽系と恒星 - 自然環境の保全と科学技術の利用【分野横断】	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球と天体の運動についての特徴を見いだして表現すること。

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
科学と人間生活	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。

資質・能力の全体構造（素案）

		全分野	
高等学校	科学と人間生活	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
		科学の発展が今日の人間生活にどのように貢献してきたかを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学と人間生活の関係を見いだして表現することができる。
		内容項目例	
		- 科学の発展 - これからの科学と人間生活	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、科学と人間生活の関係を見いだして表現すること。

		物理分野		化学分野		生物分野		地学分野	
高等学校	科学と人間生活	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
		光や熱の性質が人間生活と関わっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現することができる。	材料や衣料と食品が人間生活と関わっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現することができる。	ヒトの生命現象や微生物の特徴が人間生活と関わっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現することができる。	太陽と地球や、自然景観と自然災害が人間生活に関わっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、科学技術と人間生活の関係を見いだして表現することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- 光の性質とその利用 - 熱の性質とその利用	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、光や熱の性質と人間生活の関係を見いだして表現すること。	- 材料とその利用 - 衣料と食品	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、材料や衣料、食品と人間生活の関係を見いだして表現すること。	- ヒトの生命現象 - 微生物とその利用	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、ヒトの生命現象や微生物と人間生活の関係を見いだして表現すること。	- 太陽と地球 - 自然景観と自然災害	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、太陽と地球や、自然景観と自然災害と人間生活の関係を見いだして表現すること。

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
物理基礎	日常生活や社会との関連を図りながら、物理的な事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。
物理	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。

資質・能力の全体構造（素案）

		作用と変化		空間における伝搬		保存とエネルギー変換	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
物理基礎	高等学校	物体に作用する力と物体の運動状態の間には規則性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	波は振動の伝搬であることを理解する	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	エネルギーは変換されたり保存されたりすることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- 運動の表し方 - 様々な力とその働き - 物理学が拓く世界	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現すること。	- 波 - 物理学が拓く世界	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、空間における伝搬についての特徴を見いだして表現すること。	- 力学的エネルギー - 熱 - 電気 - エネルギーとその利用 - 物理学が拓く世界	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、保存とエネルギー変換についての特徴を見いだして表現すること。
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
物理	高等学校	- 力学的な力と電磁気学的な力には共通性があることを理解する。 - 荷電と電場や磁場との間には、規則性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	- 波で生じる現象を理解する。 - 電子や光は波と粒子の二重性をもつことを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。	- 運動量やエネルギーは保存することを理解する。 - 直流回路と交流回路には特徴があることを理解する。 - 質量とエネルギーには等価性があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物理現象の特徴を見いだして表現することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- 様々な運動 - 電気と磁気 - 原子	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、作用と変化についての特徴を見いだして表現すること。	- 波 - 電気と磁気 - 原子	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、空間における伝搬についての特徴を見いだして表現すること。	- 様々な運動 - 電気と磁気 - 原子	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、保存とエネルギー変換についての特徴を見いだして表現すること。

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
化学基礎	日常生活や社会との関連を図りながら、化学的な事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。
化学	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。

資質・能力の全体構造（素案）

		物質の構成		物質の性質		物質の化学変化	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
化学基礎	高等学校	- 原子の性質は、原子核を構成する陽子と中性子、電子配置により特徴付けられることを理解する。 - 物質の量を原子や分子などの個数として捉えることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	- 物質の性質は、元素の組成や構成原子の電子の状態により特徴付けられることを理解する。 - 物質の状態は、構成する原子や分子の熱運動と関係があることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	- 化学反応は、物質量（原子や分子の数）で捉える必要があること理解する。 - 化学反応は、物質間の電子の授受が関係していることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- 化学と物質 - 物質の構成粒子 - 物質量と化学反応式 - 化学が拓く世界	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の構成の特徴を見いだして表現すること。	- 化学と物質 - 物質と化学結合 - 物質量と化学反応式 - 化学反応 - 化学が拓く世界	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の性質の特徴を見いだして表現すること。	- 物質量と化学反応式 - 化学反応 - 化学が拓く世界	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の化学変化の特徴を見いだして表現すること。
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
化学	高等学校	元素は、電子配置の特徴によって整理できることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	- 物質の状態とその変化は、分子間力や化学結合、状態間の平衡と関係があることを理解する。 - 無機物質や有機化合物の性質を理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。	- 物質の化学反応は、エネルギーや化学平衡と関係があることを理解する。 - 無機物質や有機化合物における反応の特徴を理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、物質の特徴を見いだして表現することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- 無機物質の性質 - 有機化合物の性質 - 化学が果たす役割	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の構成の特徴を見いだして表現すること。	- 物質の状態と平衡 - 無機物質の性質 - 有機化合物の性質 - 化学が果たす役割	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の性質の特徴を見いだして表現すること。	- 物質の変化と平衡 - 無機物質の性質 - 有機化合物の性質 - 化学が果たす役割	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、物質の化学変化の特徴を見いだして表現すること。

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生物基礎	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。
生物	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する心情や人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。

資質・能力の全体構造（素案）

		生物の構造と機能		生命の連続性		生物と環境の関わり	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
生物基礎	高等学校	- 生物は多様でありながら、「細胞が基本的な単位である」、「エネルギーを利用する」という共通性をもっていることを理解する。 - ヒトの体は、神経系と内分泌系による調節や免疫の働きなどによって調節され、生命活動が行われていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	生物は多様でありながら、「遺伝物質としてDNAがあり自己複製する」という共通性をもっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	- 生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を理解する。 - 生態系の保全の重要性について理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- 生物の特徴 - 神経系と内分泌系による調節 - 免疫	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物の構造と機能についての特徴を見いだして表現すること。	- 生物の特徴 - 遺伝子とその働き	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生命の連続性についての特徴を見いだして表現すること。	- 生物の特徴 - 植生と遷移 - 生態系とその保全	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物と環境の関わりについての特徴を見いだして表現すること。
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
生物	高等学校	- 生物の体内には生命を維持するために必要な物質や細胞があり、そこで化学反応が起こることによって生命活動が行われていることを理解する。 - 生物は環境変化に対して反応したり、行動したりすることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	- 生物の進化は蓄積された遺伝子の変化の結果であることを理解する。 - 遺伝子の情報が発現することによって細胞や生物が特有の性質をもつことを理解する。 - 発生は遺伝子発現が関わっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。	- 生態系における個体群内の関係性と個体群間の関係性を理解する。 - 生態系における物質生産と物質循環を理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、生物や生物現象の特徴を見いだして表現することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- 生物の進化 - 生命現象と物質 - 生物の環境応答	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物の構造と機能についての特徴を見いだして表現すること。	- 生物の進化 - 遺伝情報の発現と発生	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生命の連続性についての特徴を見いだして表現すること。	- 生物の進化 - 生物の環境応答 - 生態と環境	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、生物と環境の関わりについての特徴を見いだして表現すること。

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地学基礎	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。
地学	地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と人と自然環境の調和に寄与しようとする心情を養う。

資質・能力の全体構造（素案）

		地球の内部と地表面の変動		地球の大気と水の循環		地球と天体の運動	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
地学基礎	高等学校	- プレートの運動によって、地震や火山活動が生じていることを理解する。 - 古生物の活動と地球環境は相互に影響を及ぼしていたことを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	地球における様々なエネルギーの出入りや移動について、全体としてエネルギーの収支はつりあっていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	- 宇宙、太陽系、地球の誕生について理解する。 - 地球には生命が生まれる条件が備わっていたことを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- 惑星としての地球・活動する地球 - 地球の変遷 - 地球の環境	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の内部と地表面の変動についての特徴を見いだして表現すること。	- 大気と海洋 - 地球の変遷 - 地球の環境	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の大気と水の循環についての特徴を見いだして表現すること。	地球の変遷	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球と天体の運動についての特徴を見いだして表現すること。
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
地学	高等学校	- 地球の形状や内部構造は、重力や地震波などによって推測できることを理解する。 - 地球の歴史を通して、地球内部の活動によって、地表が大きく変化してきたことを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	- 大気や海洋は層構造をしていることを理解する。 - 日本や世界の気象は、地形に加え、大気と海洋の大循環や大規模な現象によって影響を受けていることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。	地球上での視運動から天体運動の規則性を見いだすことができることを理解する。	科学的に探究する学習活動を通して、地球や地球を取り巻く環境の特徴を見いだして表現することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- 地球の概観 - 地球の活動と歴史	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の内部と地表面の変動についての特徴を見いだして表現すること。	- 地球の活動と歴史 - 地球の大気と海洋	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球の大気と水の循環についての特徴を見いだして表現すること。	- 地球の活動と歴史 - 宇宙の構造	観察、実験や資料に基づいて分析し解釈する活動などを通して、地球と天体の運動についての特徴を見いだして表現すること。

資質・能力の全体構造（素案）

理科ガイダンス（仮称）	
中学校	知識及び技能
	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解
	統合的な発揮
中学校	理科で学ぶことが日常生活や社会とつながっていること、科学的に探究するために前提となる条件や手続きがあることを理解する。
	科学的に探究する学習活動を通して、自然の事物・現象における規則性や関係性、特徴を見いだして表現することができる。
内容項目例	
高等学校	- 科学とは何か、科学的とは何か - 探究の過程と検証の方法（研究倫理の観点を含む） - 理科の学習内容と日常生活や社会とのつながり
	個別の内容に関する観察、実験等を行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性、特徴を見いだして表現すること。
高等学校	統合的な理解
	統合的な発揮
	統合的な理解
	統合的な発揮
高等学校	理科で学ぶことが社会や研究とつながっていること、科学的な探究には、課題を科学的に解決するための手法や進め方、守るべき倫理があることを理解する。
	科学的に探究する学習活動を通して、自然の事物・現象における規則性や関係性、特徴を見いだして表現することができる。
内容項目例	
高等学校	- 科学とは何か、科学的とは何か - 科学の全体像 - 研究倫理（生命倫理を含む） - 探究の過程と検証の方法 - 理科の学習内容と社会や研究とのつながり
	個別の内容に関する観察、実験等を通して探究し、規則性や関係性、特徴を見いだして表現すること。

理科の分野・領域の再編について

●系統性確保の観点から、現行の2分野4領域を4分野に再編

(現行)

分野	(中学校) 第 1 分野		(中学校) 第 2 分野	
領域	エネルギー	粒子	生命	地球
小学校	・風とゴムの力の働き ・磁石の性質 ・電流の働き ・電流がつくる磁力 ・電気の利用 ・光と音の性質 ・電気の通り道 ・振り子の運動 ・てこの規則性	・物と重さ ・金属、水、空気と温度 ・物の溶け方 ・水溶液の性質 ・空気と水の性質 ・燃焼の仕組み	・身の回りの生物 ・人の体のつくりと運動 ・植物の発芽、成長、結実 ・動物の誕生 ・植物の養分と水の通り道 ・生物と環境 ・季節と生物 ・人の体のつくりと働き	・太陽と地面の様子 ・雨水の行方と地面の様子 ・天気の様子 ・流れる水の働きと土地の変化 ・天気の変化 ・月と太陽 ・月と星 ・土地のつくりと変化
中学校	・身近な物理現象 ・電流とその利用 ・運動とエネルギー ・科学技術と人間【分野横断】	・身の回りの物質 ・化学変化と原子・分子 ・化学変化とイオン ・科学技術と人間【分野横断】	・いろいろな生物とその共通点 ・生物の体のつくりと働き ・生命の連続性 ・科学技術と人間【分野横断】	・大地の成り立ちと変化 ・気象とその変化 ・地球と宇宙 ・科学技術と人間【分野横断】
高等学校	《物理基礎》 ・物体の運動とエネルギー ・様々な物理現象とエネルギーの利用	《化学基礎》 ・化学と人間生活 ・物質の構成 ・物質の変化とその利用	《生物基礎》 ・生物の特徴 ・ヒトの体の調節 ・生物の多様性と生態系	《地学基礎》 ・地球のすがた ・変動する地球
	《物理》 ・様々な運動 ・波 ・電気と磁気 ・原子	《化学》 ・物質の状態と平衡 ・物質の変化と平衡 ・無機物質の性質 ・有機化合物の性質 ・化学が果たす役割	《生物》 ・生物の進化 ・生命現象と物質 ・遺伝情報の発現と発生 ・生物の環境応答 ・生態と環境	《地学》 ・地球の概観 ・地球の活動と歴史 ・地球の大気と海洋 ・宇宙の構造
分野	物理分野	化学分野	生物分野	地学分野

(改訂案)

理科の各分野の区分について①

●資質・能力に関する教師の理解を容易にする観点から、各「分野」をさらに3つ程度の区分に分類

（現行）

分野	（中学校）第1分野							（中学校）第2分野					
領域	エネルギー			粒子				生命			地球		
	エネルギーの捉え方	エネルギーの変換と保存	エネルギー資源の有効利用	粒子の存在	粒子の結合	粒子の保存性	粒子の持つエネルギー	生物の構造と機能	生命の連続性	生物と環境の関わり	地球の内部と地表面の変動	地球の大気と水の循環	地球と天体の運動

（改訂案）

分野	物理分野			化学分野			生物分野			地学分野		
区分	作用と変化	空間における伝搬	保存とエネルギー変換	物質の構成	物質の性質	物質の化学変化	生物の構造と機能	生命の連続性	生物と環境の関わり	地球の内部と地表面の変動	地球の大気と水の循環	地球と天体の運動
横断的学習内容例※	(中学校) エネルギーと物質						(中学校) 生物と環境					
	(小学校) 理科と日常生活（仮称）【新設】 (中学校) 自然環境の保全と科学技術の利用 (高等学校) 科目「科学と人間生活」											

※学習内容例については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる。

理科の各分野の区分について②

○物理分野

区分	作用と変化	空間における伝搬	保存とエネルギー変換
（区分の説明）	「物理現象における作用によって対象の状態はどのように変化するか」を学ぶ （参考）主な学問領域：ニュートン力学、電磁気学	「空間における伝わり方にはどのような特徴や性質があるのか」を学ぶ （参考）主な学問領域：波動、電磁気学、光学	「物理現象においてどのような保存則が存在するか、また、エネルギー変換とはどのようなものなのか」を学ぶ （参考）主な学問領域：ニュートン力学、電磁気学、熱力学、原子核物理学、素粒子物理学

○化学分野

区分	物質の構成	物質の性質	物質の化学変化
（区分の説明）	「物質はどのような粒子によって構成されているのか」を学ぶ （参考）主な学問領域：分析化学 物理化学	「物質の性質は何によって特徴付けられるのか」を学ぶ （参考）主な学問領域：構造化学 高分子化学	「粒子の組合せや結び付き方の変化には、どのような規則性や特徴があるのか」を学ぶ （参考）主な学問領域：無機化学 有機化学

○生物分野

区分	生物の構造と機能	生命の連続性	生物と環境の関わり
（区分の説明）	「生物の体はどのような構造（つくり）でできているか、また、その機能（働き）はどのようなものか」を学ぶ （参考）主な学問領域：細胞学、生理学	「生物はどのように成長して子孫を残すのか、また、生物はどのように進化してきたか」を学ぶ （参考）主な学問領域：発生学、遺伝学、進化学	「生物と環境の間にはどのような関係性があるか、また、その関係性が変化するとどうなるか」を学ぶ （参考）主な学問領域：生態学

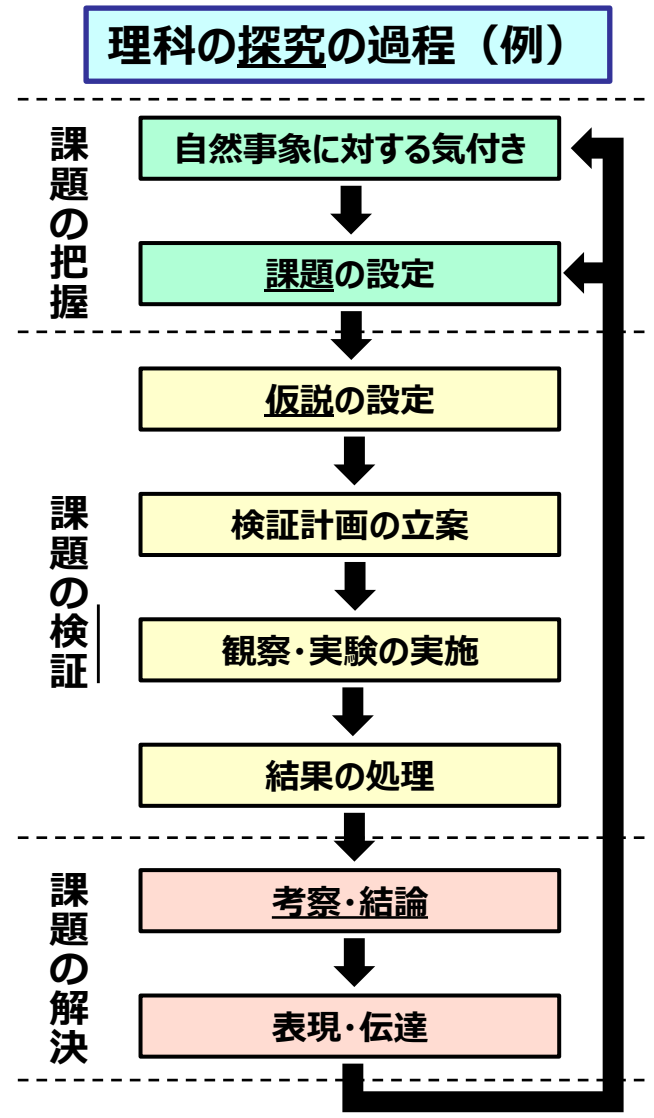
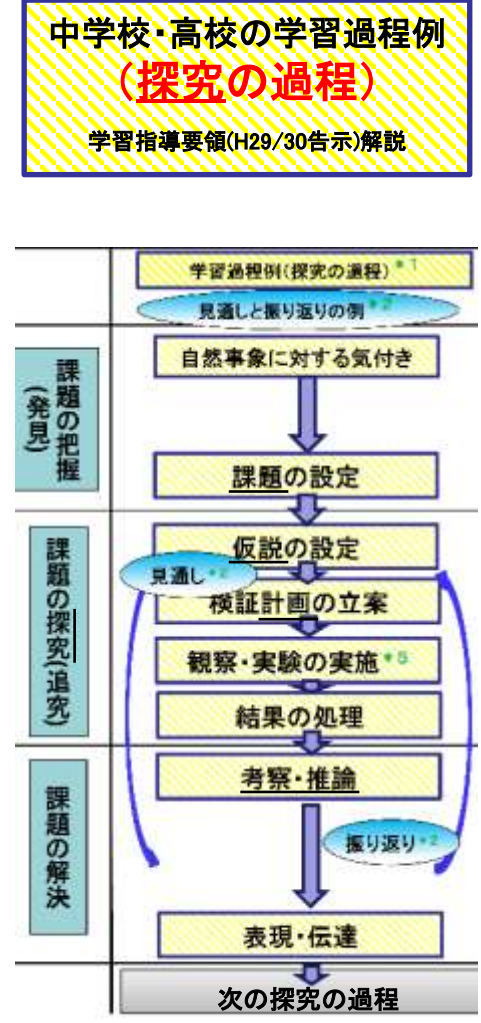
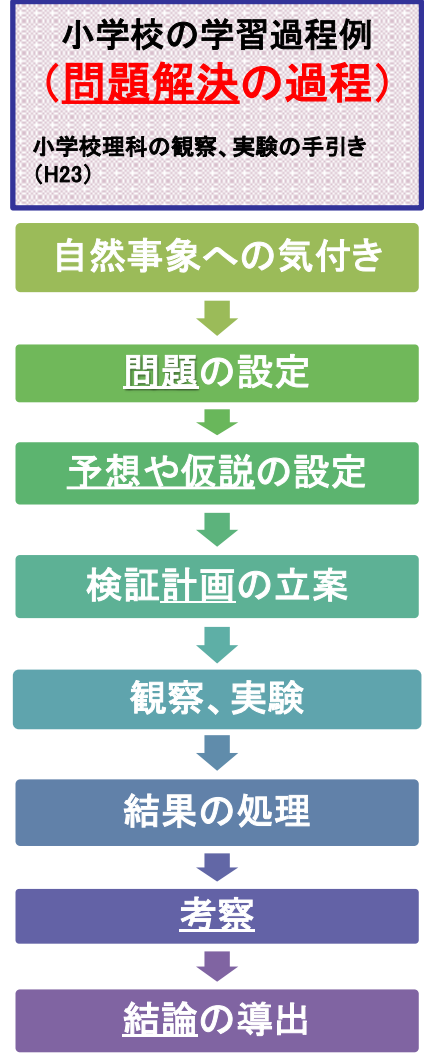
○地学分野

区分	地球の内部と地表面の変動	地球の大気と水の循環	地球と天体の運動
（区分の説明）	「地球の内部は、どのような構造となっているか、また、地表にどのような変化をもたらすのか」を学ぶ （参考）主な学問領域：地質学、岩石学、地球物理学	「天気はどのように変化するか、また、大気や海洋の間にはどのような関係性があるか」を学ぶ （参考）主な学問領域：気象学、海洋学	「宇宙にはどのような天体があるか、また、地球を含む天体はどのように動いているか」を学ぶ （参考）主な学問領域：宇宙物理学、天文学

探究の過程における用語の統一について（案）

※実際の指導場面において、児童生徒の発達段階や探究の深度等に応じて例えば「課題」を「問い」や「問題」、「仮説」を「予想」などと表現することは何ら妨げられない。

※用語の統一が教育実践としての問題解決学習を否定するものではないことに留意。



※下線は変更箇所

※それぞれの過程の具体的内容は、小・中・高の解説で詳説

理科における学習内容の見直し・精選等の考え方（案）

➤ 高次の資質・能力を踏まえた学習内容の見直し・精選等

- ・「統合的な理解」「総合的な発揮」の形成に必要な「知識及び技能」「思考、判断、表現力等」を中心に排列することとし、必ずしも不可欠とはいえない内容については精選してはどうか。
- ・理科という教科固有の特徴として、同じ事物・現象を発達段階に応じて繰り返し（スパイラル）で学習するが、学年間や学校種間で重複が大きい部分については整理してはどうか。
- ・小・中・高等学校を通貫した学習内容の系統性、一貫性、連続性の観点から内容の見直しを図ってはどうか。
- ・以上のことを踏まえ、次期学習指導要領とその解説を作成することとしてはどうか。

※見直し・精選等にあたっては、児童生徒の発達の段階を踏まえる必要がある。

【検討例】 小学校・第3学年の「風とゴム」の力の働きを「ゴム」の力の働きに見直し

（考え方）物理分野の統合的な理解「力には種類があること、力が働くと運動が変化することを理解する。」に照らせば、必ずしも本単元で“風”と“ゴム”の両方を扱うことが不可欠とは言えないことから、実験において作用点が明確でより定量的な操作が容易である“ゴム”を選択。（※ 指導に当たって風を扱うことを妨げるものではない。）

なお、第3学年で「磁石の力」についても学ぶことから、これらを学ぶことにより「力」についての統合的な理解を図る。

➤ 教科書のあり方の検討を通じた学習内容の見直し・精選等

教科書会社における編纂の参考として、どういった内容を精選対象とすることが考えられるか、またどういった構成上の工夫（構造化された学習指導要領とのつながりが意識できる）が考えられるか。（前提として、学習指導要領及び解説において取り扱うべき内容をより明確にすることが必要。）

【検討例】

- ・ 観察・実験のやり方について、教師が適切に選択しやすい構成とする（観察・実験の安易な削減につながらないよう留意）
- ・ 帰納的指導法と演繹的指導法を効果的に組み合わせやすい構成とする
- ・ 同一の概念の獲得に当たり多数の個別事実・用語・現象例が並列的に掲載されている箇所については例示を精選する等

※小学校においては理科の指導経験が浅い／指導が苦手な教師を中心に、また、中学・高校においては受験指導を強く意識する学校を中心に、教師が教科書を網羅的に指導する傾向があるとの指摘がある。このため、教科書の個別の内容について、高次の資質・能力を育成する上で必ず取り扱うべき内容なのか、必要に応じて扱うべき内容なのかといったグラディエーションが分かるよう、教科書会社に教師用指導書上での工夫等を要請することも考えられるのではないかと。

共通教科「理数科」

※算数・数学WGと理科WGの合同で審議

算数・数学WGにおける議論の補足イメージ及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）のP207～211を参照

**体育・保健体育、健康、安全WGにおける
議論の補足イメージ及び
教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	運動の特性等に応じた運動の行い方や運動への関わり方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての課題を見付け、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。	- 運動との多様な楽しみ方や心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。 - 自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や健康の保持増進を目指し、明るく楽しい生活を営む態度を養う。
中学校	運動の特性等に応じた運動に関する技能や運動への豊かな関わり方及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、合理的に考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。	- 生涯にわたる運動との多様な楽しみ方や心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。 - 自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
高等学校	運動の特性等に応じた運動に関する技能や生涯にわたる運動への豊かな関わり方及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、合理的、計画的に考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。	- 生涯にわたる運動との継続的で多様な楽しみ方や心身の健康やそれを支える社会づくりに関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。 - 自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や健康の回復・保持増進を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

見方・考え方

- 【体育】・運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。
- 【保健】・保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに関わる原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。

資質・能力の全体構造（素案）

	体づくり運動系、体づくり運動		器械運動系、器械運動	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
小学校	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動は、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり体の動きを高めたりすることを理解する	心身の状態等に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ	器械・器具の特性に応じた非日常的な動き（回転、支持、逆さの姿勢等）を身に付ける中で、様々な運動に通じる運動感覚を養うことができることを理解する	器械・器具の特性等に応じて、自己の課題の解決の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ
	内容項目例		内容項目例	
	- 体ほぐしの運動遊び・運動 - 多様な動きをつくる運動遊び・運動 - 体の動きを高める運動	- 心と体の状態等に応じて運動の課題や行い方を選ぶこと - 誰もが気づきや関わり合いが深まる運動や、体の動きを高めるために適した運動の行い方を工夫したりすること	器械・器具等を用いて非日常的な動き（回転、支持、逆さの姿勢等）を身に付けることに関する	器具等を使う運動について、自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすること
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動は、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり体の動きを高めるとともに、計画的に実生活に取り入れることで、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図ることにつながることを理解する	心身の状況等に応じて、誰もが体を動かす楽しさや心地よさを味わったり運動を計画するために必要なことを考え、運動を通して仲間と関わる方法や運動の組合せを工夫する	器械・器具の特性に応じた非日常的な動き（回転、支持、逆さの姿勢等）が滑らかにできるようになる中で、様々な運動に通じる運動感覚を養うことができることを理解する	器械・器具の特性等に応じて、誰もが器械運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技を習得する練習方法や演技構成を工夫する
	内容項目例		内容項目例	
	- 体ほぐしの運動 - 体の動きを高める運動 - 実生活に生かす運動の計画	動きの組み合わせ方や仲間との関わり合いなどの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること	器械・器具等を用いて非日常的な動き（回転、支持、逆さの姿勢等）の滑らかな実施に関する	器具等を使う運動について、技の行い方や技の組合せ方などの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	体づくり運動は、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができるとともに、計画的に実生活に取り入れることで、生涯にわたる健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図ることにつながることを理解する	心身の状況等に応じて、誰もが体を動かす楽しさや心地よさを味わったり運動を計画するために必要なことを考え、運動を通して仲間と関わる方法や運動の組合せを合理的、計画的に工夫する	器械・器具の特性に応じた非日常的な動き（回転、支持、逆さの姿勢等）が滑らかに安定してできるようになる中で、様々な運動に通じる運動感覚を養うことができることを理解する	器械・器具の特性等に応じて、誰もが器械運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技を習得する練習方法や演技構成を合理的、計画的な解決に向けて工夫する
	内容項目例		内容項目例	
	- 体ほぐしの運動 - 実生活に生かす運動の計画	運動の行い方や運動の実生活への取り入れ方の課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること	器械・器具等を用いて非日常的な動き（回転、支持、逆さの姿勢等）の滑らかな実施に関する	器具等を使う運動について、技や演技、仲間との関わり方など課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること

資質・能力の全体構造（素案）

	陸上運動系、陸上競技		水泳運動系、水泳	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	走る、跳ぶなどの運動に取り組む中で、動きを組み合わせるにより合理的に体を動かすことができることを理解する	走・跳等の特性に応じて、自己の課題の解決の仕方や競争・記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ	水中における特性を生かした動き（浮く、呼吸する、進む）に取り組む中で、環境の特性を生かした動きを組み合わせることとで合理的な運動ができることを理解する	水の中での活動の特性に応じて、自己の課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ
	内容項目例		内容項目例	
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	走る、跳ぶなどの運動に取り組む中で、動きを組み合わせるにより合理的で心地よく運動ができることを理解する	走・跳の特性等に応じて、誰もが陸上運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な動きや効率的な動きを習得する練習方法や競争の仕方を工夫する	水中における特性を生かした泳ぎに取り組む中で、環境の特性を生かした動きを組み合わせることとで合理的で心地よく運動ができることを理解する	泳法の特性等に応じて、誰もが水泳運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な泳ぎなどの習得方法を工夫する
	内容項目例		内容項目例	
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	走る、跳ぶ、投げるなどの運動に取り組む中で、動きを組み合わせることにより効率的で心地よく運動ができることを理解する	走・跳・投の特性等に応じて、誰もが陸上競技の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な動きを習得する練習方法や競争の仕方を合理的、計画的な解決に向けて工夫する	水中における特性を生かした泳ぎに取り組む中で、環境の特性を生かした動きを組み合わせることとで効率的で心地よく運動ができることを理解する	泳法の特性等に応じて、誰もが水泳の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な泳ぎなどの習得方法を合理的、計画的な解決に向けて工夫する
	内容項目例		内容項目例	
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	短距離走・リレー、長距離走、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げ、やり投げ	陸上競技に関して、合理的・効率的な動きなどの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること	クロールや平泳ぎ等の泳法、複数の泳法	各泳法の合理的な動きなどの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること

資質・能力の全体構造（素案）

	ボール運動系、球技		武道	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
小学校	ゲームの特性等に応じて、ボールに関する操作及び仲間と連携した動きでゲームを展開することにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する	ゲームの特性等に応じて、誰もがゲームの楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、ルールや作戦、運動の取り組み方等を選ぶことができることを理解する		
	内容項目例		内容項目例	
	- ボールゲーム、鬼遊び - ゴール型（ゲーム）、ネット型（ゲーム）、ベースボール型（ゲーム）	ゲーム等を行うにあたっての自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすること		
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	ゲームの特性等に応じて、ボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで攻防を展開し、勝敗を競うことにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する	ゲームの特性等に応じて、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を工夫する	武道の特性等に応じて、自分や相手の力を効率的に使う基本的な攻防を展開する中で、相手を尊重して攻防に取り組むことを重視すること等の武道の伝統的な考え方を理解する	武道の特性等に応じて、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技の習得方法や簡易な攻防の展開を工夫する
	内容項目例		内容項目例	
	- ゴール型 - ネット型 - ベースボール型	ボール操作やボールを持たないときの動きなどの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること	- 柔道 - 剣道 - 相撲	技の習得や簡易な攻防などの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	ゲームの特性等に応じて、作戦や状況に応じたボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで攻防を展開し、勝敗を競うことにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する	ゲームの特性等から、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を合理的、計画的な解決に向けて工夫する	武道の特性等に応じて、自分や相手の力を効率的に使う攻防を展開する中で、相手を尊重して攻防に取り組むことを重視すること等の武道の伝統的な考え方を理解する	武道の特性等に応じて、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技の習得方法や攻防の展開を合理的、計画的な解決に向けて工夫する
	内容項目例		内容項目例	
	- ゴール型 - ネット型 - ベースボール型	攻防やボール操作、ボールを持たないときの動きなどの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること	- 柔道 - 剣道	技の習得や攻防、合理的な動きなどの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること

資質・能力の全体構造（素案）

	表現運動系、ダンス		体育理論	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
小学校	即興的な動きやリズムに乗った動きができるようになる中で、自己の身体を通じて、心身を解き放した表現ができることを理解する	表現やダンスの特性等に応じて、自己の課題の解決の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して表現に取り組むことができるような発表・交流の仕方を工夫する		
	内容項目例		内容項目例	
	- 表現遊び、リズム遊び - 表現、リズムダンス - フォークダンス	表現や交流を行うにあたっての自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすること		
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	イメージを捉えた即興的な動きやリズムに乗った動きができるようになる中で、仲間とともに身体を通じて、心身を解き放した表現ができることを理解する	表現やダンスの特性等に応じて、誰もが踊ったり表現したりする楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら発表・交流の方法や構成を工夫する	スポーツの文化としての側面や合理的な運動実践に必要なこと等、豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な楽しみ方について考えを深めることができることを理解する	豊かなスポーツライフの実現のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツの多様な楽しみ方を工夫する
	内容項目例		内容項目例	
	- 創作ダンス - フォークダンス - 現代的なリズムのダンス	表現や交流などの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること	- 運動やスポーツの多様性 - 運動やスポーツの効果と学び方 - 文化としてのスポーツの意義	運動やスポーツへの多様な関わり方や文化としてのスポーツの意義などの課題を発見し、よりよい解決に向けて工夫すること
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	様々なダンスの特性等に応じてイメージを捉えた即興的な動きやリズムに乗った動きができるようになる中で、仲間とともに身体を通じて、心身を解き放したりイメージを深めたりして表現ができることを理解する	ダンスの特性等に応じて、誰もが踊ったり表現したりする楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら発表・交流の方法や構成を合理的、計画的な解決に向けて工夫する	スポーツ文化の創造や合理的な運動実践に必要なこと等、豊かなスポーツライフの継続に関する科学的知識を多角的に身に付けることで、自己の状況等に応じた運動・スポーツとの多様な楽しみ方について考えを深めることができることを理解する	スポーツ文化の創造や豊かなスポーツライフの継続のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツの多様な楽しみ方を工夫する
	内容項目例		内容項目例	
	- 創作ダンス - フォークダンス - 現代的なリズムのダンス	表現や交流、発表などの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること	- スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 - 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 - 豊かなスポーツライフの設計の仕方	現代におけるスポーツの価値やスポーツライフの設計の仕方などの課題を発見し、持続可能な発展につながるよりよい解決に向けて工夫すること

資質・能力の全体構造（素案）

【全ての領域共通】運動との関わり方		
小学校	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮
	運動等の特性等に応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が運動に豊かに親しむことができることを理解する	運動等の特性等から、誰もが運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、自らの運動や仲間との関わり方などを工夫する
	内容項目例	
	公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する概念や方法等	運動の行い方に関する共生等に関する課題の発見や解決
中学校	統合的な理解	総合的な発揮
	運動等の特性等に応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が自らの人生において運動に豊かに親しむことができることを理解する	運動等の特性等から、誰もが運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、自らの運動や仲間との関わり方や安全の確保の仕方などを工夫し、生活に適用する
	内容項目例	
	公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する概念や方法等	運動実践につながる公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する課題の発見や解決
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮
	運動等の特性等に応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が自らの人生において他者によりよく関わりながら運動に豊かに親しむことができることを理解する	運動等の特性等から、誰もが運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、自らの運動や仲間との関わり方や安全の確保の仕方などを工夫し、生涯にわたる視野を踏まえ生活に適用する
	内容項目例	
	公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する概念や方法等	運動実践につながる公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する課題の発見や解決

資質・能力の全体構造（素案）

	健康な生活、健康な生活と現代社会		心の健康、心の健康と対策	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	生活の仕方や身の回りの環境は健康の状態に関連があり、毎日を健康に過ごすためには、身近な生活の仕方や生活環境を整えることが必要であることを理解する	健康な生活の仕方を考え、身近な生活に適用する	心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処は心の健康に関連があり、身近な健康を保つことに関わることを理解する	心をよりよく発達させたり、不安や悩みに対処する方法を考え、身近な生活に適用する
	内容項目例		内容項目例	
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	個人の生活行動や社会環境は人の健康に関連があり、人が健康に過ごすためには、生活行動を整えたり、より良い社会環境を目指すことが必要であることを理解する	健康を保持増進する方法を見だし、自他の生活に適用する	精神機能の発達やストレス等への対処は、心の健康と関連があり、個人の健康を保つことに関わることを理解する	精神機能を発達させたり、欲求やストレスへの適切な対処法を考え、自他の生活に適用する
	内容項目例		内容項目例	
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	国民の健康課題や健康の考え方は、個人及び社会における健康に関連があり、現代社会における健康課題に対応するためには、こうした相互作用を踏まえた行動選択が必要であることを理解する	健康を保持増進するための個人や社会の取組の意義を見だし、社会生活に適用する	精神疾患を含む心の不調やそれを取り巻く社会環境は心の健康に関連しており、個人及び社会における健康の保持増進や回復に関わることを理解する	心の健康を維持・回復するために必要な個人の取組や社会的な対策について考え、社会生活に適用する
	内容項目例		内容項目例	
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	国民の健康課題 健康の考え方	健康に関わる自他や社会の課題の発見 生活の質の向上に向けた課題解決の方法を整理し、それらを表現すること	精神疾患の特徴 精神疾患への対処 心の健康を維持・回復するための方法や対策	自他や社会の心の健康に関わる課題の発見 心の健康に関する課題を解決する方法を考えること

資質・能力の全体構造（素案）

	けが・傷害の防止、安全な社会生活		病気・疾病の予防、疾病の予防と対策	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	人の行動や生活環境は、けがの発生に関連があり、身近な生活におけるけがの防止につながることを理解する	危険の予測や回避の方法を考え、身近な生活に適用する	病原体や生活行動等は、病気が起こることに関連があり、その要因を踏まえた予防方法をとることは、身近な生活における病気の予防につながることを理解する	病気の原因や予防の原則から、病気の予防方法を考え、身近な生活に適用する
	内容項目例		内容項目例	
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	人の行動や生活環境は、傷害の発生に関連があり、個人生活における傷害の防止につながることを理解する	危険の予測や回避の方法を多面的に考え、自他の生活に適用する	主体や環境は、疾病の発生に関連があり、その要因を踏まえた予防方法をとることは、個人生活における疾病の予防につながることを理解する	疾病概念や予防の原則を拡張し、疾病の予防方法を考え、自他の生活に適用する
	内容項目例		内容項目例	
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	法的な整備などの環境整備や、それに応じた個人の取組は、事故の現状や発生に関連があり、安全な個人及び社会生活につながることを理解する	自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避する方法を考え、社会生活に適用する	主体や環境は、疾病の発生に関連があり、個人の行動選択や社会的な対策によって、個人及び社会生活における疾病の予防と回復につながることを理解する	疾病の概念や予防の原則を拡張し、疾病の特徴や生涯の各段階に応じた予防や回復の方法、社会的な対策を選択し、社会生活に適用する
	内容項目例		内容項目例	
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	事故の発生要因 安全な社会の形成に必要なこと 速やかで適切な応急手当	安全な社会生活に関わる課題の発見 自他や社会の危険予測、回避方法 傷害の悪化の防止方法	感染症の疾病概念と予防方法 生活習慣病やがんの疾病概念と予防と回復の方法	疾病の予防に関する自他や社会の課題の発見 疾病の特徴に応じてリスクを軽減し健康を保持増進するための個人の取組や社会的な対策を考えること

資質・能力の全体構造（素案）

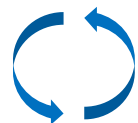
	体の発育・発達、身体機能の発達、生涯を通じる健康		健康と環境、健康を支える環境づくり	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
小学校	体の発育・発達は、年齢や生活の仕方が関連しており、自身の状況等に応じて身近な生活の中で適切に対応することが、よりよい発育・発達につながることを理解する	体をよりよく発育・発達させる方法について考え、身近な生活に適用する		
	内容項目例		内容項目例	
	- 体の発育・発達 - 思春期の体の変化 - 体をよりよく発育・発達させるための生活	- 体の発育・発達に関わる事象から課題を見付けること - 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方を考えること		
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	身体の発育・発達は、年齢に伴う機能の成熟や個人の行動等が関連しており、自身の状況等に応じて個人の生活を中心として適切に対応することが、よりよい発育・発達につながることを理解する	身体機能の発達や適切な生活行動について考え、自他の生活に適用する	衛生等の環境が、人の健康の保持増進に関連があることを理解する	健康と環境に関わる概念を生活環境から社会に関わる環境まで拡張し、健康を保持増進する方法を考え、自他の生活に適用する
	内容項目例		内容項目例	
	- 身体機能の発達 - 生殖に関わる機能の成熟	- 身体機能発達に関する自他の課題の発見 - 発達の状況に応じた健康を保持増進する方法を見いだすこと	- 身体的环境に対する適応能力・至適範囲 - 飲料水や空気の衛生的管理 - 生活に伴う廃棄物の衛生的管理 - 健康を守る社会の取組	- 健康と環境に関する自他の課題の発見 - 健康と環境に関わる課題や情報を整理して、健康を保持増進する方法を見いだすこと
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	生涯の各段階の健康課題に応じた個人及び社会における健康管理や環境づくりを行うことが、生涯を通じた健康の保持増進や回復につながることを理解する	生涯を通じる健康について考え、社会生活に適用する	健康を支える環境づくりが、自他の健康の保持増進に関連があることを理解する	健康と環境に関わる概念を健康を支える環境づくりまで拡張し、全ての人が健康に生きていくための環境について考え、社会生活に適用する
	内容項目例		内容項目例	
	- 生涯の各段階における健康 - 労働と環境	- 生涯の各段階における自他や社会の課題の発見 - 生涯の各段階に応じて健康を保持増進するための個人の取組や社会的な対策を考えること - 生涯の各段階に応じた課題解決	- ヘルスプロモーションの考え方 - 環境・食品と健康 - 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 - 様々な保健活動や社会的対策 - 健康に関する環境づくりと社会参加	- 健康を支える環境づくりに関する自他や社会の課題の発見 - 健康を支える環境づくりについて、個人の取組や社会的な対策を考えること

体育・保健体育等を学ぶ意義・価値について

幸福な人生 よりよい社会

学ぶ過程の中で 見方・考え方

が徐々に資質・能力の育成を導くようになるとともに、よりよい社会や幸福な人生に繋がっていく



資質・能力 が身に付く

【知識及び技能に関する統合的な理解】
 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】

主体的・対話的で 深い学び

学校における学び

幸福な人生

- 生涯を通じた持続的な身体的・精神的・社会的に良い状態(ウェルビーイングな状態)の実現
- 運動・スポーツとの「する、みる、支える、集まる、つながる」等の関わり方を通じた、生涯にわたる楽しさや喜びの享受と自身の可能性を最大化する豊かなスポーツライフの実現
- 自他が安全で安心し、健康を保持増進する人生

よりよい社会

- 活力あふれる健康長寿社会・共生社会を実現し社会全体が持続的にウェルビーイングである状態
- 運動・スポーツを通じた地域・経済の活性化、人々の豊かな繋がり、新たな価値創造の実現
- 人々が健康・安全で、未知の課題にも柔軟かつ持続的に対応できる能力を備え、豊かな人生を送ることのできる社会を含む環境づくりに、様々な担い手が主体的・協働的に参画する社会

学校で体育・保健体育等を学ぶ「本質的意義」

体育

- 身体を媒介に運動学習を行うという独特の学習方法を有し、「運動・スポーツの価値」を体感できるとともに、非認知能力を含む身体的・社会的・情意的スキルの育成に大きな力を発揮する強みがある。
- 全ての子供に運動・スポーツとの多様な関わりを保証するとともに、人と関わりながら自分らしく健康で生き生きとした人生を送る基盤づくりに貢献する、知・徳・体のバランスを支える不可欠な学び。
- デジタル技術が発展する中で、「身体を通じた人間性の醸成」「社会性の育成」「自己理解の深化」の場としての意義・価値を有する。
- 授業における多様性の包摂を通じて、自らの豊かなスポーツライフを舵取りする力と、スポーツを通した誰も取り残さない共生社会の創り手の育成の両方を目指すことができる。

健康・安全

- 学齢期の健康や安全に関する課題の克服、リスクの軽減に資するとともに、生涯を通じて、身体的・精神的・社会的に良い状態で豊かな生活を送る上での基礎を培う役割がある。なお、学校は、発達段階を踏まえつつ、保健について計画的かつ系統的に学ぶことのできる最適な場所と考えられる。
- 知識の集積に止まらない健康に関する原則・概念を習得することにより、健康に関わる自己決定能力を育み、未知の健康課題にも対応できる柔軟で持続的なコンピテンシーを身に付けることができる。
- 学習内容を日常生活で行動化する実践力を身に付けることで、現代的課題を含めた様々な課題に対応することができるようになるとともに、保健・安全に関するより良い社会を含む環境の創造に主体的・協働的に参画できる力を育てることにつながる。



「未来社会を生き抜く
 人間力」の育成に直結

**芸術WGにおける議論の補足イメージ
及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
中学校	音楽を創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現について考え、思いや意図をもって創造的に表現したり、価値を見いだしながら音楽のよさや美しさなどを味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	A 表現	歌唱・器楽	総合的な発揮	内容項目例
			音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値を、実感しながら、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること ・ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること
		知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
		知識及び技能	音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など ・ 歌い方による声の音色などの違いや変化に関する知識及び身体の使い方の技能を身に付けること ・ 歌い方や演奏の仕方による全体の響きの違いや変化に関する知識及び身体の使い方の技能を身に付けること など
	音楽づくり	歌唱・器楽	総合的な発揮	内容項目例
			音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること ・ 設定した条件に基づいて、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること ・ 設定した条件に基づいて、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって音楽をつくって表すこと
		知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
		知識及び技能	音の響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など ・ 音の選択や組み合わせ方による音や全体の響きの違いや変化に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること ・ 音楽の仕組みなどを用いた音やフレーズのつなげ方や重ね方による全体の響きの違いや変化に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること
	B 鑑賞	歌唱・器楽	総合的な発揮	内容項目例
			音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること ・ 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと
	B 鑑賞	歌唱・器楽	統合的な理解	内容項目例
			音楽の特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、曲や演奏のよさなどを見だすことができることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など ・ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

資質・能力の全体構造（素案）

中学校	歌唱	表現力、思考力、判断力等	総合的な発揮	内容項目例
			音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を実感しながら、歌唱表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や歌詞の内容、曲の背景などとの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと
		知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
			曲にふさわしい声の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること ・ 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて歌いながら理解すること ・ 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
	A 表現 器楽	表現力、思考力、判断力等	総合的な発揮	内容項目例
			音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、器楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の背景などとの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
		知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
			曲にふさわしい楽器の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること ・ 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて演奏しながら理解すること ・ 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
	創作	表現力、思考力、判断力等	総合的な発揮	内容項目例
			音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、思いや意図をもって音楽をつくること
		知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
			音や音同士の関係の特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること ・ 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴及び反復、変化、対照などによって生まれる構成上の特徴について、音を選択したり組み合わせたりする技能を身に付けて音楽をつくりながら理解すること

資質・能力の全体構造（素案）

中学校	B 鑑賞	思考力、 判断力、 表現力等	総合的な発揮	内容項目例
			音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を 実感 しながら、音楽を聴き深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと
		知識及び技能	総合的な理解	内容項目例
			音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさ、意味や役割などを見いだすことができることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること ・ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、表現方法に応じて材料、用具を使ったり、表現の特徴を捉えたりすることができるようにする	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の工夫などについて考え、創造的に表現したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	つくりだす喜びを味わいながら、主体的・協働的に造形的な創造活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	A 表現	自分と材料や場所（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮 材料や場所などとの関わりから対象や事象を捉え、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、造形的な活動をつくる過程での気づきを生かして表現することができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること
			知識及び技能	統合的な理解 材料や場所などとの関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること ・ 造形遊びをする活動を通して、活動をつくる方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
		自分と表したいこと（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮 表そうとすることから対象や事象を捉え、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、表す過程での気づきを生かして表現することができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付けられることや、どのように表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
			知識及び技能	統合的な理解 表そうとすることから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 自分の感覚や行為を通して形や色などや、造形の働きについて理解すること ・ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
	B 鑑賞		思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮 作品などとの関わりから、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、自分や他者、生活における造形の意味や価値について考え、自分の見方や感じ方を広げ深めることができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や親しみのある美術作品などのよさや美しさ、表現の意図などについて感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること
			知識及び技能	統合的な理解 作品などとの関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、作品などに応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること ・ 鑑賞する活動を通して、鑑賞の方法を知り、自分たちの作品や、親しみのある美術作品などから表現の特徴などを見付けだすこと

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	創造することの喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の創造活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術や美術文化に関わり親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

資質・能力の全体構造（素案）

中学校	A 表現	自分と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目例
			思考力、判断力、表現力等	自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	- 感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出すこと - 構想を練り、工夫して表現すること
		知識及び技能	知識及び技能	総合的な理解	内容項目例
			知識及び技能	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること - 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しをもつこと
	生活や社会と美術（仮）	A 表現	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目例
			思考力、判断力、表現力等	身近な生活や社会と美術との関わりから対象や事象を見つめ、目的や条件などを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	- 意図や、伝える、使うなどの目的や条件などを基に主題を生み出すこと - 調和のとれた美しさなどを考えて表現の構想を練り、工夫して表現すること
		知識及び技能	知識及び技能	総合的な理解	内容項目例
			知識及び技能	身近な生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること - 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しをもつこと

資質・能力の全体構造（素案）

中学校	B 鑑賞	自分と美術（仮）	表現力、思考力、判断力等	総合的な発揮 自分と美術との関わりから美術作品などを見つめ、自分の中の美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	内容項目例 ・ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること
			知識及び技能	統合的な理解 自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	内容項目例 〔共通事項〕 ・ 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること ・ 美術の働きや美術文化について理解すること ・ 視覚的な特徴などの情報を読み取ること
		生活や社会と美術（仮）	表現力、思考力、判断力等	総合的な発揮 身近な生活や社会と美術との関わりから美術作品などを見つめ、社会における美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	内容項目例 ・ 目的や条件、機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること
			知識及び技能	統合的な理解 身近な生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	内容項目例 〔共通事項〕 ・ 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること ・ 美術の働きや美術文化について理解すること ・ 視覚的な特徴などの情報を読み取ること

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、 創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、 芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	イメージをもって音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージに基づいた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	創意工夫を生かして音楽を創造的に表現したり、曲や演奏の価値を見いだしながら創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、創造的に音楽や音楽文化と関わり親しみ、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	音楽を創意工夫や表現上の効果を生かして創造的に表現したり、芸術としての音楽の価値を見いだしながら創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を解釈したり評価したりしながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽や音楽文化に関わりそれらを尊重し、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校	A 表現	歌唱	総合的な発揮	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を実感しながら、歌唱表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や歌詞の内容、曲の背景などとの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって歌うこと
			総合的な理解	曲の特徴や表現上の効果を生かして歌うための声の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること ・ 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
		器楽	総合的な発揮	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、器楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の背景などとの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって演奏すること
			総合的な理解	曲の特徴や表現上の効果を生かして演奏するための楽器の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること ・ 様々な表現形態による器楽表現の特徴について、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
	創作	知識及び技能	総合的な発揮	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって音楽をつくること
			総合的な理解	音や音同士の関係の特徴などを生かした音のつながりや重なりを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、表現意図を創作で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること ・ 音型の特徴や構成上の特徴、音楽の形式の特徴などについて、反復、変化、対照などの手法を身に付けて音楽をつくりながら理解すること

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校	B 鑑賞	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目例
			音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる	〔共通事項〕 - 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること - 生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを自ら味わって聴くこと
		知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
			音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさ、意味や価値などを見いだすことができることを理解している	〔共通事項〕 - 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること - 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解すること

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を高めて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を働かせて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術や美術文化に関わりそれらを尊重し、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校	A 表現	自分と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目例
			思考力、判断力、表現力等	自分と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） - 感じ取ったことや考えたことを基に主題を生成すること - 構想を練り、工夫して表現すること
		社会と美術（仮）	知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
			知識及び技能	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を幅広く追求すること - 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しをもつこと
高等学校	A 表現	自分と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	内容項目例
			思考力、判断力、表現力等	社会と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、目的や条件、意図などを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（デザイン、映像メディア表現） - 目的や条件、機能などを考え、主題を生成すること - 構想を練り、工夫して表現すること
		社会と美術（仮）	知識及び技能	統合的な理解	内容項目例
			知識及び技能	社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を幅広く追求すること - 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しをもてるようにすること

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校	B 鑑賞	自分と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮 自分と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、自分の中の美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	内容項目例 （絵画・彫刻、映像メディア表現） 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な表現の工夫などを考え、見方や感じ方を深めること
			知識及び技能	統合的な理解 自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	内容項目例 〔共通事項〕 - 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 背景や文脈などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取ること
		社会と美術（仮）	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮 社会と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、社会における美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	内容項目例 （デザイン、映像メディア表現） 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な工夫などを考え、見方や感じ方を深めること
			知識及び技能	統合的な理解 社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	内容項目例 〔共通事項〕 - 形や色彩、材料や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 背景などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取ること

高等学校各科目の目標 (素案)

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を高めて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を働かせて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸や工芸の伝統と文化に関わりそれらを尊重し、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校	A 表現	身近な生活と工芸	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮 身近な生活と工芸との関わりから対象や事象を深く見つめ、自然や素材、自分の思いなどから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	内容項目例 ・ 自然や素材、自己の思いなどから、心豊かな発想をすること ・ 制作の構想を練り、工夫して表現すること
			知識及び技能	統合的な理解 身近な生活と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	内容項目例 〔共通事項〕 ・ 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること ・ 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること ・ 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かし、表現方法を追求すること ・ 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しをもつこと
		社会と工芸	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮 社会と工芸との関わりから対象や事象を深く見つめ、使う人や生活環境などから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	内容項目例 ・ 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること ・ 制作の構想を練り、工夫して表現すること
			知識及び技能	統合的な理解 社会と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	内容項目例 〔共通事項〕 ・ 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること ・ 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること ・ 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かし、表現方法を追求すること ・ 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しをもつこと

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校	B 鑑賞	身近な生活と工芸	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮 身近な生活と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つけ、生活における工芸がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	内容項目例 ・ 工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
			知識及び技能	統合的な理解 身近な生活と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	内容項目例 〔共通事項〕 ・ 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること ・ 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること ・ 視覚的な特徴などの情報を読み取ること ・ 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること
		社会と工芸	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮 社会と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つけ、社会における工芸がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	内容項目例 ・ 工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
			知識及び技能	統合的な理解 社会と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	内容項目例 〔共通事項〕 ・ 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること ・ 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること ・ 視覚的な特徴などの情報を読み取ること ・ 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	書の特性、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより効果的、創造的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の幅広い創造的な活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わり親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	書の特性、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わりそれを尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	書の特性、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化に関わりそれを尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

- 感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

資質・能力の全体構造（素案）

高等学校	A 表現	断力、表現力等 思考力、判断力	総合的な発揮	内容項目例
		知識及び技能	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる	- 名筆を生かした表現や現代に生きる表現、漢字の書及び仮名の書の伝統と文化に基づく表現について考えること - 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
	B 鑑賞	断力、表現力等 思考力、判断力	総合的な発揮	内容項目例
		知識及び技能	書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができる	- 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書の意味や価値について考えること - 作品や書の美の構造、多様な背景との関わり、書の伝統と文化について考えることを通して、書のよさや美しさを味わうこと
高等学校	A 表現	断力、表現力等 思考力、判断力	総合的な発揮	内容項目例
		知識及び技能	作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身体機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること - 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること - 各分野の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること - 用具・用材の特徴、古典や名筆等の基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
高等学校	B 鑑賞	断力、表現力等 思考力、判断力	総合的な発揮	内容項目例
		知識及び技能	書の伝統と文化、書の美の多様性と関わらせて、書の美を捉える視点等について実感を伴って捉えながら、作品や書から情報を読み取る技能を身に付けることにより、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している	〔共通事項〕 - 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること - 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること - 書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立、漢字仮名交じりの書の成立について理解すること - 書の美を捉える視点を通して、読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能を身に付けること

目標及び見方・考え方等の改善の方向性①



芸術系教科における現状と課題例

第1回及び第2回WGにおける委員の意見や学習指導要領実施状況調査の分析などにより、芸術系教科として以下の現状と課題が考えられる。

- 我が国の文化芸術に関する教育の充実が求められていること
- 教師からの働きかけが強く、子供が自律的に学習を進められていない状況が一部に見られること
- 表現及び鑑賞の活動の相互の関連付けが適切に行われていない状況があること
- 児童生徒が芸術系教科・科目の学びの意義について、十分に実感できている状況に至っていないこと
- 芸術系教科・科目での学びを、豊かな社会の創造にどのようにつなげていけるのか

子供たちが正解を求めることなく、芸術のよさや面白さを感じようとする意識をもつことができていないのではないか

子供たちが諸感覚を働かせて感じたことを、知識を基に説明したり、教師が多様な子供の視点や考え方に目を向けることができていないのではないかなど

子供たちに、学校教育で身に付けた資質・能力を生活や社会などへ関わらせていく視座が形成できていないのではないかなど

文化芸術基本法（平成13年12月7日法律第148号）（抄）

（学校教育における文化芸術活動の充実）

第二十四条 国は、学校教育における文化芸術活動の充実を図るため、**文化芸術に関する体験学習等文化芸術に関する教育の充実**、芸術家等及び文化芸術団体による学校における文化芸術活動に対する協力への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査の結果の例

・「音楽の授業で学んだことは、私たちの生活や社会でいかすことができると思う」
→ 肯定的に回答する児童の割合が55.5%

・「図画工作の時間で学習したことを、ふだんの生活の中に生かしている」
→ 肯定的に回答する児童の割合が60.1%

第1回、第2回ワーキンググループにおける委員の意見の例

- ・子供自身が考えることができる指導が重要。指導過多でもなく放任でもなく、教師が指導することと子供が考えることとのバランスを考慮ことや、学習の過程を重視した指導が求められる。
- ・創造性は今むしろ社会との関わりにおいてベクトルは外に向かうのだということが非常に重要になってきている。
- ・子供自らが問いを立てて課題を解決できるような授業を考えることが大切。



改善の方向性（案）

現状と課題を踏まえ、目標及び見方・考え方、高次の資質・能力等について、以下の改善の方向性が考えられる。

- ① **捉えたり、感じたりしたことを、要素・特徴※や背景にある文化との関わりで理解したり思考・判断・表現したりすることができるようにすること（○）**
※ 音楽を形づくっている要素、造形的な特徴、書を構成する要素
- ② **表現したいことをどのように形にできるか、他者に伝えることができるか、という自分の思いや考えをもつことができることや、諸感覚を働かせつつ身体性を伴った技能により表現することを重視（▲）**
- ③ **表現及び鑑賞の学習において、正解は一つではなく、児童生徒一人一人のありようが尊重されるべきものであること（△、◆、▲、■）**
- ④ **表現及び鑑賞の学習において、工夫したことや感じたことを伝え合うなどの言語活動等を通して、感じ方や考え方を深めるようにすること（■）**
- ⑤ **他者とともに協働する学習を通じて、共感したり多様な視点で考えたりできるようにすること（■）**
- ⑥ **生活や社会、文化などとの関わりや、意味や価値を見いだしたり、つくりだしたりするなど豊かな社会の創造や幸福な人生につなげていくことについて示すこと（◇）**

（次期学習指導要領に向けた基本的な考え方）

- ・主体的・対話的で深い学びの実装（○）
- ・多様性の包摂（△）
- ・実現可能性の確保
- ・自らの人生の舵取りをする力と民主的な社会の創り手育成（◇）

（学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ）

- ・学びを方向付ける人間性
 - ・初発の思考や行動を起こす力・好奇心（▲）
 - ・他者との対話や協働（■）
 - ・学びの主体的な調整（◆）
- ※主として考えられる関係性を記号で示している

**家庭WGにおける議論の補足イメージ
及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	自分や家族・家庭の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を多角的に評価・改善し、考えたことを表現するなど、日常生活の課題を解決する力を養う。	- 家庭生活を大切にすることを育むとともに、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 - 自分や家族・家庭の生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
中学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生活の自立に向けて必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生活の自立に向けて課題を解決する力を養う。	- 家族や地域の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 - 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
高等学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	- 家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 - 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	- 家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 - 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり率先して生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を深めながら多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	- 家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、率先して生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 - 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。

見方・考え方

- 自分や家族の生活の営み、地域や社会との関わりの中で持続的なものとする視点から多角的に捉え、主体的によりよい生活を創り出すこと。

資質・能力の全体構造（素案）

	A 家族・家庭と生涯発達（仮称）		B 生活の経営と消費生活（仮称）	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	家族の一員として、生活の中で自分のできることを考え取り組むことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家族や地域の人々と協力する中で自分の生活上の課題を見だし、よりよい生活に向けて工夫することができる。	生活資源を活用することが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	生活資源を活用しながら、自分の生活上の課題を見だし、よりよい生活に向けて工夫することができる。
	内容項目例		内容項目例	
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	家族や地域を支える一員として、自分のできることを考え取り組むことが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家族や地域の人々と協力・協働する中で自分の生活上の課題を見だし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。	生活資源を効果的に活用することが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	生活資源を効果的に活用しながら、自分や家族の生活上の課題を見だし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。
	内容項目例		内容項目例	
中学校	自分の成長と家族や家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働	幼児の発達や生活の特徴に応じたよりよい関わり方について考え、工夫すること	家族・家庭の機能 金銭や生活時間などの生活資源のマネジメント 家庭の構成員の役割や状況 購入方法や支払いの特徴、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 消費者の基本的な権利と責任 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響	自分や家族の生活資源を活用した暮らし方（生活の仕方）を考え、工夫すること 物資・サービスの選択に必要な情報を活用し、自立した消費者としての責任ある消費行動について考え、工夫すること

資質・能力の全体構造（素案）

	C 食生活（仮称）		D 衣生活（仮称）		E 住生活（仮称）	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	栄養バランスを考えた食事を楽しむことが、自分の生活によりよくすることにつながることを理解する。	自分の食生活上の課題を見だし、健康でよりよい生活に向けて工夫することができる。	衣服を手入れしながら着用したり、生活に役立つものを製作したりすることが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分の衣生活上の課題を見だし、健康・快適でよりよい生活に向けて工夫することができる。	栄養バランスを考えた食事を楽しむことが、自分の生活によりよくすることにつながることを理解する。	自分の食生活上の課題を見だし、健康でよりよい生活に向けて工夫することができる。
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
中学校	- 食事の役割と食事の仕方 - 五大栄養素、食品の体内での主な働き - 栄養バランスを考えた1食分の献立の作成方法 - 安全や衛生的な調理（ゆでる・いためる）の仕方と調理計画、伝統的な日常食の調理	- 楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫すること 1食分の献立についての栄養のバランスを考え、工夫すること - おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫すること	- 衣服の主な働き、日常着の快適な着方 - 日常着の手入れ - 製作に必要な材料や用具の安全な取扱い - 製作手順を考えた製作計画 - 基本的な縫い方	- 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること - 生活に役立つ布を用いた物の製作計画を考え、工夫すること	- 季節の変化に合わせた室内の整え方 - 室内の整理・整頓や清掃の仕方	季節の変化に合わせた室内の整え方、整理・整頓や清掃の仕方について考え、工夫すること
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	地域の豊かな食文化を大切に、健康で安全な食事を継続することが自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分の食生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたりよりよい生活を工夫し、創造することができる。	衣服を選択し手入れしながら計画的に着用したり、生活を豊かにするものを製作したりすることが、自分の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分の衣生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・快適でよりよい生活を工夫し、創造することができる。	自分や家族が快適・安全に過ごせるよう日頃から住まいを整えておくことが、自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分や家族の住生活上の課題を見だし、自立に向けて快適・安全でよりよい生活を工夫し、創造することができる。
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	- 中学生の栄養の特徴と健康によい食習慣 - 栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質 - 中学生の1日分の献立作成の方法 - 食品の選択や保存、調理（焼く、煮る、蒸す、生肉・生魚の扱い）の仕方と調理計画、地域の食文化と和食の調理	- 健康によい食習慣について考え、工夫すること - 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること - 日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること	- 衣服と社会生活との関わり、衣服のライフサイクルを意識した選択・活用 - 材料や状態に応じた日常着の手入れ - 布や縫い方の特性を生かした、目的に応じた政策計画	- 衣服を目的に合わせて選択し、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること - 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、工夫すること	- 家族の生活に合わせた住まいの整え方 - 災害に備えた住まいの整え方	家族の生活に合わせた住まいの整え方、災害に備えた住まいの整え方について考え、工夫すること

資質・能力の全体構造（素案）

A 家族・家庭と生涯発達（仮称）		B 生活の経営と消費生活（仮称）	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
自立した生活を営む当事者として、様々な人々と共に協力し合うことが、生涯にわたって家庭や地域の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の課題を見だし、よりよい生活を創造することができる。	生活資源を効果的に管理・活用することが、生涯にわたって自分や家族の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	生活資源を効果的に管理・活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の課題を見だし、適切に意思決定することで、よりよい生活を創造することができる。
内容項目例		内容項目例	
高等学校 家庭基礎	- 自己と他者、社会との関わりと発達 - 生涯発達とライフステージの課題 - 家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 - 乳児の心身の発達と生活、乳児との適切な関わり、子育て支援と福祉	- 家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく行動について考え、工夫すること - 子供を生み育てることの意義、親や家族、地域、社会の役割、子供との適切な関わり方について考え、工夫すること - 高齢者の心身の状況に応じた適切な支援方法や関わり方 - 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合い生活する方法について考え、工夫すること	- 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理（社会制度を含む） - 生涯を見通した生活課題への対応とリスク管理を踏まえた意思決定 - 家計の構造、生活における経済と社会との関わり、家計管理 - 消費行動における意思決定、自立した消費者としての権利と責任 - 生活と環境との関わり、持続可能な社会へ参画することの意義
	- 生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考え、生活設計を工夫すること - 生涯を見通した生活における家計の管理や計画、倫理的かつ責任ある消費の仕方について考え、工夫すること		

資質・能力の全体構造（素案）

		C 食生活（仮称）		D 衣生活（仮称）		E 住生活（仮称）	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	家庭基礎	科学的な根拠を基に、地域の豊かな食文化を大切に、ライフステージに応じた健康で安全な食事を実践（計画・管理）することが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分や家族の食生活上の課題を見だし、生涯にわたって健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい生活を創造することができる。	科学的な根拠を基に、衣文化を大切に、ライフステージに応じて衣服を適切に選択・着用・管理することが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分や家族の衣生活上の課題を見だし、生涯にわたって安全・健康・快適で衣文化を大切にしたいよりよい生活を創造することができる。	科学的な根拠を基に、住文化を大切に、ライフステージに応じて住まいを整備・管理することが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分や家族の住生活上の課題を見だし、生涯にわたって健康・快適・安全で住文化を大切にしたいよりよい生活を創造することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- ライフステージの食生活の特徴や課題、食事計画 - 食品の特性を生かした調理 - 食生活を取り巻く課題、持続可能な食生活、食文化の成り立ちと意義	健康及び環境に配慮した自己と家族の食生活の在り方について考え、工夫すること	- ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装 - 衣文化、持続可能な衣生活	ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、持続可能な衣生活について考え、工夫すること	- ライフステージごとの住生活の特徴や課題（家庭内の事故） - 住文化の成り立ちと意義、現代の住生活の特徴や課題、持続可能な住生活 - 住まいの選択、住まいの役割	快適で安全、持続可能な住まいや住環境の在り方について考え、工夫すること

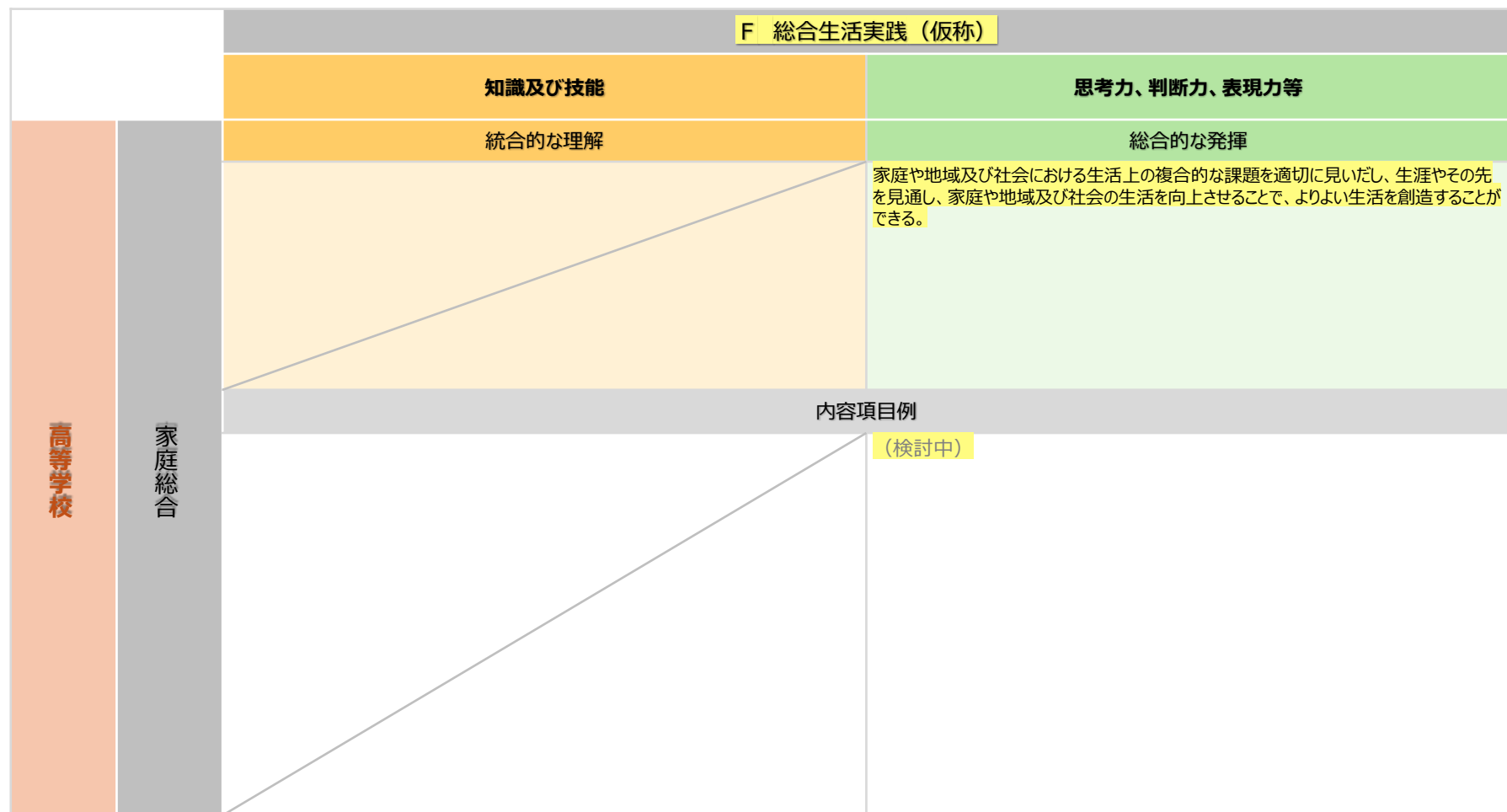
資質・能力の全体構造（素案）

A 家族・家庭と生涯発達（仮称）		B 生活の経営と消費生活（仮称）	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
家庭や地域の生活を 支え 、向上させる当事者として、様々な人々と共に協力し合うことが、 生涯にわたって 家庭や地域の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の複合的な課題を 適切に見いだし 、よりよい生活を創造することができる。	生活資源を効果的に管理・活用 することが、 生涯にわたって 自分や家庭及び地域の生活をよりよくすることにつながることを理解する。	生活資源を効果的に管理・活用 しながら、家庭や地域及び社会の生活上の複合的な課題を見いだし、 適切に意思決定 することで、よりよい生活を創造することができる。
内容項目例		内容項目例	
- 自己と他者、社会との関わりと発達 - 生涯発達とライフステージの課題 - 家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 - 乳児の心身の発達と生活、乳児との適切な関わり、子育て支援と福祉 - 高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立、生活支援に関する基本的な技能 - 家庭や地域と関わり、共に支え合って生きることの意義	- 家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく責任のある行動について考え、工夫すること - 子供を生み育てることの意義、親や家族、地域、社会の役割、子供との適切な関わり方について考え、工夫すること - 高齢者の心身の状況に応じた適切な支の方法や関わり方 - 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活する方法について考え、工夫すること	- 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理（社会制度を含む） - 生涯を見通した生活課題への対応とリスク管理を踏まえた意思決定 - 家計の構造、生活における経済と社会との関わり、家計管理 - 消費行動における意思決定、自立した消費者としての権利と責任ある消費、生活情報の収集・整理 - 生活と環境との関わり、持続可能な社会へ参画することの意義 - 生涯を見通した生活におけるリスク管理の考え方、情報の収集・整理 社会保障制度とセーフティーネット	- 生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考え、生活設計を工夫すること - 生涯を見通し、ライフステージごとの課題や社会保障制度を踏まえた生活設計について考え、工夫すること

資質・能力の全体構造（素案）

C 食生活（仮称）		D 衣生活（仮称）		E 住生活（仮称）	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
科学的な根拠を踏まえた深い理解の基に、地域の豊かな食文化の大切にし、ライフステージに応じた健康で安全な食事を実践（計画・管理）することが、食生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分や家族の食生活上の複合的な課題を適切に見だし、生涯やその先を見通し、健康・安全で食文化を大切にしたりよい生活を創造することができる。	科学的な根拠を踏まえた深い理解の基に、衣文化の大切を大切にし、ライフステージに応じて衣服を適切に選択・着用・管理することが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分や家族の衣生活上の複合的な課題を適切に見だし、生涯やその先を見通し、安全・健康・快適で衣文化を大切にしたりよい生活を創造することができる。	科学的な根拠を踏まえた深い理解の基に、住文化の大切を大切にし、ライフステージに応じて住まいを整備・管理することが、生活をよりよくすることにつながることを理解する。	自分や家族及び地域の人々の住生活上の複合的な課題を適切に見だし、生涯やその先を見通し、健康・快適・安全で住文化を大切にしたりよい生活を創造することができる。
内容項目例		内容項目例		内容項目例	
- 食生活を取り巻く課題 - ライフステージの食生活の特徴や課題、食事計画 - 食品の特性を生かした調理 - 食生活を取り巻く課題、持続可能な食生活、食文化の成り立ちと意義 - 調理や加工によるおいしさの変化 - 加熱方法による比較（電子レンジ加熱等）		- ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装 - 衣文化、持続可能な衣生活 - 人の体の形や動きを考慮した被服の制作計画		- ライフステージごとの住生活の特徴や課題 - 住文化の成り立ちと意義、現代の住生活の特徴や課題、持続可能な住生活 - 住まいの選択、住まいの役割 - 住まい・まちの計画に必要な情報の収集・整理	
- 健康及び環境に配慮した自己と家族の食生活の在り方について考え、工夫すること - ライフステージに応じた献立の調理において、おいしさや調理のしやすさなどを考え、工夫すること		- ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、持続可能な衣生活について考え、工夫すること - 生活を豊かにする衣服の製作計画を考え、工夫すること		- 快適で安全、持続可能な住まいや住環境の在り方について考え、工夫すること - 住まいの計画について考え、工夫すること	

資質・能力の全体構造（素案）



「家庭基礎」「家庭総合」の内容面の整理の在り方のイメージ（案）

令和8年4月17日
家庭WG（第6回）
【資料1】P57（新規追加）

各科目の趣旨等を明確化しつつ、「基本的な方向性（案）」として、以下の網掛け部分（ピンク色）のとおり整理してはどうか。

現行

現・家庭基礎

実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する

- ・基礎的な理解
- ・実践的・体験的な活動
- ・技能を身に付ける
- ・問題解決的な学び

【課題】

- ・内容が多岐にわたるため、問題解決的な学びが限定的

現・家庭総合

実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する

- ・科学的な理解
- ・実践的・体験的な活動
- ・技能を体験的・総合的に身に付ける
- ・問題解決的な学び
- ・生活文化の継承

【課題】

- ・「家庭基礎」との差異が分かりにくい

改善案

新・家庭基礎

（第4回）自立した生活を営む主体として、社会に参画し、他者と協働しながら、よりよい生活を創り出すために必要な力を育成する

- （今 回）
- ・自らの生活を営み、家庭や地域の生活を支える力を育成する科目
 - ・科学的根拠に基づく知識を基礎的に理解し、実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活に向けて、生活上の課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力を育成する

- 小・中学校からの学びの系統性を重視しつつ、科学的な根拠に基づく知識の基礎的な理解と、実験・実習等の実践的・体験的な活動を通して、質の高い学びへと繋げていく（実践的・体験的な活動を通じた学習の着実な実施）
- 自立した生活を営み、家庭や地域の生活を支えるために、社会に参画し、他者と協働しながら、主体的によりよい生活に向けて、課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力の育成に必要な内容を扱う（イメージ）
 - ・食生活の内容は、小・中学校の食生活に関する知識及び技能を総合的に活用し、例えば、科学的な根拠に裏付けられた食品の特性の理解を基に、ライフステージに応じた献立を整える力を育成する
 - ・生涯の生活設計や家計管理等の内容を充実させ、自立する力の育成に繋げる

新・家庭総合

（第4回）自立した生活を営む主体として必要な力に加え、率先して家庭や地域の生活を支え、向上させる主体として、社会に参画し、多様な他者と協働しながら、よりよい生活を探究的に創り出すために必要な力を育成する

- （今 回）
- ・家庭基礎で培う力に加え、多面的に生活を捉え、家庭や地域の生活を向上させる力を育成する科目
 - ・科学的根拠に基づく知識を総合的に理解し、領域を貫く現代的な諸課題について問題解決的な学習を通して、よりよい生活に向けて、生活上の複合的な課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力を育成する

- 科学的な根拠に基づく知識の総合的な理解と、領域を貫く現代的な諸課題について、実践的・体験的な活動を通じた、問題解決的な学習を往還させることで、より質が高い深い学びへと繋げていく（実践的・体験的な活動を通じた問題解決的な学習をより充実）
- 広い視野で生活を捉え、地域や社会の関わりの中で、社会に参画し、他者と協働しながら、主体的によりよい生活に向けて、複合的な課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力の育成に必要な内容を扱う
- 柔軟な教育課程の編成を促進するための課題の改善（隔年での実施や第1学年から第3学年まで連続して履修する形を認める見直し）

（イメージ）

- ・食生活においては、「家庭基礎」で学ぶ科学的な理解に加えて、例えば、調理実験を通して調理や加工によるおいしさの変化等について理解するとともに、食品に含まれる成分とその調理上の性質に関する深い理解につなげる
- ・家族・家庭と生涯発達においては、「家庭基礎」で学ぶ内容に加えて、例えば、地域の福祉に関する現状の把握と情報の収集など、地域の社会課題に対して、他者と協働しながら課題解決に向けて考える実践活動を充実させ、社会参画する力の育成に繋げる

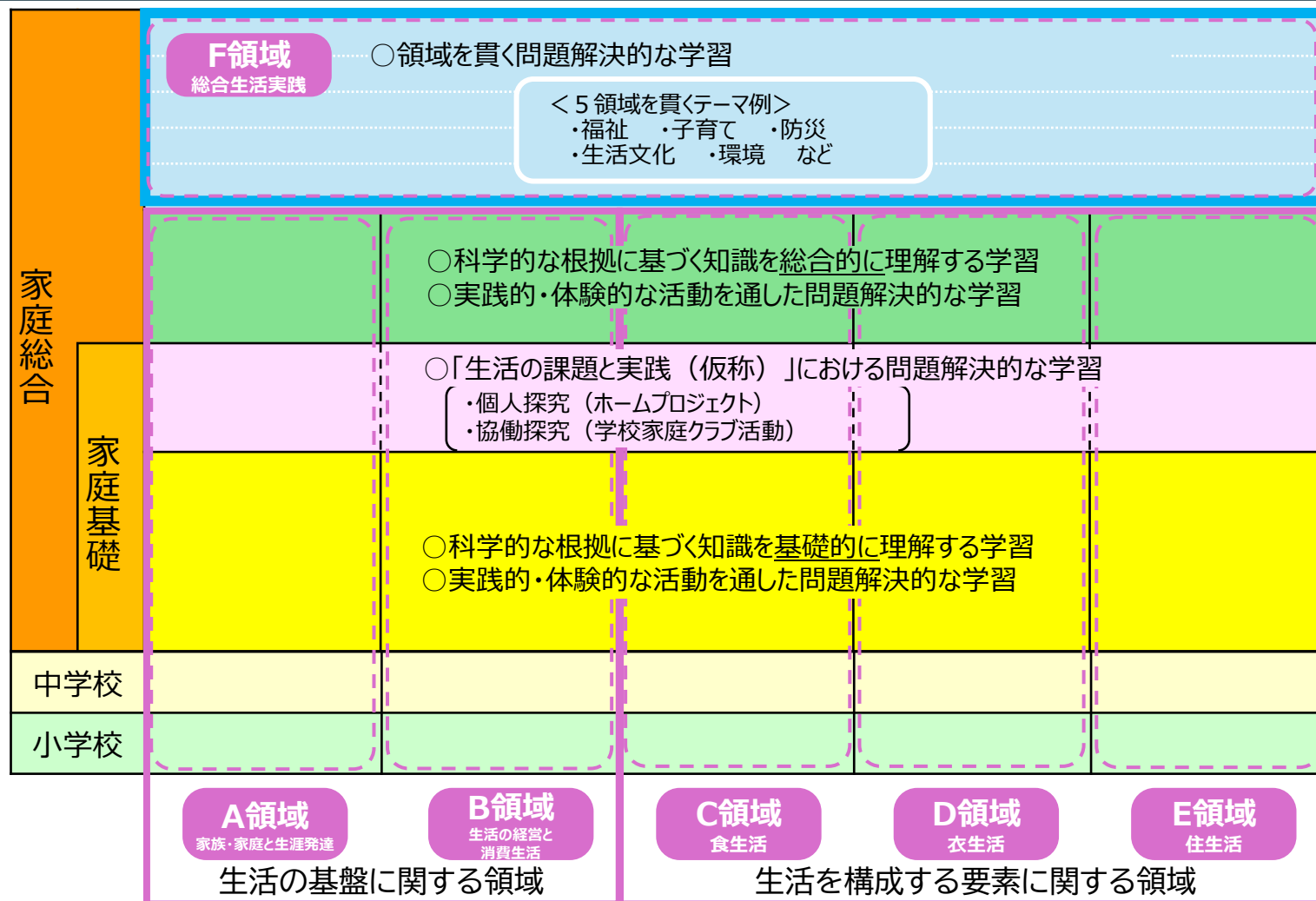
「家庭基礎」「家庭総合」の内容面の整理を踏まえた学習イメージ図（案）

○「家庭基礎」及び「家庭総合」の学習イメージは下図のとおり。

<参考>・「生活の課題と実践（仮称）」における問題解決的な学習

：一つの領域を主として生徒が課題を設定し、他領域と関連させながら、課題解決に取り組むイメージ。

・領域を横断した、実践的・体験的な活動を通した問題解決的な学習：学校の状況等に応じて、例えば、「福祉」などの領域を貫くテーマを教師が意図的に設定し、生徒が多角的な視点から課題解決に取り組むイメージを想定。



※上記の図はイメージであり、学習の分量・時数を示すものではない

※領域の名称はいずれも仮称

小・中・高等学校を通じた系統性・体系性の整理のイメージ (案)

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
A 家族・家庭と生涯 (仮称)	(1)自分の成長と家族・家庭	(1)自分の成長と家族・家庭・地域	(1)生涯発達と社会との関わり	(1)生涯発達と社会との関わり
		(2)幼児の生活と保育	(2)子供の生活と保育・子育て	(2)子供の生活と保育・子育て
	(2)家族や地域の人々との関わり	(3)家族や地域の人々との協働	(3)高齢者の生活と福祉	(3)高齢者の生活と福祉
			(4)共生社会の一員としての自分	(4)共生社会の一員としての自分
	(3)生活の課題と実践	(4)生活の課題と実践	(5)生活の課題と実践【個人・協働】	(5)地域福祉への参画
B 生活の経営と消費生活 (仮称)	(1)家庭生活と仕事	(1)家庭生活と生活資源マネジメント	(1)生涯の生活設計	(1)生涯の生活設計
	(2)家庭と消費生活・環境	(2)家庭・地域の消費生活・環境	(2)持続可能な消費生活・環境	(2)持続可能な消費生活・環境
				(3)生活リスク管理と社会保障
		(3)生活の課題と実践	(3)生活の課題と実践【個人・協働】	(4)生活の課題と実践【個人・協働】
C 食生活 (仮称)	(1)食事の役割	(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴	(1)ライフステージに応じた食生活	(1)ライフステージに応じた食生活
	(3)栄養を考えた食事	(2)中学生に必要な栄養を満たす食事		(2)調理実験
	(2)調理の基礎	(3)日常食の調理と地域の食文化		
		(4)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践【個人・協働】	(3)生活の課題と実践【個人・協働】
D 衣生活 (仮称)	(1)衣服の着用と手入れ	(1)衣服の選択と手入れ	(1)ライフステージに応じた衣生活	(1)ライフステージに応じた衣生活
	(2)生活に役立つ布を用いた製作	(2)生活を豊かにする布を用いた製作		(2)被服製作
		(3)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践【個人・協働】	(3)生活の課題と実践【個人・協働】
E 住生活 (仮称)	(1)室内の整え方	(1)住まいの整え方	(1)ライフステージに応じた住生活	(1)ライフステージに応じた住生活
				(2)住まいの計画
F 生活実践 (仮称)		(2)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践【個人・協働】	(3)生活の課題と実践【個人・協働】
				(1)総合生活実践

・赤字：現行学習指導要領から変更・追加する項目（名称はいずれも仮称）

・【個人・協働】…個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）

**生活、総合的な学習・探究の時間WGにおける
議論の補足イメージ及び
教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	活動や体験の過程において、自分自身や身近な人々、社会及び自然の特徴やよさに気付くとともに、他者との関わりを通してそれらの気付きを深め、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、気付きや実感を基に自分自身や自分の生活について考えを巡らせ、多様に表現することができるようにする。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、他者と協働し、状況に応じて関わり方を調整するとともに、意欲や自信をもって、学びや生活を豊かにしようとする態度を養う。

見方・考え方

- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりや他者との関係の中で捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	学校、家庭及び地域の生活に関する内容	身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	自分自身の生活や成長に関する内容
	高次の資質・能力	高次の資質・能力	高次の資質・能力
	学校、家庭及び地域との関わりの中で、自分の生活が支えられていることへの気付きを深め、それらに親しみや愛着をもって行動できる。	身近な人々、社会及び自然との触れ合いの中で、自分のよりよい生活につながることに気付きを深め、生活を楽しくしようとすることができる。	これまでの生活や学びを通じた自分の成長の振り返りの中で、他者への感謝や自分のよさ、可能性への気付きを深め、意欲的に生活できる。
	内容項目例	内容項目例	内容項目例
	(1) 学校と生活 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全に登下校をしたりしようとする。 (2) 家庭と生活 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。 (3) 地域と生活 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。	(4) 公共物や公共施設の利用 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを促えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。 (5) 季節の変化と生活 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに関心とともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。 (6) 自然や物を使った遊び 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。 (7) 動植物の飼育・栽培 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。 (8) 生活や出来事の伝え合い 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。	(9) 自分の成長 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	探究の過程において、課題の発見・解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究のよさを理解できるようにする。	実社会・実生活と自己との関わりから問いを見だし、必要な知識及び技能、様々な方略を活用しながら、探究の過程を通じて課題を解決し、自分なりの新たな意味や理解の深まりを表現できるようにする。	・体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、自己にとっての意味の視点で捉え、探究の過程で課題として洗練しようとする ・他者との対話や協働によって、よりよく課題を解決しようとする ・探究の進め方を工夫したり、探究の過程を振り返ったりして、自らの学びを調整しようとする ・自己の生き方についての考えを深め、探究を通じて豊かな人生や持続可能な社会を実現しようとする
中学校	探究の過程において、課題の発見・解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義を理解できるようにする。	実社会・実生活と自己との関わりから問いを見だし、必要な知識及び技能、様々な方略を効果的に活用しながら、課題に応じた探究の過程を通じて課題を解決し、自分なりの新たな意味や理解の深まりを表現できるようにする。	・体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、自己や他者にとっての意味の視点で捉え、探究の過程で課題として洗練しようとする ・多様な他者との対話や協働によって、よりよく課題を解決しようとする ・探究の進め方を工夫したり、探究の過程を振り返ったりして、自覚的に学びを調整しようとする ・自己の生き方についての考えを深め、探究を通じて豊かな人生や持続可能な社会の実現に向けて行動しようとする
高等学校	探究の過程において、課題の発見・解決に必要な知識及び技能を身に付け、統合的に課題に関わる概念を形成し、探究の意義を理解できるようにする。	実社会・実生活と自己との関わりから問いを見だし、必要な知識及び技能、様々な方略を総合的に活用しながら、課題に応じた探究の過程を通じて課題を解決し、自己や他者にとっての新たな意味や理解の深まりを表現できるようにする。	・体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、自己や他者、社会及び将来にとっての意味の視点で捉え、探究の過程で課題として洗練しようとする ・多様な他者との対話や協働によって、よりよく課題を解決しようとする ・探究の進め方を工夫したり、探究の過程を振り返ったりして、自律的に学びを調整しようとする ・自己の在り方生き方についての考えを深め、探究を通じて豊かな人生や持続可能な社会を創造しようとする

見方・考え方

- ・ 実社会・実生活との関わりの中で見いだす興味・関心や問題意識に基づく課題を、横断的・総合的な視点から捉え、新たな価値を創造し、自分らしい生き方を問い続けること

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	情報の領域（仮称）	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	統合的な発揮
	情報技術の正負の側面を含む特性の理解をもとに、情報技術を適切かつ効果的に活用することで、デジタル社会における様々な課題を解決できることを理解する。	情報技術の正負の側面を踏まえ、情報技術を情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などに適切かつ効果的に活用して、デジタル社会における身近な課題を解決できる。
	内容項目例	内容項目例
	①情報技術の活用 ②情報技術の適切な取扱い ③情報技術の特性の理解	①情報技術の活用 ②情報技術の適切な取扱い ③情報技術の特性の理解

P.3の「1. 現状と課題、期待される学び」を踏まえ、生活科の本質的意義を明確にし、それが学校教育において発揮する教育的価値、位置付けを明らかにするとともに、深い学びを実装するための視点として「4つの本質的意義」を体系的に整理する。

2. 生活科がもつ4つの〈本質的意義〉

人間的な学びを実現するために、以下の4つの観点を本質的意義として位置付けてはどうか。

① 身体性 — 身体で世界を捉える（実感）

- 対象との関わり方として、触る、動かす、試すなど諸感覚を通して対象を捉えるとともに、単に「分かった気がする」でなく納得感を伴って「分かった」「できた」という手応え（実感）を得られるようになる。AIが提供する情報だけでは得られない、「身体で世界を捉える」体験や活動が、自分の外に広がる世界と確かな接点をもつ出発点となる。

② 対象と自分との関わり — 身近な世界に働きかけ、気付く（好奇心・探究心）

- 自分が触る、動かす、試すといった働きかけによって、身近なものごとの様子や変化に心を向けることを通して、身近なものごとが変化することを実感する中で、「自分が動く対象となる世界が変わる」という手応えを得る。その経験が、「なぜ？」「どうして？」という好奇心や探究心を生み出し、自分との関わりで対象を捉える。
- 児童が自ら世界に働きかけることで、身近な人々、社会及び自然のよさや特徴などに気付くとともに、それらを身近に感じ、大切に思いながら関わっていけるようになる。

③ 他者と自分との関わり — 他者の思いや願いを尊重し、共に生活する（協働性・共感）

- 他者との関わりを通して、自分一人ではできないことも、互いに力を出し合うことでできるようになる経験を重ねる中で、相手の思いに気付き、受けとめ、尊重する態度が育まれる。他者との関わりから生まれる協働・共感の経験は、社会で共に生活するために重要であり、こうした経験を重ねることで、児童の学びは身近な人から地域・社会へと関係が広がっていくことになる。

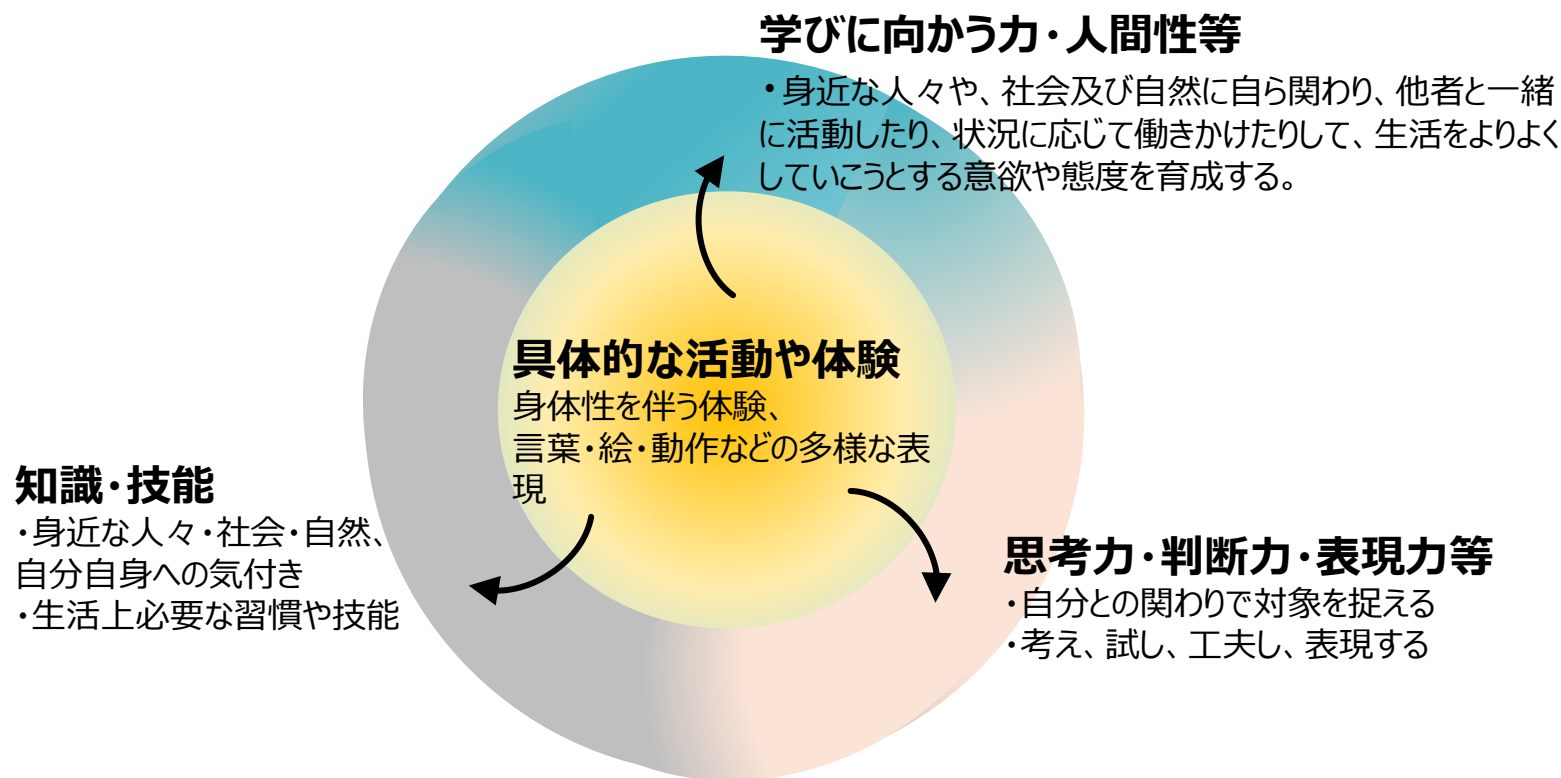
④ 自己認識 — 自分という存在に気付く（主体性・自立性）

- 生活科の学びで、「自分はどう感じるか」「何が好きか」「何をしたいか」に気付き、その気付きが、自分で考え行動する主体性や自立性を育む。「自分はこう感じる」「自分はこう考える」からこそ、自分自身のよさや可能性、成長に気付けるようになる。

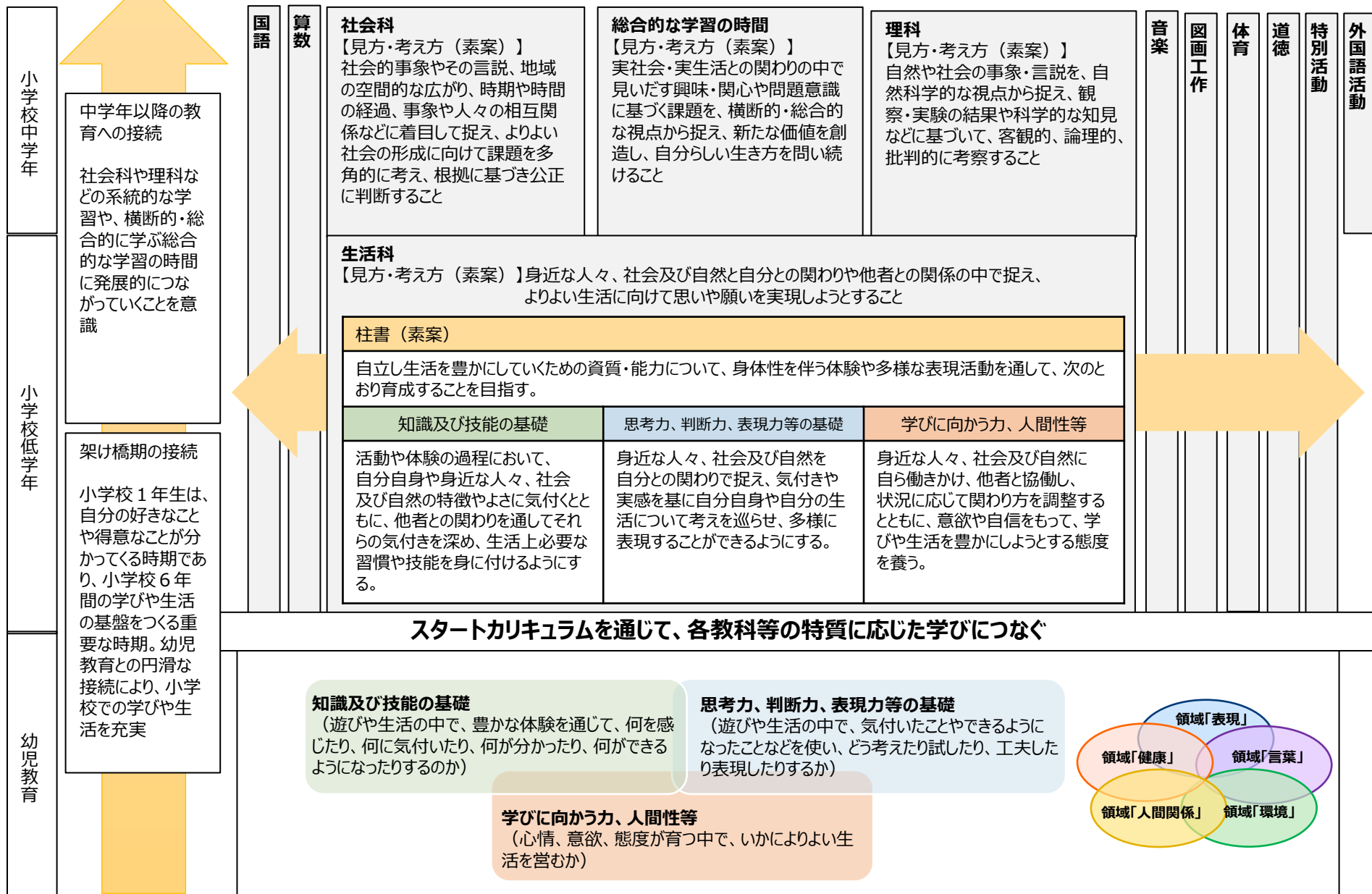
生活科における資質・能力の構成について (イメージ)

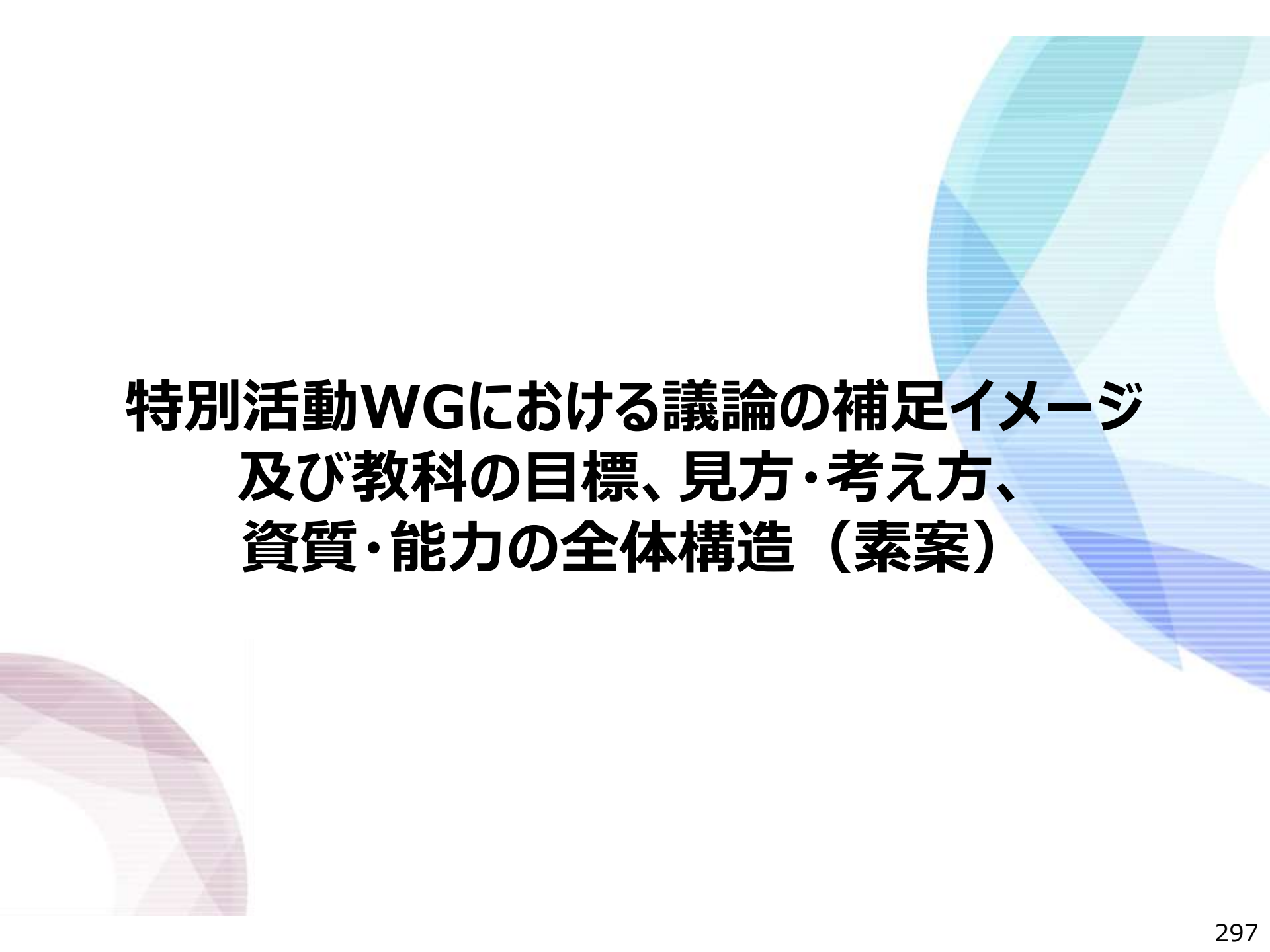
- 生活科における資質・能力については、現行学習指導要領の目標に掲げているとおり、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の三つの柱として整理して捉えることができる。
- その上で、生活科における資質・能力の**構成や育成の在り方**については、三つの柱を個別・独立に育成しようとするよりも、**具体的な活動や体験を通して、相互に関わり合いながら同時的・一体的に立ち上がり、生活科の学びの中で育成されていくことが期待されるものであり、自立し生活を豊かにしていくことにつながるものとして整理することが適当ではないか。**
- このため、生活科における内容の示し方については、**並列パターンをイメージしつつ、学習活動と一体となって育成される資質・能力を包括的に示す生活科オリジナルな形式**とすることが妥当ではないか。

到達像：自立し生活を豊かにしていく



幼児教育及び小学校中学年以降との接続のイメージ





特別活動WGにおける議論の補足イメージ 及び教科の目標、見方・考え方、 資質・能力の全体構造（素案）

目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	- 自己の生活や身近な社会、人間関係をよりよくすることの意義について理解する。 - 多様な他者とよりよく合意形成や意思決定を行ったり協働的に実践したりするための行動の仕方を身に付ける。	- 自己の生活や身近な社会、人間関係についての課題を見だし、根拠を持って自己の意見や立場を形成し、表現することができるようにする。 - 多様な個性や特性、背景を有する他者の考えや価値観を尊重し、対立や葛藤を乗り越えながら合意形成や意思決定を行い、実践を通して価値の創造を行うことや、振り返りを通して新たな課題を見いだすことができるようにする。	- 自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、興味・関心に応じて役割や責任を担おうとする。 - 多様な他者との対立や葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる。 - 省察により思考や感情、行動を調整する。 - 自己の生き方についての考えを深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする。
中学校			- 自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、社会との関係において役割や責任を担おうとする。 - 多様な他者との対立や葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる。 - 省察により思考や感情、行動を調整する。 - 人間としての生き方についての考えを深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする。
高等学校			- 自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、社会における役割や責任を担おうとする。 - 多様な他者との対立や複雑な葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる。 - 省察により思考や感情、行動を調整する。 - 人間としての在り方生き方についての自覚を深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする。

見方・考え方

- 自己の生活や身近な社会における課題を社会創造、自己実現及びそれらの基盤としての人間関係形成の視点から捉え、社会を形成する当事者として多様な他者と協働し、自他のよりよい人生や社会生活につなげること。

資質・能力の全体構造（素案）

学級活動/ホームルーム活動 （１）学級や学校における生活づくりへの参画

高次の資質・能力

学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見だし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容項目例

- ア 学級における生活づくりへの参画
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

高次の資質・能力

学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見だし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容項目例

- ア 学級における生活づくりへの参画
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

高次の資質・能力

ホームルームや学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見だし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容項目例

- ア ホームルームにおける生活づくりへの参画
- イ ホームルーム内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

資質・能力の全体構造（素案）

学級活動/ホームルーム活動 （２）日常生活における自己の成長と健康安全、（３）将来に向けた自己の成長とキャリア形成

高次の資質・能力

学級での話し合いを生かして現在と将来の自己実現に向けて意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする
- 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容項目例

（２）

- ア 基本的な生活習慣の形成
- イ 相互理解と尊重、よりよい人間関係
- ウ 生命の尊重、心身の健康と安全
- エ 学校給食と食育

（３）

- ア 希望や目標をもって生きる態度
- イ 学ぶことの意義と主体的な学習の調整
- ウ 働くことの意義と社会参画意識

高次の資質・能力

学級での話し合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 社会との関わりでの自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする
- 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容項目例

（２）

- ア 相互理解と尊重、よりよい人間関係
- イ 生命尊重と思春期の悩み
- ウ 心身の健康と安全
- エ 学校給食と食育

（３）

- ア 社会的・職業的自立と主体的な学習の調整
- イ 勤労観・職業観と社会参画意識
- ウ 進路の選択と将来設計

高次の資質・能力

ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 社会の形成者としての自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の在り方生き方につなげようとする
- 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容項目例

（２）

- ア 相互理解と尊重、よりよい人間関係
- イ 生命尊重と思春期の悩み
- ウ 心身の健康と安全

（３）

- ア 社会的・職業的自立と主体的な学習の調整
- イ 勤労観・職業観と社会参画意識
- ウ 進路の選択と将来設計

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	児童会/生徒会活動
	高次の資質・能力
	異年齢の児童で協力し、学校生活の充実と向上を図るため、計画を立て役割を分担し、協力して取り組むことを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
中学校	(1) 児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営 (2) 異年齢集団による交流 (3) 学校行事への協力
	高次の資質・能力
	異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
高等学校	(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2) 学校行事への協力 (3) ボランティア活動などの社会参画
	高次の資質・能力
	異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題や地域社会の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2) 学校行事への協力 (3) ボランティア活動などの社会参画

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	学校行事
	高次の資質・能力
	全校又は学年の児童で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
中学校	内容項目例
	(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事
	高次の資質・能力
高等学校	高次の資質・能力
	全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 旅行・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事
高等学校	高次の資質・能力
	全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 旅行・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	クラブ活動	
	高次の資質・能力	
	異年齢の児童で協力し、共通の興味・関心を追求する活動を計画し、主体的に運営することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 共通の興味・関心をよりよく追求するため、主体的に役割を見だし担おうとするとともに、自他の個性の伸長を図ろうとする ○ 共通の興味・関心を追求する上での対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら協働して活動しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する	
	内容項目例	
	(1) クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営 (2) クラブを楽しむ活動 (3) クラブの成果の発表	

**道徳WGにおける議論の補足イメージ
及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

目標、見方・考え方（素案）

目標

	特別の教科 道徳
小学校	第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
中学校	第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

**情報・技術WGにおける議論の補足イメージ
及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
中学校	- 情報技術や生産技術の特性及び適切な取扱いについて理解する。 - 情報技術や生産技術でものを創り出す方法を理解し、必要な技能を身に付ける。 - 情報技術や生産技術の発達と生活や社会、環境との関係についての理解を深める。	- 生活や社会の問題を技術の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、情報技術や生産技術を活用して、課題を設定する力を養う。 - 検証等を通じて探究的に解決策を構想・具体化する力を養う。 - 仕組みや価値を創造して課題を解決するとともに、そうした実践を評価・改善する力を養う。	- 生活や社会の技術に関心や好奇心を持ち、多様な他者と協働しながら試行錯誤を繰り返し、より良い問題解決に向かおうと探究する態度を養う。 - 包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術や生産技術を進んで活用、創造しようとする意思や感性を育む。

見方・考え方

- 生活や社会の問題を、技術的視点で正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報や技術を適切に活用したり、新たな価値を創造したりすること

資質・能力の全体構造（素案）

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
中学校	情報技術（仮称）	(1) プログラミングと自動化	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術により情報処理の手順を自動化することが、人の判断や活動を支え、生活や社会の利便性を高めることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、自動化する情報処理の手順を設計し、人の判断や活動を支える仕組みを設計・表現し、評価・改善できる。
			内容項目例	内容項目例
			- コンピュータ、ネットワーク、AIが自動化に果たす役割、アルゴリズムとプログラム - 情報やプログラムを批判的に考察する考え方 - 効率的かつ注意深く情報を収集する方法 - アジャイルでのプログラミングによる問題解決の方法と技能 - コンピュータやネットワーク、AIと生活や社会、環境との関係の理解	- 情報処理の手順を自動化する技術の仕組みと取扱いを考え表現すること - 情報処理の手順を自動化する技術の仕組みと取扱いを踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、処理の手順を自動化することで解決するものを設計して構築する - 情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える
	情報技術（仮称）	(2) 情報の表現とデジタル化	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術により情報やデータから新たな関係や意味を見いだしたり、利用者の立場で情報を批判的に吟味・設計したりすることが、分析結果や考えの分かりやすい表現につながることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報やデータの分析結果を判断し表現したり、利用者にとって分かりやすい情報を批判的に吟味・設計・表現し、評価・改善したりできる。
			内容項目例	内容項目例
			- ユーザ視点の情報デザイン - データの管理と活用、統計的な分析の方法 - 情報のデジタル化とAIの基本的な仕組み - エコーチェンバー・フィルターバブルといったメディア特性が受信・発信に与える影響 - 偽情報・誤情報の判別や必要な情報の精査、著作権、肖像権などの権利 - 情報を加工する際の倫理的配慮、情報セキュリティ - コンテンツによる問題解決の方法と技能 - データやメディアを扱う技術と生活や社会、環境との関係の理解	- 情報を表現・生成する技術の仕組みや特性を踏まえた適切な取扱いを批判的に考え表現する - 情報を表現・生成する技術の仕組みや特性を踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、情報を加工することで解決する表現の手段を設計して表す - 情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える
	情報技術（仮称）	(3) 情報基盤とシステム化	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術や多様な技術の組合せにより情報システムが構築されることを捉え、それらを活用しつつ、情報の信頼性や社会に与える影響に配慮して評価・改善することが、包摂的で豊かな生活や社会につながることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、それを基盤とする多様な技術を組み合わせ、倫理・法・社会の観点にも考慮して問題を解決するための情報システムを設計・表現し、評価・改善できる。
			内容項目例	内容項目例
			- 複数の情報技術を組み合わせた表現技能 - 健康への影響など心身を含むリスク評価と適切な対処の理解 - 基本的な法・制度とその責任 - 情報システムの考え方とAIが果たす役割 - プログラミングなどによる情報技術のシステム化 - 情報技術によるシステム化と生活や社会、環境との関係の理解	- 情報技術によるシステム化の仕組みと取扱いを考え表現する - 情報技術によるシステム化の仕組みや特性を踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、情報技術によって技術同士をつなぐことによって解決するものを構想してモデルを制作する - 情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える

資質・能力の全体構造（素案）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
中学校	情報を基盤とした生産技術（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
		(1) 材料の加工や構造の工夫によるものづくりと、情報技術を活用した設計・製作や評価・改善の高度化が、安全で利便性の高い生活や社会につながることを理解する。	安全性等に配慮しつつ、情報技術を活用して材料を選択し、意図した形や構造を設計・加工することで、生活や社会に役立つものを製作し表現できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 情報を基盤とした材料と加工の技術の役割と特性の理解 - 人間工学に基づいた機能、構造、形状の設計とCADの操作 - 製作の技能 - 情報を基盤とした材料と加工の技術と生活や社会、環境との関係の理解	- 情報を基盤とした材料と加工の技術の仕組みと取扱いを考え表現する - 技術の正負の影響を踏まえて、問題を見い出して課題を設定し、解決策となる材料や形状、構造等をデジタル加工機の利用も考慮して設計し、製作する - 情報を基盤とした生産技術を吟味し、その活用や創造を考える
		統合的な理解	総合的な発揮
		(2) 生物の育成環境の調整による食料供給や環境保全と、情報技術を活用した調整・管理の精緻化が、安定的な生活や社会につながることを理解する。	環境負荷等に配慮しつつ、情報技術を活用して育成環境の調整方法を計画し、収量と品質を高めるための方策を判断し実践できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 情報を基盤とした生物育成の技術の役割と特性の理解 - データを利用した環境調整と育成計画 - 状況に応じた管理作業 - 情報を基盤とした生物育成の技術と生活や社会、環境との関係の理解	- 情報を基盤とした生物育成の技術の仕組みと取扱いを考え表現する - 技術の正負の影響を踏まえて、問題を見い出して課題を設定し、データ等を参考に生物の育成環境を人為的に調整する方法を計画し、作業を実行する - 情報を基盤とした生産技術を吟味し、その活用や創造を考える
		統合的な理解	総合的な発揮
		(3) エネルギーの変換・利用による活動の支援と、情報技術を活用した効率化が、電力や交通等の生活や社会を支える基盤の利便性につながることを理解する。	経済性等に配慮しつつ、情報技術を活用してエネルギーを変換する仕組みを設計し、安全で安定した動作を製作し表現できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 情報を基盤としたエネルギー変換の技術の役割や特性の理解 - シミュレーションを用いた回路や機構の設計とCADの操作 - 組み立て、実装、保守・点検の技能 - 情報を基盤としたエネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関係の理解	- 情報を基盤としたエネルギー変換の技術の仕組みと取扱いを考え表現する - 技術の正負の影響を踏まえて、問題を見い出して課題を設定し、シミュレーションを利用してエネルギー変換する仕組みを設計し、製作する - 情報を基盤とした生産技術を吟味し、その活用や創造を考える
		統合的な理解	総合的な発揮
		(4) 情報技術を基盤とする多様な技術の関係や働きを捉え、それらを統合することが、生活や社会の発展につながることを理解する。	安全性や環境負荷、経済性等に配慮しつつ、情報技術を基盤とする多様な技術を統合して、問題を解決するための仕組みを探究的に設計し表現できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 問題と課題の定義 - 技術の統合 - 技術の役割と影響 - アイデアの創出と検証 - 成果の評価と改善・修正	- 技術の正負の影響を踏まえて、社会から問題を見い出して課題を設定し、情報技術を基盤として技術を統合することで解決するモデルを設計し、具体化する - 技術を吟味し、その活用や創造を考える

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	- 情報技術の仕組みや情報の特性、情報技術を活用して問題を発見・解決したり価値を創造したりする方法などを理解し技能を身に付ける。 - 社会における情報技術の役割や関係する法や制度、倫理的課題への理解を深める。	生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり価値を創造したりする力を養う。	- 生活や社会を情報の観点から進んで捉え、自ら問いや仮説を立て、多様な他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ね、解決策や表現を考えるとともに次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。 - 包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、社会的責任に配慮して情報技術を活用し、問題の発見・解決や価値創造しようとする情意・感性を養う。

見方・考え方

- 事象を、情報とその結び付きの視点で正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、新たな価値を創造したりすること

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	- コンピュータや情報通信ネットワークの仕組み、情報の特性、情報デザイン、データの活用、アルゴリズム、AI、情報セキュリティなどを理解し技能を身に付ける。 - 情報技術と社会とのかかわり、関係する法や制度への理解を深める。	生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、論理的に分析・整理し、根拠に基づいて問題の解決や価値の創造につなげる力を養う。	- 生活や社会を情報の観点から進んで捉え、自ら問いや仮説を立て、多様な他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ね、解決策や表現を考えるとともに次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。 - 包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、社会的責任に配慮して情報技術を活用し、問題の発見・解決や価値創造しようとする情意・感性を養う。

見方・考え方

- 事象を、情報とその結び付きの視点で正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、新たな価値を創造したりすること

資質・能力の全体構造（素案）

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	情報Ⅰ	(1) 情報の仕組みと社会との関わり (仮称)	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術の仕組みや社会との関係を全体的に捉えることが、安全や社会的責任に配慮した情報の吟味・活用を可能にすることを理解する。	生活や社会を支える情報技術の正負の側面に配慮し、安全や社会的責任を考慮して情報を吟味・活用できる。
			内容項目例	内容項目例
	情報Ⅰ	(2) 情報デザインとデザイン思考 (仮称)	- コンピュータ・ネットワークの基本構成 - AI等の先端技術の利点と限界 - 個人情報保護、知的財産権 - 情報セキュリティ、モラル - 情報技術と社会や生活とのかかわり - 情報の信頼性や妥当性 - 偽情報・誤情報といった情報のリスク	- 情報処理や通信の仕組みから利便性とリスクを多面的に考えること - コンピュータや通信技術の発展が社会に与える影響と活用の可能性を考えること - AIの社会の情報の生成や流通への関与による利便性とリスクについて考察すること - 情報技術の活用において他者の権利や社会的責任を考慮し、安全で公正な行動を考えること
			統合的な理解	総合的な発揮
			情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく表現することが、受け手の円滑な理解や行動を促すことを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって適切な理解や行動を促す情報を吟味・設計して表現し、評価・改善できる。
	情報Ⅰ	(3) データ分析とモデル化・シミュレーション (仮称)	内容項目例	内容項目例
			- 情報表現の構造 - 人間中心設計の基礎 - ユーザビリティ、アクセスビリティ - 情報デザインに関するツールや技法 - AIを用いた画像・音声生成の特性、留意点 - デザイン思考の考え方 - プロトタイピングの基本 - フィードバックの収集と評価方法	- 目的やユーザーの課題を整理し、解決策を設計・表現すること - 目的に応じたメディアやツール・方法を検討し、適切な表現を論理的に構成すること - デザイン思考の考え方を基に、試作やフィードバックを通して表現を見直しフィードバックを根拠に改善すること
			統合的な理解	総合的な発揮
	情報Ⅰ	(3) データ分析とモデル化・シミュレーション (仮称)	データを整理・分析して関係を批判的に見いだすことや、事柄の特徴を抽出・単純化して検証することが、未知の傾向や結果の予測につながることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、データから見いだした関係や、単純化して検証した事柄から傾向や結果を予測し、批判的に判断・表現できる。
			内容項目例	内容項目例
			- データの種類や特徴 - 表やグラフなどを用いた可視化の方法 - 分析結果の整理 - PPDACサイクル等のデータ分析のプロセス - モデル化の方法 - シミュレーションの方法	- 必要なデータを判断して収集・整理し、分かりやすく可視化すること - データの妥当性を判断すること - 複数のデータを比較・分析し、結果の意味を解釈すること - データ分析のプロセスを実行し考察すること - 現実の事象をモデル化し、シミュレーションを踏まえて判断すること

資質・能力の全体構造（素案）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	情報Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮
		問題解決に必要な条件や手順を整理し、情報システムを構想・実現できることが、それらの妥当性や改善可能性の判断につながることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、問題の解決策を手順や条件に分解し、それらを組み合わせて情報システムを構想・実現し、評価・改善できる。
	システム開発（仮称） （４）アルゴリズムと	内容項目例	内容項目例
		- 手順と条件に基づいたアルゴリズムの構成・表現・記述する方法 - プログラミングの方法 - データベースの管理 - 小規模なシステムの設計・開発、テスト・デバック - システム・プログラムの改善	- ユーザーへの影響を考慮し、処理の手順や条件を工夫してアルゴリズムを表現すること - システムを開発し、実装結果を分析して改善すること
高等学校	情報Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮
		目的や条件に応じて、情報や情報技術を活用し、プロジェクトを通してその成果を評価・改善することが、実社会における課題解決や価値創造を可能にすることを理解する。	目的や条件に応じて、情報や情報技術を活用し、プロジェクトを通して評価・改善を行い、実社会の課題の解決や価値を創造する方策を考察し表現できる。
	実践 （仮称） （５）PBLによる課題解決の	内容項目例	内容項目例
		- プロジェクト・マネジメントの方法 - 情報デザイン、データ分析、アルゴリズムやシステムの考え方などを組み合わせて、情報を収集・整理・分析し、検証・改善を行う方法	- 生活や社会の課題解決について、他者と協働しながら探究的に進めること - 情報技術を活用して課題解決や価値創造に向けた検証や改善を行うこと - 成果をわかりやすく発信すること

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	- データサイエンスやAI、デザイン、システムなどの理解を発展的に深め技能を身に付ける。 - 情報技術が社会の発展にもたらす影響、関係する法や制度への理解を深める。	生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、論理的・構造的に分析・整理し、根拠に基づいて問題の解決や価値を創造する力を養う。	- 生活や社会を情報の観点から進んで捉え、自ら問いや仮説を立て、多様な他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ね、解決策や表現を考えるとともに次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。 - 包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、社会的責任に配慮して情報技術を活用し、問題の発見・解決や価値創造しようとする情意・感性を養う。

見方・考え方

- 事象を、情報とその結び付きの視点で正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、新たな価値を創造したりすること

資質・能力の全体構造（素案）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	データサイエンス （仮称） （1）社会課題と	統合的な理解	総合的な発揮
		多様なデータを整理・分析して得られる新しい傾向や予測を批判的に考察することが、社会的責任に配慮しながら、妥当性や実効性のある課題解決の方策を見いだすことを可能にすることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、データを整理・分析して導き出した傾向や予測を批判的に考察し、社会的責任を考慮した妥当で実効性のある課題解決の方策を判断できる。
		内容項目例	内容項目例
	（2）コンテンツデザイン （仮称）	- データサイエンスによる課題解決・モデル化やシミュレーション - データハンドリング - データ構造 - プログラミングを用いたデータ処理 - 時系列・テキスト・画像データの分析 - 種類に応じた分析手法 - 複数の分析結果の整理・統合方法	- データや処理方法を判断し、プログラミングにより分析すること - データの信頼性を判断すること - 適切なデータ分析手法を選択し、結果を基に課題の本質を分析すること - モデルやデータ分析を活用して本質を解析し、最適で実行可能な解決策を考察すること
		統合的な理解	総合的な発揮
		人や社会への影響も考慮して情報を吟味・設計・表現し、評価・改善を重ねることが、情報の受け手へのより良い価値の提供を支えることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって最適な理解や行動を促す価値ある作品を設計・表現・吟味し、評価・改善を重ねることができる。
		内容項目例	内容項目例
	（3）AI （仮称）	- 人間中心設計による整理と設計 - 情報構造、画面構成、表現方法などを考慮したコンテンツ設計方法 - ユーザビリティやアクセシビリティなどの観点からコンテンツの評価方法 - 設計・制作・評価・改善を繰り返すプロセスの意義 - プロトタイプを用いて改善を重ねる方法と制作への活用方法	- 人間中心設計の考え方にに基づき、利用場面を想定し、目的に応じた構成や表現を判断して設計すること - 評価や検証の結果を基に課題を分析し、価値を高める改善策を判断すること - ユーザー中心の設計・評価・検証・改善を繰り返し、目的や状況に応じて価値あるコンテンツを制作すること
		統合的な理解	総合的な発揮
		AIの大量の情報から学習する仕組みや予測・生成できる利点と、偏りやバイアスが内在する特性を捉えることが、出力を批判的に評価し、倫理・法・社会の観点を考慮して利点を生かした活用につながることを理解する。	AIの利点や負の側面を捉え、出力を批判的に評価し、倫理・法・社会の観点を考慮して適切に活用できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 機械学習の基本的な仕組み - 学習データ - 教師あり学習と教師なし学習の違い - AIの活用に伴う倫理的・法的・社会的な課題 - データの偏りやバイアスがAIの判断へ与える影響 - AIを安全かつ適切に活用するためのガバナンスの考え方	- AIの特性や限界を踏まえて適切に活用する判断をすること - 目的や課題に応じて教師あり・教師なし学習を選択し、AIを適切に活用する判断をすること - データの構造を踏まえて、AIの学習方法や活用方法を選択すること - AIの正負の両面に配慮し、社会的影響を踏まえて責任ある活用の在り方を考察し表現すること

資質・能力の全体構造（素案）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	情報Ⅱ	統合的な理解	総合的な発揮
		先端技術の試作、検証、改善を重ねて実装される特徴を見だし、その効果を批判的に評価して有効性や限界を判断することが、情報技術の利点を生かし、弊害を抑える活用につながることを理解する。	先端技術を活用した情報システムの効果や働きを、その利点や弊害等に配慮して批判的に評価し、情報技術の有効性や限界を判断して適切に活用評価・改善できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 先端技術の特徴や社会での活用 - 情報技術を組み合わせる新たな情報技術を生み出す方法 - 複数の先端技術を組み合わせたシステム設計 - データ活用、AI処理、インタフェース、ネットワークなどを統合したシステム構築 - システム開発の過程における試作、検証、改善の方法 - ユーザ体験の質や社会的影響を踏まえたシステムの評価方法	- 先端技術の特性を踏まえ、社会課題との関係から活用の可能性を判断すること - 社会課題の解決に向けて先端技術を適切に組み合わせ、機能や制約を考慮しながらシステムを構築すること - 複数の先端技術を組合せたシステムの価値を最適な形で表現・発信し、社会課題の解決につながる提案を考えること
	PBLによる価値創造の実践（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
		目的や条件に応じて、情報や情報技術を活用し、プロジェクトを通してその成果を多面的に評価・改善を重ねることが、実社会における課題解決や価値創造を実現することを理解する。	目的や条件に応じて、情報や情報技術を活用し、プロジェクトを通して価値を創出し、実装後も多面的に評価・改善を重ね、実社会の課題解決や価値創造を実現する方策を考察し表現できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 課題の背景や要因を整理する方法 - データ活用、システム構築、コンテンツ制作等の複数のを組合せた実行方法 - 実行の過程で得られた結果の検証 - 実行と検証を通して課題や改善点を整理する方法 - 他者と協働しながら改善を重ねる意義 - 改善の結果を踏まえた解決策や成果の整理方法	- 課題を多面的に捉え、情報技術の活用を見通した計画を考えること - 情報技術を適切に組み合わせる計画を実行・検証を行い、課題解決に向けた改善点を考えること - 協働的に探究しながら計画・実行・改善を繰り返し、価値ある成果を創造し、情報技術を用いて表現すること

中学校情報・技術科（仮称）で扱う領域の改善イメージ

現状

学校教育法に規定する「情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養う」観点から、現代社会で活用されている多様な技術を四つの領域に整理し、内容を構成

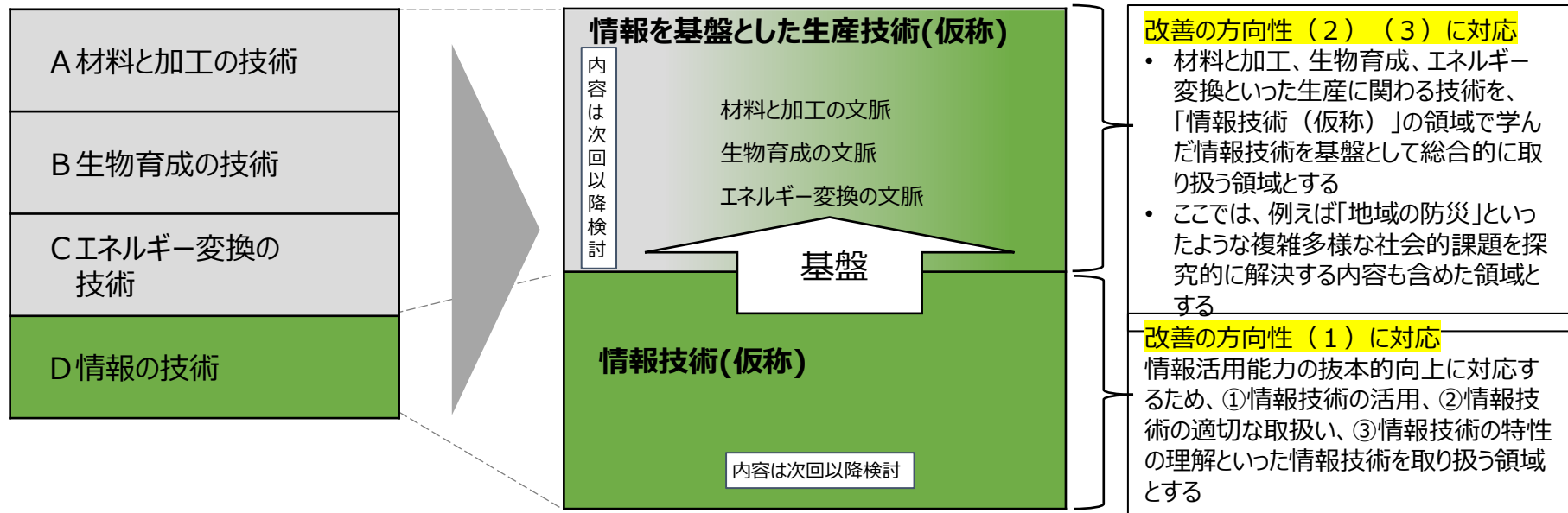
領域設置の考え方

- デジタル技術が急速に発展している中、これからの時代を生きる子供たちは、社会の重要なインフラとなる情報技術をより広範かつ深く学ぶ必要性が格段に高まっており、論点整理も踏まえ、情報技術を重点的に扱う独立の領域を設置する必要
- 一方、情報技術以外の生産技術（現行のA材料と加工の技術・B生物育成の技術・Cエネルギー変換の技術）も、情報技術が生み出す価値を現実の生活や社会で具体化する、引き続き不可欠な技術(※1)
- 生産技術のニーズが情報技術を発展させる側面もあり(※2)、両者は相互に補完しながら豊かな生活や社会を実現する関係にある。社会のデジタル化が進む中、情報技術と生産技術と掛けあわせた学びがより一層重要
- 加えて、生産技術の3領域も、多様化・複雑化する生活や社会の問題に対応できるよう、それぞれを単独で扱うのではなく、横断的かつ探究的に学習(※3)を進めることが不可欠
- 以上を踏まえ、情報・技術科（仮称）では、生産技術を基盤として支える「**情報技術（仮称）**」の領域を設置するとともに、情報のみならず生産技術間も横断して、探究的に学ぶことも重視する観点も踏まえ、「情報を基盤とした生産技術（仮称）」の領域を設置し、2つの領域構成に改善してはどうか

※ 1 例えば、3D CADなどで設計した複雑な形状の部品を3Dプリンタを活用して具現化する

※ 2 例えば、より小型化・軽量化された電子部品を開発することで、それを利用したより高度な計測・制御機器の開発が可能になるなど

※ 3 地域防災などに活用するA・C領域を横断した人命救助ロボットの開発や、作物の育成環境を最適に調整するためのA・B・C領域を横断したスマート農業など



※名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意

中学校情報・技術科（仮称）の内容構成（案）

- 各内容項目の中で技術の学習過程（①技術の原理と仕組み、②技術による問題解決（問題と課題の設定→構想→制作等→評価・改善）、③技術の社会における吟味と活用）を順序性（ア）～（ウ）をもって示すとともに、それぞれの下に個別の「知識及び技能」やそれに対応する「思考力、判断力、表現力等」が列挙される階層構造としてはどうか
- また、学習過程を分かりやすく捉えられるよう、以下の通り見出し化（ア）～（ウ）するとともに、的確な用語で共通性を示してはどうか（※本資料では現行の A 領域を例示しているが、B～D 領域も同様の構成）

現行の内容項目

技術の学習過程は、A～Dの各領域に通底して働く基本的な考え方であるが、現行の記載では、その共通性が必ずしも十分に表現されていない

A 材料と加工の技術

- （１）生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

- ア 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。（知識・技能）
イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。（思考力・判断力・表現力等）

内容項目の見出しが端的でなく学習過程を示す記述もないため、見出しだけでは学習過程（左記であれば、①技術の原理と仕組み）を把握しづらい

- （２）生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

- ア ～個別の（知識・技能）に関する文章～
イ ～個別の（思考力・判断力・表現力等）に関する文章～

- （３）これからの社会の発展と材料と加工の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

- ア ～個別の（知識・技能）に関する文章～
イ ～個別の（思考力・判断力・表現力等）に関する文章～

新しい内容項目（案）

1. 情報技術(仮称)

- （１）計測・制御のプログラミングとシステム化（仮称）**

- （ア）情報技術の原理と仕組み（仮称）**
（イ）情報技術による問題解決（仮称）
（ウ）社会における情報技術の吟味と活用（仮称）

- ※その他の内容項目においても同様の構造とし共通性を表現
※（ア）～（ウ）のそれぞれに個別の（知識・技能）と（思考力・判断力・表現力等）がぶら下がる

（ア）：情報技術に関する原理や法則、基礎的な仕組みを理解する

（イ）：解決すべき課題の設定、解決策の構想・具体化、解決のための制作、解決策の評価・改善をする

（ウ）：（イ）までの学習を通じて、当該情報技術の概念の理解を深め、豊かで包摂的な生活や社会の実現に向けた技術の吟味、選択、管理・運用、改良、応用について考える

- （２）コンテンツとデータ（仮称）** **（３）情報技術の発展と社会（仮称）**

情報活用能力育成の観点から整理した資質・能力の体系性に基づき、必要な内容を漏れなく（１）～（３）の３つの分野に配置

既習の内容を踏まえ、技術の領域や分野にとらわれず、実生活・実社会の課題に対し最適な技術を判断・活用して探究的に解決する内容（※論点整理の改善の方向性（３）に対応）

2. 情報を基盤とした生産技術(仮称)

- （１）材料と加工(仮称)** **（２）生物育成(仮称)** **（３）エネルギー変換(仮称)** **（４）総合実習(仮称)**

高等学校情報科の科目構成の改善イメージ

現状

情報活用能力を全ての生徒に育む共通必修科目としての情報Ⅰと、情報Ⅰで培った基礎の上にコンテンツを創造する力などを育む選択科目としての情報Ⅱを設置

改善の方向性

- 抜本的に充実する中学校 情報・技術科（仮称）に内容を一部移行するが、一方で、高等教育の数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルを概観できるよう内容を充実することを踏まえると、指導内容の分量は現行と大きく変わらないことが見込まれることから、引き続き**情報Ⅰを存置**しつつ、生徒が興味関心をもって学べるよう実践的・探究的な内容を充実させてはどうか
- また、情報Ⅰが共通必修科目となったのは前回改訂時であること、大学入学共通テストに追加されたのは令和 7 年度であることから、**安易な科目構成の変更は現場の混乱を招くことも考慮する必要**

情報Ⅰ

- (1)情報社会の問題解決
- (2)コミュニケーションと情報デザイン
- (3)コンピュータとプログラミング
- (4)情報通信ネットワークとデータの活用

情報Ⅰ

※名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意

【現状】

- 平成30年改訂では、初めての共通必修科目として「情報Ⅰ」を設けられた
- 令和 7 年度入試より、大学入学共通テストに「情報Ⅰ」が追加された

- 情報Ⅰで培った基礎の上に選択科目としての**情報Ⅱを設置**する考え方は維持してはどうか
- その上で、現場のニーズに応じて、**より高度な情報活用能力の育成を図れるようにし**、生徒や地域の実情に応じた**特色・魅力ある教育を実現**するため、情報Ⅱは**各学校において、実社会の課題を探究的に解決する内容を充実**させられるよう(※)、一定の幅の範囲内で**単位数を配当**できることとしてはどうか

情報Ⅱ

- (1)情報社会の進展と情報技術
- (2)コミュニケーションとコンテンツ
- (3)情報とデータサイエンス
- (4)情報システムとプログラミング
- (5)情報と情報技術を活用した問題発見・

情報Ⅱ

※理数探究や総合的な探究の時間も一定の幅の範囲内で単位数を配当する仕組みとなっている。

**教師の指導力向上や環境整備など
指導体制の改善が必要
(※今後のWGで検討)**

【課題】 解決の探究

- 学校や地域の実情によって設置率に大きな格差があると考えられる
- 一方、「情報Ⅱ」を設置している学校には、生徒の特性に応じてさらに**探究的な学びを増やしたい**等のニーズがある

例えば、仮に上限まで配当した場合、地域に実在する課題に対し、データやAIを活用し、ユーザ調査などからシステムの実装、評価まで行うような、応用基礎レベルのPBL学習を長期的に展開できる

高等学校情報科の内容構成の改善イメージ

- 現行の内容構成には以下のような課題が存在
 - 高等教育の数理・データサイエンス・AI教育との関係を踏まえると、AIやデータの扱いについて学ぶ内容が不十分 (①)
 - 探究的・実践的な学びが不十分 (②)
 - 一部内容(ex.情報やコンピュータ等)を複数の項目で扱っているため重複が発生しており、体系的が不明確 (③)
- 内容構成について、現状の課題 (①～③) を改善しつつ、第二回情報・技術WGにおいて整理した体系を基に引き続き扱うべき内容項目を高度化(※)すること (④) を踏まえ、例えば次ページのように組み替えることを検討してはどうか
(※)小・中において抜本的に内容を充実することから、その接続として、高校段階でもより高度な内容を扱える
- なお、情報活用能力育成の抜本的充実として小・中との系統性がより一層重要となることを踏まえ、情報科では引き続き学習内容を基に分類する構成としてよいか

科目構成・内容構成イメージを踏まえた情報Ⅰ・Ⅱの関係性

- 科目構成の改善イメージや内容構成の改善イメージを踏まえた、**情報Ⅰ**と**情報Ⅱ**の各内容項目の関係性は以下のとおり考えられる

(1) 情報の仕組みと社会との関わり (仮称)

中学までの学習の全体とAIの基本と社会とのかかわりを概念的に理解する

(2) 情報デザインとデザイン思考 (仮称)

情報を効果的に伝える手法等を知り、ユーザーを意識した作品制作を学ぶ

(3) データ分析とモデル化・シミュレーション (仮称)

データ分析の基本を学び、問題解決のためのモデルを考えてシミュレーションする

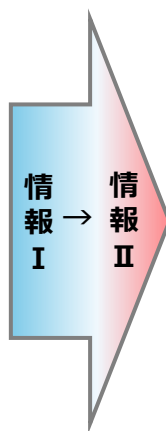
(4) アルゴリズムとシステム開発 (仮称)

ユーザーへの影響を考慮してアルゴリズムを考え、システム開発をする

(5) 情報及び情報技術を活用した課題探究 (仮称)

探究的な学びを通して上記を総合的に発揮する

※名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意



(1) 社会課題とデータサイエンス (仮称)

Ⅰの発展的な内容と社会課題に資するデータサイエンスの手法を深く学ぶ

(2) コンテンツデザイン (仮称)

Ⅰの内容を活かし、設計や評価の手法を学び質の高いコンテンツ制作をする

(3) AI (仮称)

ⅠとⅡ(1)データサイエンスの内容を活かし、大量のデータを扱う機械学習等のAIの仕組み・ガバナンス等を学ぶ

(4) 先端技術と情報システムデザイン (仮称)

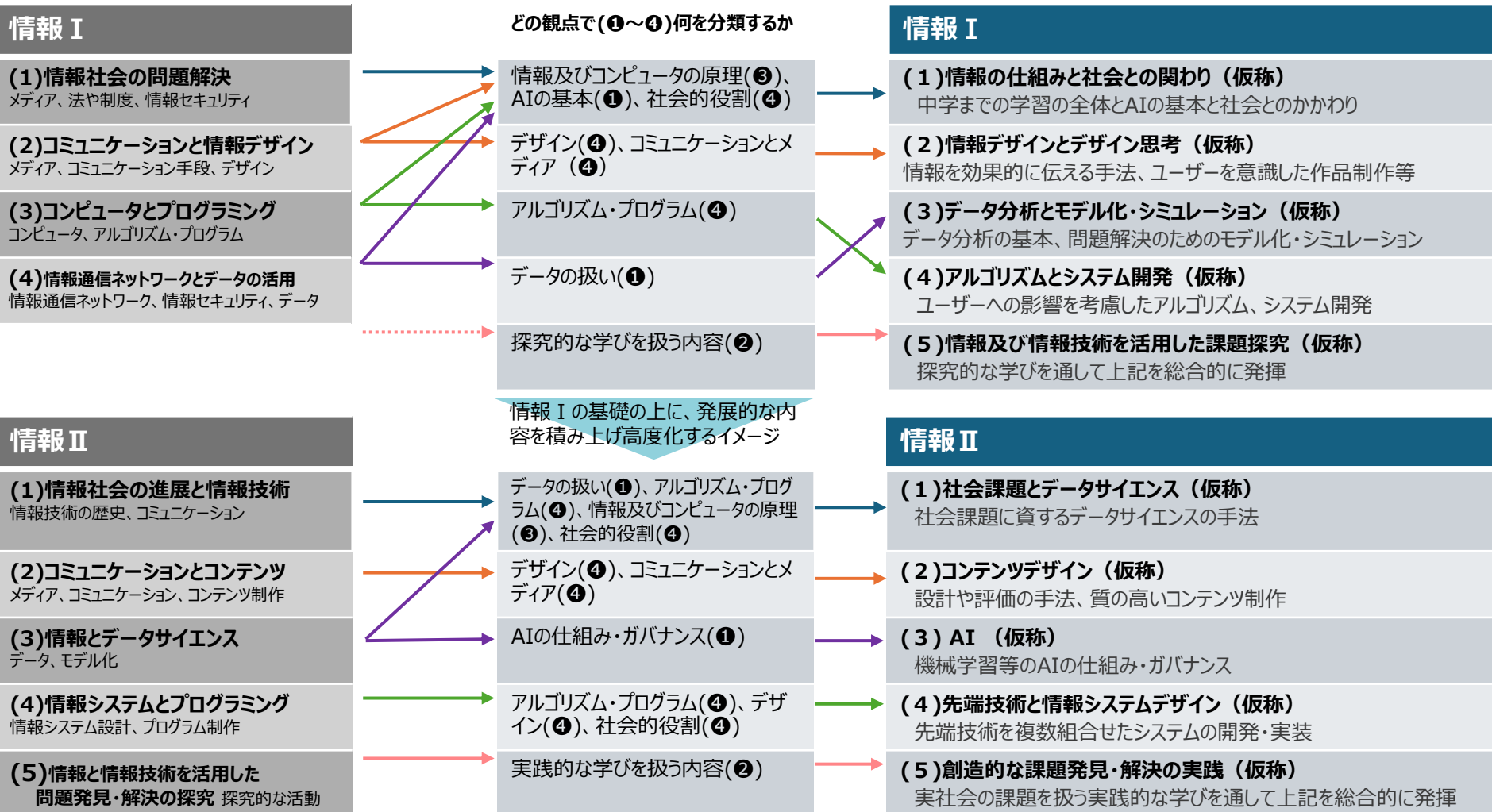
ⅠとⅡ(1)～(3)の内容を活かし、メタバースやAIなどの先端技術を複数組合せてシステムを開発し実装する

(5) 創造的な課題発見・解決の実践 (仮称)

実社会の課題を扱う実践的な学びを通して上記を総合的に発揮する

高等学校情報科の内容構成の改善イメージ図

● 前頁で示した検討の方向性に基づいた内容構成の改善イメージを以下のとおり図示



※高校段階で特に重視する「③情報技術の特性の理解」を中心に学習内容ベースで取り扱う内容を例示

※名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意

情報活用能力として育成すべき資質・能力を体系的に整理するイメージ

- 情報活用能力の学習の基盤としての位置付け、情報活用能力の範囲、情報技術の変動性に留意しつつ、情報活用能力の構成要素別に（情報技術の①活用、②適切な取扱い、③特性の理解）、各学校段階で育成すべき主な資質・能力の例を以下のとおり「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に整理してはどうか

小学校

中学校

高等学校

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等

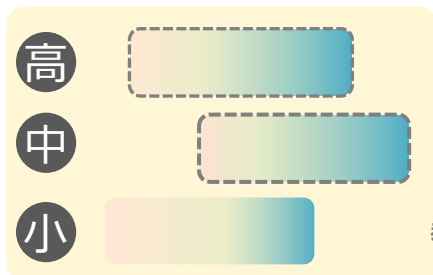
① 課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現 基本的な操作	小学校		中学校		高等学校	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
② 情報技術の適切な取扱い 法や制度 倫理 安全	・多様な情報収集の方法を身に付ける ・情報やデータを整理し傾向を把握する方法を身に付ける ・目的に応じた表現技能を身に付ける ・情報技術の適切な操作を身に付ける	・適切な方法で情報やデータを収集・整理し傾向を明らかにしたうえで、目的に応じて効果的に表現し、身近な課題を解決できる	・効率的な情報収集の方法を身に付ける ・情報やデータの統計的な分析の方法を身に付ける ・複数の情報技術を組み合わせた表現技能を身に付ける	・複数の手段により効果的に収集した情報やデータを統計的に分析し根拠を判断したうえで、適切な情報の加工をもって課題を解決できる	・組み合わせによる効果的な情報収集の方法を身に付ける ・情報やデータを構造化し科学的に分析し論理的に考察する方法を身に付ける ・情報技術を統合した効果的な表現技能を身に付ける	・情報技術の特性や信頼の多面性を踏まえ、情報やデータを統計的・多角的に分析し根拠を判断したうえで、解決策を論理的に構成・適切に表現し、効果的な議論を経て課題を解決できる
	・自他の権利やルール、マナー、セキュリティを理解する ・生活や健康への影響、安全管理を理解する ・メディアにより情報や印象が異なること、誤情報・悪意のある情報もあることを理解する	・権利と責任、ルールとマナー、セキュリティ、情報技術の活用による影響等を踏まえて適切に行動することができる	・権利に係る基本的な法制度や責任を理解する ・倫理的配慮や情報セキュリティの基本を理解する ・心身を含むリスク評価と適切な対処を理解する	・法や倫理等を多面的に考え、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスクを評価して適切に行動することができる	・法・制度の意義や責任を理解する ・倫理的な配慮を踏まえた適切な活用に関し理解する ・情報セキュリティを踏まえたリスクと利便性の評価・管理を理解する	・法・制度の意義や倫理的課題を考察し責任をもつことや、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスク、利便性、信頼性等を評価して適切に行動することができる
	・生成AIを含む情報技術の基本的な仕組みや特性を理解する ・コンピューターに指示するために必要な手順を理解する	・情報技術の特性を踏まえ、プログラミング的思考に基づき、身近な課題の解決策を表現することができる	・情報技術の仕組みを理解する ・AIの仕組みと社会での活用を理解する ・アルゴリズムの理解と構造的な表現方法を身に付ける ・ユーザ視点の情報デザインを理解する ・データの効率的な管理・活用の仕方を身に付ける ・メディア特性が受信・発信に与える影響を理解する ・技術による社会のシステム化を理解する	・情報技術の仕組みや特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、メディアの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における課題を多面的に分析して解決策を構想・表現することができる	・情報技術の原理を科学的に理解する ・AIの特性と課題を踏まえた活用の方法を身に付ける ・アルゴリズムやシステム構築の設計と評価の方法を身に付ける ・ユーザ中心の情報設計・評価の方法を身に付ける ・データの科学的分析・解釈や、モデル化、シミュレーションを理解する ・メディア・ツールの統合・活用の方法を身に付ける ・技術発展の影響を多面的に理解する	・先端技術を含む情報技術の原理や特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、モデリング、シミュレーション、メディア・ツールの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における専門的な課題を分析的に捉えて、解決策を創造的に構想・表現することができる

情報活用能力の育成に係る各教科等の関係

情報活用能力の育成を担う核となる教科等

現行の学習指導要領

指導内容が不十分
小中高校通じた育成体系が不明確



主に情報科で育成

主に技術・家庭科の技術分野の
一領域（情報の技術）で育成

教科等に明確な位置付けがない

デジタル学習基盤が前提となっていない

次の学習指導要領

情報活用能力を体系的に整理し、
主として核となる教科等で育成する
(※)ただし、一部教科では当該教科の資質・能力
育成の観点から引き続き担うものもある



情報科の内容をさらに充実

情報・技術科（仮称）を創設

総合に情報の領域（仮称）を付加

デジタル学習基盤が学習の前提

情報活用能力を体系的に整理・構造化し、育成すべき資質・能力を明確に

核となる教科等以外の各教科等

現行の学習指導要領

各教科等の指導の中で、当該学習活動に必要な情報活用能力のみ取り扱う



例) 小学校 社会 第5学年
聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめることを学ぶ際、コンピュータなどを適切に使って情報を集める技能も身に付けるようにすることが大切とされており（解説）、社会の授業でコンピュータなどを使った情報収集の方法を指導している

次の学習指導要領

情報活用能力は核となる教科等において育成されている前提で、各教科等を指導



左記の例の場合、コンピュータなどを使った情報収集に関する内容は、小学校総合の情報の領域（仮称）で学ぶこととなり、社会ではこれを学んでいる前提で、調べまとめる学習を行える

その他、小学校算数におけるプログラミング教育などもこれに該当

**特別支援教育WGにおける
議論の補足イメージ及び
教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学部	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	児童が、具体的な活動や体験を通して、自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。

見方・考え方

- 社会及び自然などの対象を自分との関わりの視点から捉え、自分自身や自分の生活について考えること。

高次の資質・能力（素案）

	学校・家庭での基本的な生活習慣 （仮）	社会での人とのかかわり （仮）	社会や地域でのくらし （仮）	身近な自然やものはたらき （仮）
	高次の資質・能力	高次の資質・能力	高次の資質・能力	高次の資質・能力
小学部	よりよい毎日の生活を送る上で必要となることを考えて行動する中で、 衛生的で安全な規則正しい生活習慣を確立する力 を身に付けることにより、健康で自立した生活を送ることができる。	身近な人や社会と関わる上で必要となることを考えて行動する中で、社会で他者と円滑に関わる力を身に付けることにより、 人や社会とのつながりをもった生活 を送ることができる。	社会や地域で暮らす上で必要となることを考えて行動したり表現したりする中で、きまりを守って社会資源を適切に利用する力を身に付けることにより、秩序を保った共同的な生活を送ることができる。	物事を論理的に考えたり、分かったことを表現したりする中で、関心をもった事象に自ら働きかける力を身に付けることにより、探究的な学びにつながる生活を送ることができる。

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学部・高等部	職業に対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。	- 生徒自らが、実践的・体験的な活動を通して、知識及び技能を身に付け、それらを活用して職業生活の自立につながるようにする。 - 自分の生活の営み等が地域社会に影響を与えることに気付き、よりよい将来の職業生活の実現に向けて、工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

見方・考え方

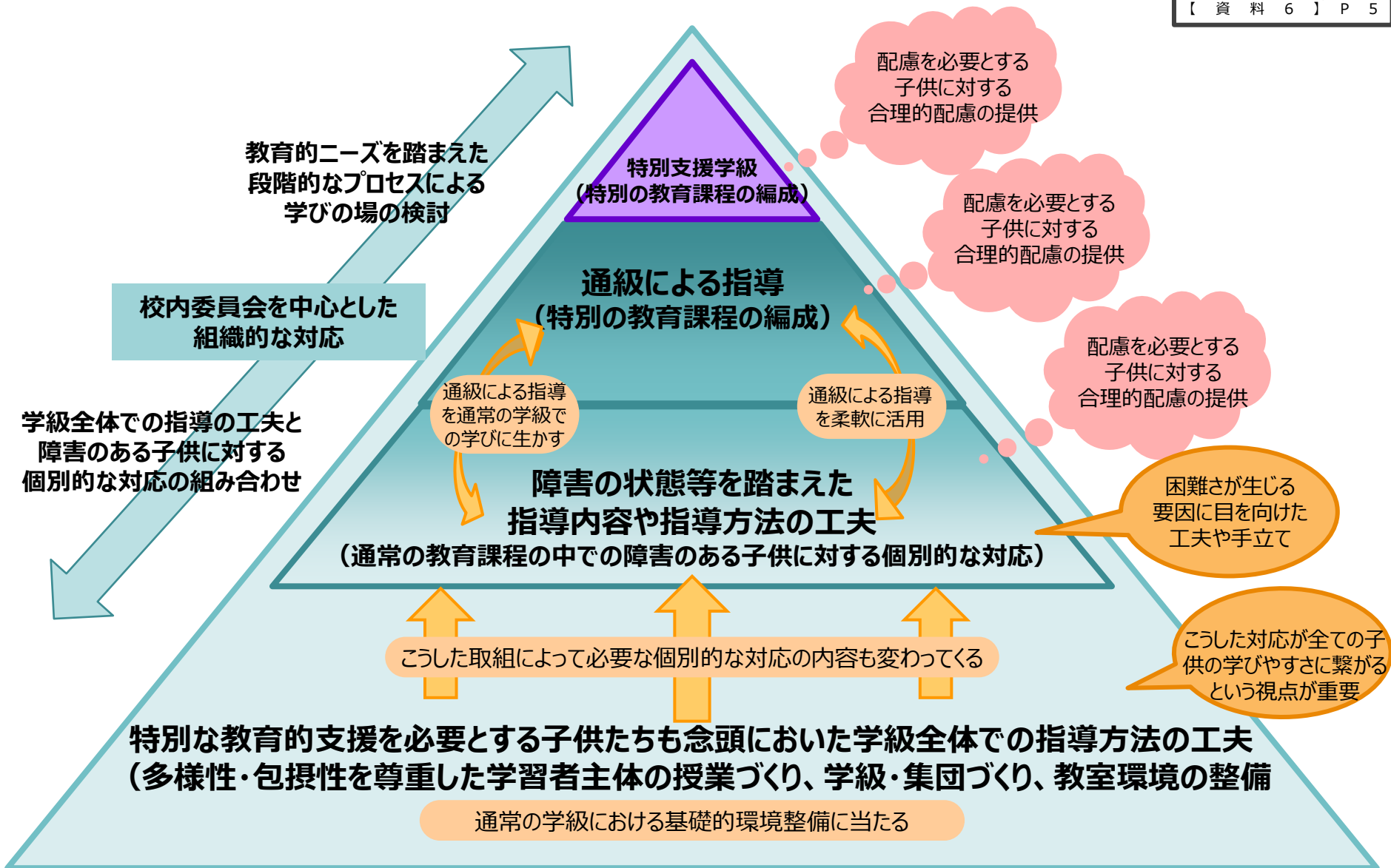
- 職業に係る事象を、職業分野で取り扱う内容と将来の生活や生き方をつなげて考え、よりよい職業生活や社会生活を営むための工夫を行うこと。

高次の資質・能力（素案）

中学部・高等部	A 職業生活		B 情報機器・情報技術の活用（仮）		C 産業現場等における実習	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	働くことの意義や働くために必要な技能についての理解を深め、自己実現を図ったり社会の一員としての役割を果たしたりするために必要な力を身に付けることにより、将来のよりよい職業生活につなげていけることを理解する。	よりよい職業生活を送るために、実際の場面において必要となる事柄を考えるとともに、自分の長所や課題との関係から、工夫したり改善したりすることができる。	情報機器・技術の効果的な活用の仕方や、適切な取扱い、特性の理解について、将来の自立と社会参加につながる力として、理解する。	情報機器・技術の活用を通して情報を集めたり整理したりして、自分の思いや考えを表すことにより、将来の生活と結び付けた情報機器・技術の活用についての自分の課題を解決することができる。	実践的な知識や技能に触れることを通して学習したことを、自分の希望する職業や進路と関係付ける力を身に付けることにより、自分の将来の職業や進路につなげていけることを理解する。	働く人と直接関わった経験を通して、自分の成長や自己の進路について考えたり、考えを表したりする力を身に付けることにより、自分の進路についての課題を解決することができる。

小・中学校に在籍する障害のある子供たちの学習活動の充実に向けた方策 (重層的な指導・支援のイメージ)

令和 7 年 11 月 25 日
特別支援教育WG(第3回)
【 資 料 6 】 P 5

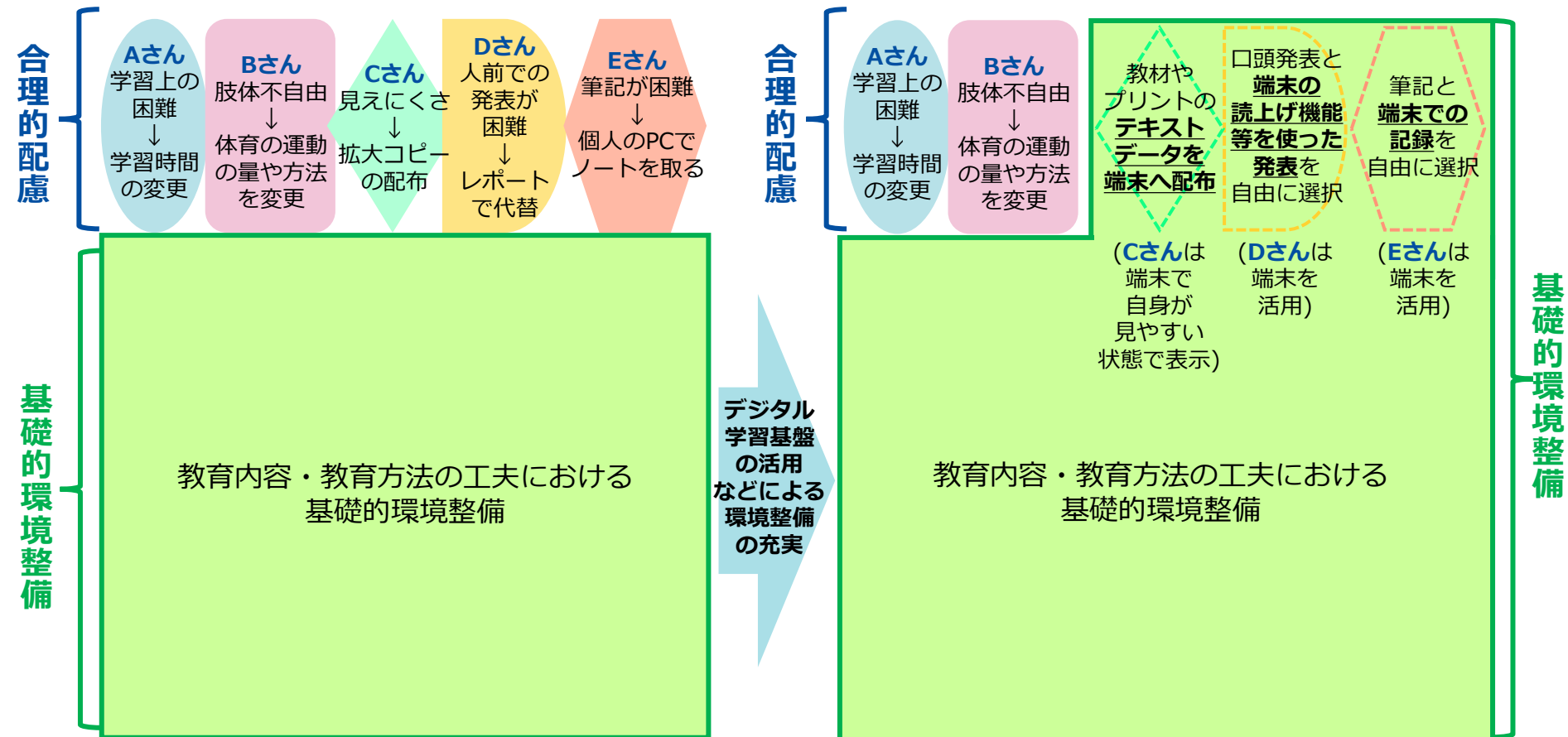


※特別支援学級の対象： 知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、自閉症・情緒障害

通級による指導の対象： 言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、難聴、学習障害、注意欠陥多動性障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱

デジタル学習基盤の活用などによる基礎的環境整備の充実と 合理的配慮の関係（イメージ）

従来、児童生徒への個別の合理的配慮として提供する必要があった支援の中には、1人1台端末などの活用によって誰でも選択可能な学習方法となり得るものもあり、デジタル学習基盤の活用は合理的配慮の前提となる基礎的環境整備の充実に、特に不可欠なものと考えられる。



基礎的環境整備

通級による指導を受ける場合の教育課程の特例的な取扱いの見直し（イメージ）

現行制度

通常の
教育課程

各教科等

通級による指導

通級による指導を
利用する児童生徒
の教育課程
(特別の教育課程)

障害による困難の
改善・克服を目的
とした指導 (※)

各教科等 (通常の学級での授業)

(※) 自立活動の内容を参考として目標・内容を設定。

(特に必要があるときは、障害による困難の改善・克服を目的とした指導を、各教科の内容を取り扱いながら行うことが可能)

通級による指導

通級による指導を
利用する児童生徒
の教育課程
(特別の教育課程)

障害による困難
の改善・克服を
目的とした指導

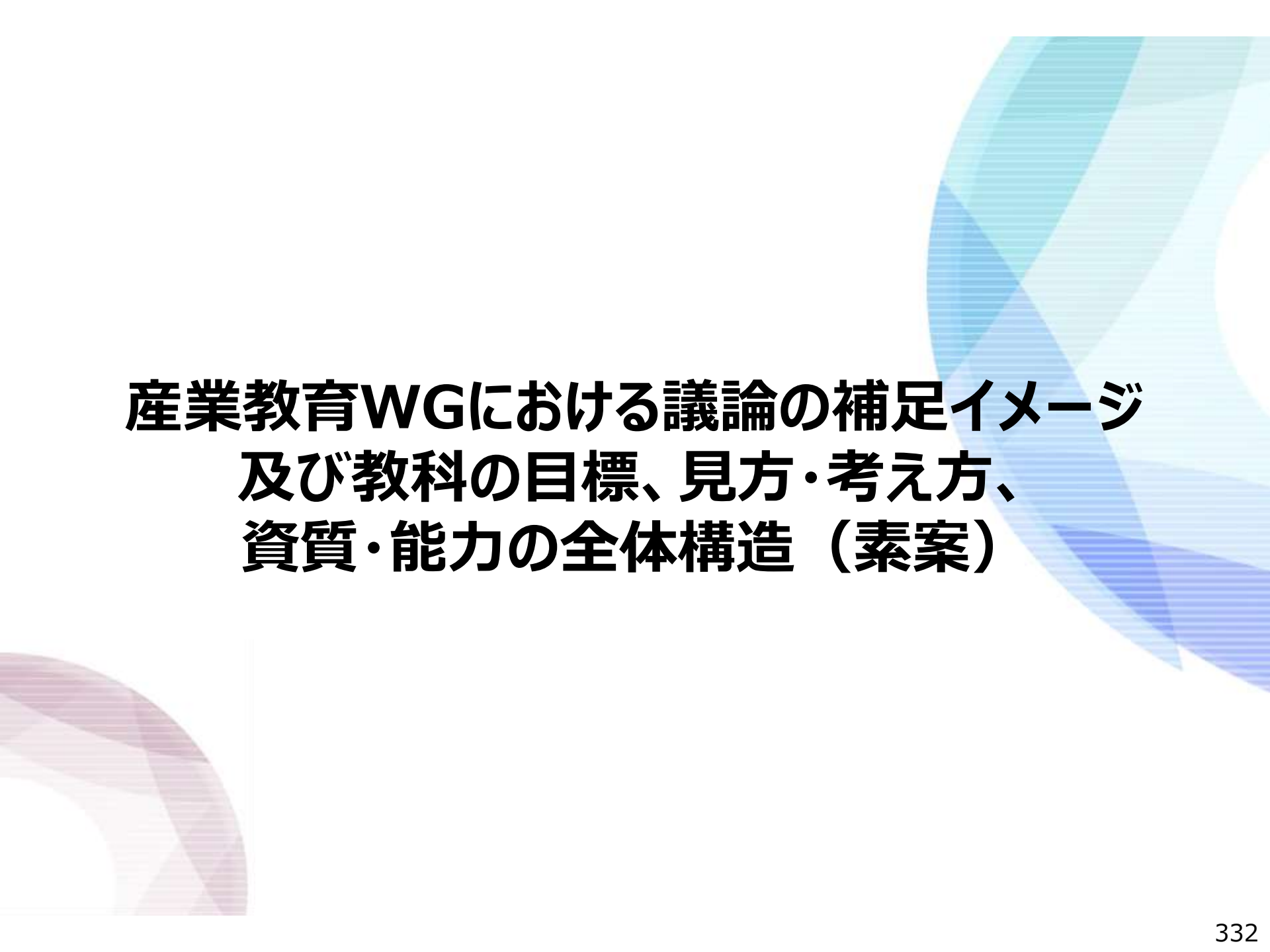
各教科

(障害の状態等を踏まえ
特に必要がある場合)

各教科等 (通常の学級での授業)

検討の 方向性

- 障害による困難の改善・克服を目的とした指導として、自立活動を取り入れることを明確に規定
- 自立活動の指導を実施した上で、特例的な措置として、障害による困難がゆえに学習に遅れをきたしている場合や、障害の特性上、特定の内容について通常の学級では学習が困難な場合に、困難さの状態に対する手立てとして、教師の持ち授業時数の増につながらないよう働き方改革にも留意しつつ、通級による指導において、各教科(※)の指導を行うことも可能としてはどうか。その場合、通級による指導が「一部の時間で障害に応じた特別の指導を実施」するものであることを踏まえ、単に補習的に各教科等の内容を教えるのではなく、あくまで個々の障害による学習上の困難の改善・克服を目的とした指導の一部として行うことを条件としてはどうか ※高校においては各教科・科目
- 合理的配慮の提供の観点も踏まえ、障害の状態等を踏まえ必要な場合には、本人・保護者と十分に意思疎通を図りつつ、各教科(※)の目標・内容の一部を、障害の状態等を考慮したものに替えることを可能としてはどうか ※高校においては各教科・科目
- 特例的な取扱いは、設置者の定めるところにより、校内委員会での組織的な検討を踏まえつつ実施するものと整理してはどうか



産業教育WGにおける議論の補足イメージ 及び教科の目標、見方・考え方、 資質・能力の全体構造（素案）

産業教育の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
産業教育	各職業分野について社会的な意義や役割を踏まえ、体系的・系統的に理解するとともに、各職業分野の発展及び職業人としての自己の成長のために必要となる技能を身に付けるようにする。	各職業分野に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を養う。	① 各職業分野の事象に主体的・協働的に関わり、職業人としての視点から、問いを見だし、よりよい解決に向け追究し続けようとする態度を養う。 ② 職業人としての倫理観と豊かな人間性を育むとともに、社会の一員として産業の発展に寄与し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

見方・考え方

※産業教育の目標、見方・考え方を踏まえ、各教科において更に検討。

- 社会や産業に関する事象を、職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、職業人としての自己の成長と、社会や産業の発展につなげること。

<各教科における見方・考え方の整理>

農業	農業や農業関連産業に関する事象を、生産・環境・資源の統合的な視点で捉え、職業人としての自己の成長と、農業や農業関連産業の持続的な発展につなげること
工業	工業に関する事象を、よりよいものづくりを創出する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、社会の発展につなげること
商業	企業活動に関する事象を、利益の追求と社会的責任の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、ビジネスの持続的な発展につなげること
水産	水産や海洋に関する事象を、海洋資源を持続的に利用する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、水産業及び海洋関連産業の持続的な発展につなげること
家庭	生活産業に関する事象を、生活の質の向上の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、生活産業の発展につなげること
看護	健康に関する事象を、回復の過程を支える視点で捉え、職業人としての自己の成長と、保健・医療・福祉の発展につなげること
情報	情報に関する事象を、情報の構造と動きに着目して、課題解決や価値創造の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、情報及び情報技術を活用したよりよい社会の実現につなげること
福祉	生活に関する事象を、人間の尊厳と自立の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、地域福祉の推進につなげること

		知識及び技能（技術）	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
原則履修科目 （基礎的な科目）	（１）各産業の社会的な意義や役割	産業を継承・発展・創造していくことが、私たちの暮らしをよりよくすることにつながることを理解する。	これからの我が国の各産業の在り方に関する課題を発見し、それらを取り巻く諸問題や今後の可能性について、科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に構想することができる。
	（２）各教科で学習する内容の概括	各産業分野に関する知識や技能を高めていくことが、よりよい産業の継承・発展・創造につながることを理解する。	各産業の各分野に関する課題や成果を発見し、それらを科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に解決、検証することができる。
	（３）教科全体を通じた実践的・探究的な学習	既習事項を活用したり、多様な他者と連携・協働したりすることで、未知の課題に直面しても創造的な解決につなげることができることを理解する。	既習事項を比較したり、結び付けたりすることや、課題の解決に向けて計画したり、発信したりすることで、合理的かつ創造的に解決に向けた選択を行うことができる。

学びの深まりや資質・能力を意識した 主体的・対話的で深い学びの一層の充実のための改善

現 行

第29 建築構造

2 内容

1 に示す資質・能力を身に付けることができるよう、次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

(1) 建築構造の概要

知識・技術

思・判・表

(2) 建築材料

・
・
・

知識・技術

思・判・表

改善イメージ

(現行学習指導要領をもとにしたイメージ)

第29 建築構造

2 内容

(1) 建築構造の概要

建築物の構造について、技術の進展に対応した建築物の構法や構造の種類、歴史的な発達過程と特徴に着目し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 建築物の構造について、建築構造の種類と特徴を踏まえて理解すること。

イ 建築物の力学的な特性に着目して、建築物の構造に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善すること。

(2) 建築材料

建築材料について、種類と特徴、規格と性能に着目し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 建築材料について、種類と特徴、規格と性能を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。

イ 物理的・化学的性質と用途に着目して、建築材料に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善すること。

各教科における、各領域・分野における学びの体系の整理

現行

原則履修科目【課題研究等】

卒業年次に履修

選択履修科目（その他専門科目）

領域・分野

領域・分野

領域・分野

...

原則履修科目【基礎的な科目】

入学年次に履修

改善案

原則履修科目【課題研究等】

履修学年の規定の削除（実践的・探究的な学びの積み重ね）

選択履修科目（その他専門科目）

領域・分野

領域・分野

領域・分野

学習の深まり・積み重ね

学習の深まり・積み重ね

学習の深まり・積み重ね

...

領域・分野の整理、学びの関連性・可視化

原則履修科目【基礎的な科目】

入学年次に履修

原則履修科目（基礎的な科目）の目標（素案）

目標			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
基礎的な科目	各職業分野について社会的な意義や役割を踏まえ、体系的・系統的に理解するとともに、各職業分野の発展及び職業人としての自己の成長のために必要となる基礎的な技能を身に付けるようにする。	各職業分野に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する基礎的な力を養う。	① 各職業分野の事象に主体的・協働的に関わり、職業人としての視点から、問いを見だし、よりよい解決に向け追究し続けようとする態度を養う。 ② 職業人としての倫理観と豊かな人間性を育むとともに、社会の一員として産業の発展に寄与し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

※産業教育の目標を踏まえ、各教科・科目において更に検討。

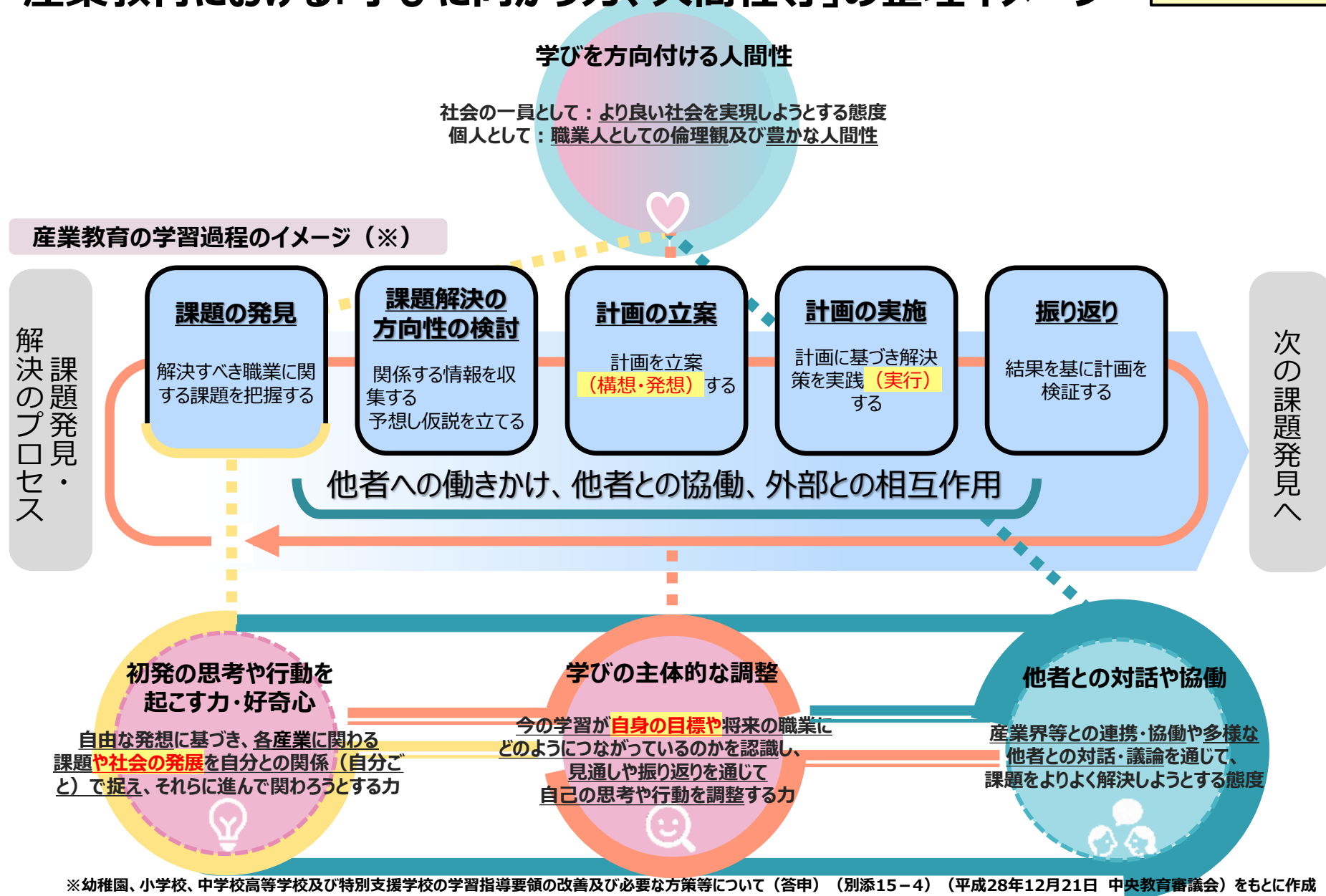
職業教科・科目の全体構成

（科目構成は現在検討中であるため、現行学習指導要領における科目を前提とした整理）



※各教科の原則履修科目（基礎的な科目）

産業教育における「学びに向かう力、人間性等」の整理イメージ



職業に関する各教科における原則履修科目（基礎的な科目）の資質・能力ベースでの記述の柱立てのイメージ

3つの柱立てのイメージを踏まえ、各教科の学習内容の状況に応じて指導項目を柔軟に設定。

（1）各産業の社会的な意義や役割

〇〇（産業名）が私たちの暮らしに果たしている役割について、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）〇〇（産業名）は、環境や文化と密接に関わりながら発展してきたことを理解すること。

（イ）〇〇（産業名）を支える技術の特色を理解すること。

（ウ）環境や自然、生活や文化との調和など、〇〇（各産業）の動向について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）これからの〇〇（各産業）の在り方について、実践的・探究的な活動を通して考察すること。

（2）各教科で学習する内容の概括

〇〇（産業名）及び〇〇関連産業について、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）●●（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

（イ）■（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

（ウ）◆◆（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）□□に関する課題について、科学的な根拠をもって探究することを通して、合理的、創造的に解決策を見いだして表現すること。

（3）教科全体を通じた実践的・探究的な学習

実践的・探究的な学習を進めることについて、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）実践的・探究的な学習の方法と進め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）自分で課題を立て、科学的な根拠をもって探究し、表現すること。

※本記述はイメージであり、今後本柱立てのイメージをもとに各教科においてさらに検討。